

第67回全道造形教育研究大会 釧路大会

研
究
主
題

わたしをつなぐ 造形活動の時間

～想いを豊かに育む造形活動の展開～

期日 平成29年

7月27日(木)

会場

釧路市立共栄小学校

主催 北海道造形教育連盟/釧路造形教育研究会

主管 第67回全道造形教育研究大会釧路大会実行委員会

後援 北海道教育委員会/釧路市教育委員会

釧路管内町村教育委員会連絡協議会/釧路市私立幼稚園連合会

第 67 回 全道造形教育研究大会 釧路大会

研究主題

わたしをつなぐ造形活動の時間

～想いを豊かに育む造形活動の展開～



期 日 平成 2 9 年 7 月 2 7 日 (木)

会 場 釧路市立共栄小学校
釧路プリンスホテル (参加者交流会・閉会式)

【主催】北海道造形教育連盟／釧路造形教育研究会

【主管】第 67 回全道造形教育研究大会釧路大会実行委員会

【後援】北海道教育委員会／釧路市教育委員会

釧路管内町村教育委員会連絡協議会／釧路市私立幼稚園連合会

CONTENTS

目 次

会 長 挨 拶.....	3
阿部 時彦（北海道造形教育連盟会長）	
実行委員長挨拶.....	4
小野三枝子（釧路造形教育研究会会長）	
祝 辞.....	5
鈴木 淳（北海道教育庁釧路教育局局長）	
林 義則（釧路市教育委員会教育長）	
大会日程・内容.....	7
会場図.....	8
公開授業・課題別分科会.....	9
講演者プロフィール.....	10
北海道造形教育連盟の研究.....	11
釧路造形教育研究会の研究.....	17
大会指導案.....	27
提 言 集.....	43
各地区サークル活動報告.....	59
資料 ～連盟規約・研究大会のあゆみ・名簿～.....	73
協賛広告.....	83

□大会シンボルマークデザイン

北海道釧路東高等学校 3年 加藤 乃 愛



ご挨拶

北海道造形教育連盟

会長 阿部 時彦

「わたしをつなぐ造形活動の時間」～想いを豊かに育む造形活動の展開～を研究主題に、第67回全道造形教育研究大会釧路大会が全道各地から参加の皆様とともに、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また大会開催にあたり、ご支援いただきました北海道教育庁釧路教育局、釧路市教育委員会、釧路管内の関係の皆様、ご尽力いただきました釧路造形教育研究会、会場校の皆様方に深く感謝申し上げます。

さて、今年の3月に幼稚園の新教育要領、小中学校の新学習指導要領が告示され、幼稚園は30年度、小中学校は移行期間を経てそれぞれ32年度、33年度より全面实施となります。高等学校の新学習指導要領については今年度末に告示され34年度より全面实施される予定になっています。

今回の改定については、「何のために学ぶのか」という学習の意義を学習者も教師もしっかり共有し、「何を学ぶか」「何ができるようになるのか」をより明確にすることで資質・能力の三つの柱「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」を確実に育むことができるようにしようというものです。そのために「どのように学ぶか」という点から「知識の理解の質を高め資質・能力を育む『主体的・対話的で深い学び』の実現」、すなわち学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるよう、学校教育における質の高い学びを実現できるよう授業の改善を目指すものです。

特に『主体的・対話的で深い学び』、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の言葉が大きく取り上げられたため本質を見失いそうになりますが、これらのことは、これまでの学校教育で育まれてきたものと異なる全く新しいものということではなく、長年その育成を目指してきた「生きる力」を改めて捉え直していくことです。私たちが造形教育の中で考え、実践してきたことは何も間違っていないし、今回の改定により近いところを進んできた実感しています。

改めて10年前の第57回全道造形教育研究大会釧路大会の研究紀要を拝見いたしました。主題説明文の中に次のような言葉がありました。“子ども達は「美しさ」に出会うことで心を動かされる。その「感動」を原動力として自分自身で何かをつくり出し「つくる喜び」を味わう。そして、何かをつくりたいという欲求から夢中になって取り組み、「つくる喜び」を味わい、自分自身の満足感や達成感と共に他からの評価に新たな「感動」をおぼえる。学習指導要領では「自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題解決する資質や能力」や「何に価値を見だし、どのように生きるか」を大切に活動を進めていくことが必要だと述べている。これらは、図工・美術の活動の中で、子ども達が「美しさ」に出会い、それに直接かかわっていくことで繰り返される五感と心の動きによって育まれていく。つまり、「つくる喜び」と「感動する心」は、まるで呼吸のように無意識に循環しながら、子ども達の中で高まっていくものなのである。”この部分は、今回の研究主題にもつながっているのではないかと感じます。

ご参会の皆様には、新たな課題が提示されている中で、造形教育の本質を体感いただき、大会の成果を通し、子ども達の「生きる力」の育成に向け、今後の表現、図工、美術の実践に活かしていただくことを願いご挨拶といたします。



ご挨拶

釧路造形教育研究会

会長 小野 三枝子

広大な釧路湿原を望むここ釧路市において、10年ぶりに全道造形教育研究大会を開催できますことを大変うれしく思います。釧路管内においては、年々児童生徒数の減少が進み、それに伴って美術教員の数も減少し、免許外で美術を指導をされている先生方もいます。そのような状況だからこそ、本研究大会が道東地域の先生方に造形教育への理解と授業実践を提案できるよい機会と捉えています。全道各地からお越しになる造形教育に関心と情熱をお持ちの先生方からたくさんの実践報告や助言、示唆を与えていただくことにより、充実した価値ある研究大会にできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、今年の3月に新指導要領が告示されました。図画工作科・美術科においても、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの視点で育むべき資質・能力を明確にした目標となりました。今回の改訂を機に、各学年の系統性を踏まえ、目標に応じた授業のあり方が一層重要になってくると考えます。

また、北海道造形連盟では、これからの時代に必要な汎用的な資質・能力を造形教育でいかに育ていくかを想定し、研究主題を「“わたし”を創る～今を生きる、共に生きる造形教育～」と設定しました。釧路大会では、その趣旨を踏まえ、大会研究テーマを「わたしをつなぐ造形活動の時間～想いを豊かに育む造形活動の展開～」としました。わたしを創るためには、周りのものやこと、想いをつないだ学びをデザインし、そこから創造性や感性を育むことが大切ではないかと考えたからです。表現と鑑賞の関連を図る題材の工夫で「学びをつなぐ」こと、試行の場を設定し子ども自身が表したい「想いをつなぐ」こと、そして他者と協働する場を設定し自分の価値意識を育む「他者につながる」こと、この3つの観点で授業改善を図ることとしています。

最終的には子ども自身が自分の想いを膨らませ、もっている力を精一杯発揮しながら造形活動に取り組んでいるときこそ、目指すべき造形的な創造性や表現力、豊かな感性が高まっているのだと思います。そのようなつくりだす喜びを味わうための題材設定や場の設定、指導の工夫を大切にしたい授業を目指したいものです。

本大会は、実行委員30名ほどの少人数で準備を進めて参りました。そのため不備なところも多々あるかとは存じますが、本道の造形教育に多少なりとも寄与できればという思いで一同努力してまいりました。その思いをお酌み取りいただければ幸いです。

結びになりますが、今回の研究大会開催に際しまして、北海道教育委員会様、釧路市教育委員会様、釧路管内町村教育委員会様、さらには各関係機関の皆様、深いご理解と多くのご支援をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。また、北海道造形連盟の役員並びに会員の皆様方からの暖かいご支援にも感謝申し上げます。実行委員会を代表しての挨拶といたします。



第 67 回全道造形教育研究大会釧路大会の開催を祝して

北海道教育庁釧路教育局

局 長 鈴 木 淳

国の特別天然記念物であるマリモが生息している阿寒湖やラムサール条約に登録されている釧路湿原など全国で唯一、2つの国立公園を有し、「世界三大夕日」に数えられる色鮮やかな夕日に包まれるここ釧路市において、第67回全道造形教育研究大会釧路大会が全道各地から多数の先生方をお迎えし、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、長年にわたり、全道各地において研究大会を開催し、授業公開や研究協議を通して実践の交流を図るなど、組織的に研究を積み重ねられ、本道の造形教育の充実・発展に多大な貢献をいただいておりますことに深く敬意を表します。

さて、3月に新しい学習指導要領が告示されました。新しい学習指導要領では、全ての子どもが、急速に変化し、予測不可能な未来社会において自立的に生き、社会の形成に参画するために必要な資質・能力を全ての子どもに一層確実に身に付けさせるため、カリキュラム・マネジメントや「主体的・対話的で深い学び」の実現などが重視されております。

とりわけ、図画工作科、美術科、芸術科（美術・工芸）においては、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することなどについて、一層の充実が求められます。

そのため、各学校においては、表現の学習において発想や構想することや創造的な技能を働かせること、また、鑑賞の学習において作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことなどが、それぞれの学習過程の中で、知識を得たり結び付けたり活用したりしながら、相互に関連して働くように学習活動を工夫することにより、資質・能力を効果的に育成することが重要です。

このような中、本研究大会が「わたしをつなぐ造形活動の時間～想いを豊かに育む造形活動の展開～」を大会研究テーマ・研究主題に掲げ、幼稚園、小・中・高等学校での公開授業や研究協議を通して、造形教育における今日的な課題について研究を深められますことは、大変意義深く、多くの成果が得られるものと確信しているところです。

御参会の皆様には、本大会で示された先進的な取組を各学校における日常実践に積極的に活用され、造形教育の一層の充実に努めていただくよう御期待申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力いただいた関係者の皆様に心から敬意を表しますとともに、北海道造形教育連盟及び釧路造形教育研究会のますますの御発展並びに御参会の皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



第 67 回全道造形教育研究大会釧路大会の開催を祝して

釧路市教育委員会

教育長 林 義 則

この度、第 67 回全道造形教育研究大会釧路大会が、全道各地から多数の関係者をお迎えして当市で開催されますことに、心よりお祝いとご歓迎を申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、これまで数々の優れた研究実践に取り組み、本道の造形教育の充実・発展のために先導的かつ中心的な役割を果たしてこられました。そのご功績に対しまして、深く敬意を表します。

さて、子どもたちを取り巻く社会・環境が急速に変化する中、とりわけグローバル化する社会を生きる上で、知性と感性の両面で調和のとれた人間性を育むことは、これからの教育において一層重要視されております。

また、芸術を愛好する心情と美に対する幅広い感性を養い、児童生徒一人ひとりの豊かな情操を培うことを目標とする造形教育は、未来の担い手である子どもたちにとって、ますます大きな役割を果たすものと考えられます。

さらに、造形教育を通して育まれた感性は、他の教科・領域においても、知的好奇心を伴った主体的な学びと深い探究、そして、より確かな理解へと発展する原動力となるものであります。

10 年ぶりとなる今回の釧路大会では、研究主題に「わたしをつなぐ造形活動の時間」を掲げ、児童生徒一人ひとりの想いを豊かに育む学習活動を通して、子どもたちが主体的に、伸び伸びと創造性を発揮しながら創作する喜びを味わう授業づくりを広く全道に向けて発信されますことは、まさしく時宜を得たものであります。また、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官であられる岡田京子氏によるご講演では、最新情報を交えながら、今後求められる造形教育について、多岐にわたる貴重なご示唆を頂けるものと確信しております。

次期学習指導要領への移行を目前に控えたこの時期に、本研究大会の成果が全道各地に広がり、人間形成に寄与する素晴らしい造形教育が展開されますことを心からご期待申し上げます。

結びになりますが、本研究大会を開催するにあたり、ご尽力を賜りました関係の皆様へ深く敬意を表しますとともに、北海道造形教育連盟のさらなるご発展と研究大会のご成功をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

大会日程・内容

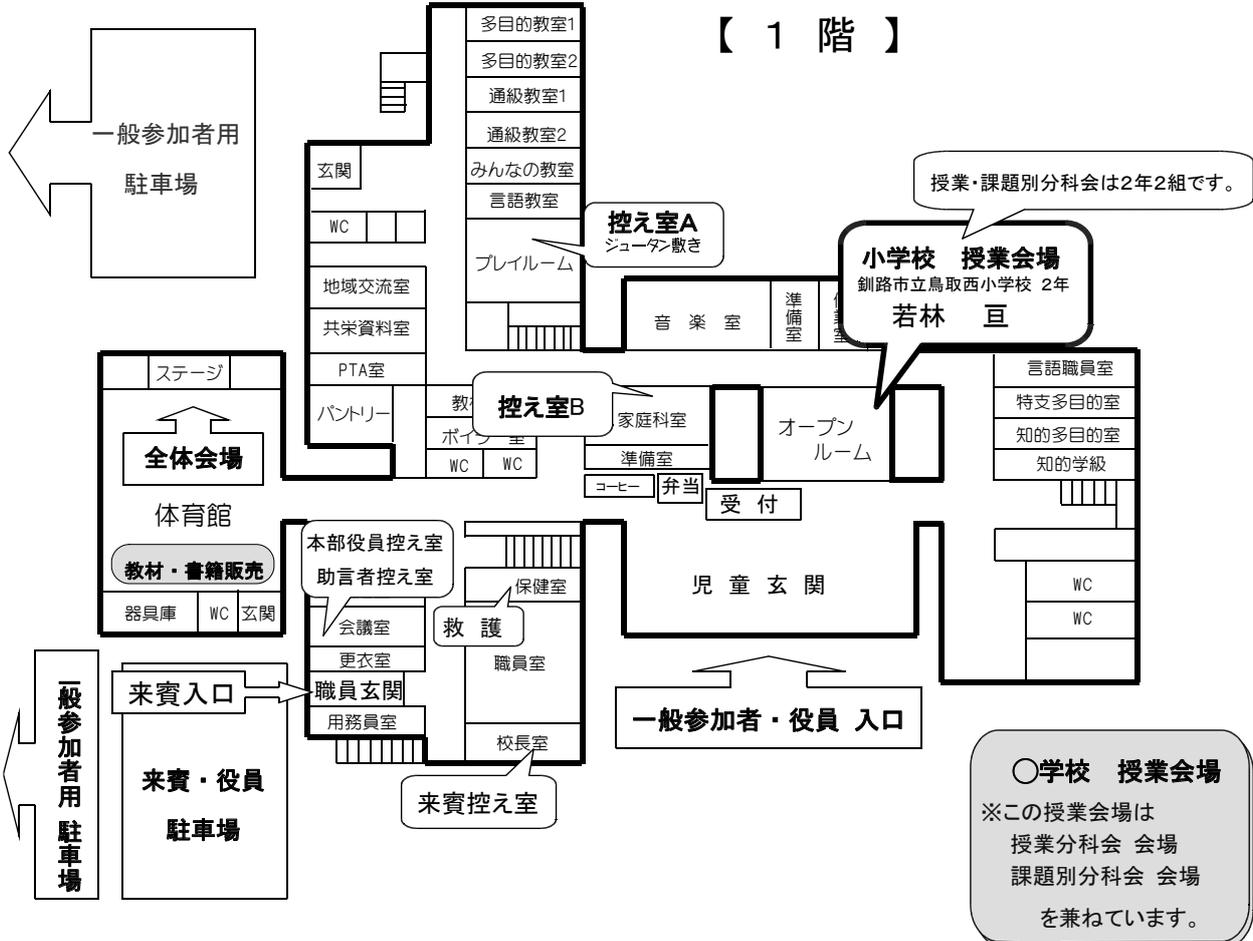
7月27日(木)

8:30～ 受付	9:00～ 公開授業	9:50～ 移動	10:10～ 開会式・全大会	11:00～ 講演
受付	9:45 ① 想いをつなぐ 認定こども園 年長 「ぼくたち わたしたち の よしの園の一日」 2階 視聴覚室	移動	開 会 式 ・ 全 体 会 (体 育 館)	講 演 「新学習指導要領とこれからの表現や鑑賞」 岡 田 京 子 氏 文部科学省 教科調査官 (体 育 館)
	② 想いをつなぐ 小学校 2年生 「ようこそ！光の国へ」 1階 オープンルーム			
	③ 想いをつなぐ 小学校 6年生 「ことばから広がる世界」 2階 工作室			
	④ 他者をつなぐ 小学校 6年生 「名画の中に入ってみたら」 2階 4年2組			
	9:50 ⑤ 他者をつなぐ 中学校 1年生 「和をつなげよう」 2階 1年1組			
	⑥ 学びをつなぐ 中学校 2年生 「一步踏み出すための靴」 2階 1年2組			
	⑦ 学びをつなぐ 高等学校 3年生 「ことばのイメージ」 2階 3年2組			

12:30～ 昼食	13:30～ 授業分科会	14:45～ 休憩	15:00～ 課題別分科会	16:00～ 移動	18:00～
昼 食	① 想いをつなぐ 認定こども園 年長 「ぼくたち わたしたち の よしの園の一日」 授業者:加藤史絵、澤原 大 提言者:安田みゆき 助言者:山崎正明 2階 2年1組	移動			参加者交流会 閉会式 (釧路プリンスホテル)
	② 想いをつなぐ 小学校 2年生 「ようこそ！光の国へ」 授業者:若林 亘 提言者:中島 愛 助言者:泉 大吾 2階 2年2組				
	③ 想いをつなぐ 小学校 6年生 「ことばから広がる世界」 授業者:日野道子 提言者:岩崎愛彦 助言者:阿部宏行 2階 工作室				
	④ 他者をつなぐ 小学校 6年生 「名画の中に入ってみたら」 授業者:高野恵輔 提言者:藤下昌世 助言者:佐々木宰 2階 4年2組				
	⑤ 他者をつなぐ 中学校 1年生 「和をつなげよう」 授業者:橋本加会 提言者:宮田玲二 助言者:花輪大輔 2階 1年1組				
	⑥ 学びをつなぐ 中学校 2年生 「一步踏み出すための靴」 授業者:更科結希 提言者:九千房政光 助言者:平向功一 2階 1年2組				
	⑦ 学びをつなぐ 高等学校 3年生 「『喜・怒・哀・楽』を動かす」 授業者:上野秀実 提言者:竹本万亀 助言者:石塚耕一 2階 3年2組				

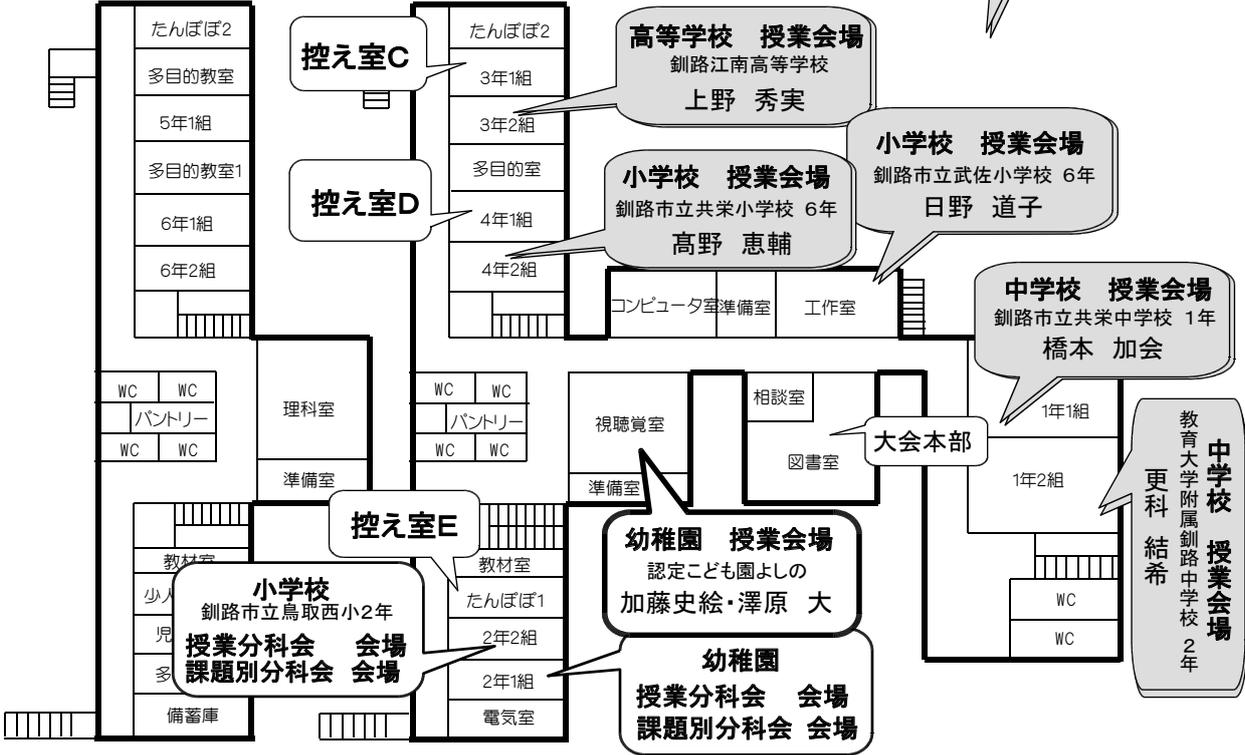
釧路市立共栄小学校 会場図

【 1 階 】



【 3 階 】

【 2 階 】



公開授業・課題別分科会

テーマ	番	学年 学級	題材名	授業者	提言者	助言者
想いを つなぐ	I	年 長	ぼくたち わたしたちの よしの園の一日	認定こども園よしの 加藤史絵 澤原大	北海道キリスト教学園 湖畔幼稚園 教諭 安田みゆき	北翔大学 教授 山崎正明
	II	2年生	ようこそ! 光の国へ [造形あそび]	釧路市立鳥取西小学校 若林 亘	厚岸町立厚岸小学校 教諭 中島 愛	北海道立教育研究所 企画・研修部 主査 泉 大 吾
	III	6年生	ことばから広がる 世界 [表現・鑑賞 絵で表す]	釧路市立武佐小学校 日野道子	日高町立日高小学校 教頭 岩崎愛彦	北海道教育大学岩見沢校 教授 阿部宏行
他者と つなぐ	IV	6年生	名画の中に 入ってみたら [表現・鑑賞 立体で表す]	釧路市立共栄小学校 高野恵輔	斜里町立ウトロ義務教育学校 教諭 藤下昌世	北海道教育大学釧路校 教授 佐々木 幸
	V	1年生	和をつなげよう [表現・鑑賞 デザイン]	釧路市立共栄中学校 橋本加会	根室市立齒舞中学校 教諭 宮田玲二	北海道教育大学札幌校 准教授 花輪大輔
学びを つなぐ	VI	2年生	一步踏み出すための 靴 [表現・鑑賞 立体で表す]	北海道教育大学附属釧路中学校 更科結希	北斗市立浜分中学校 教諭 九千房政光	札幌大谷大学 准教授 平向功一
	VII	3年生	ことばのイメージ ～ミニマル・アニメーション～ [映像メディア表現]	北海道釧路江南高等学校 上野秀実	北海道釧路東高等学校 教諭 竹本万亀	東海大学 教授 石塚耕一



講演

講師

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

岡田京子氏

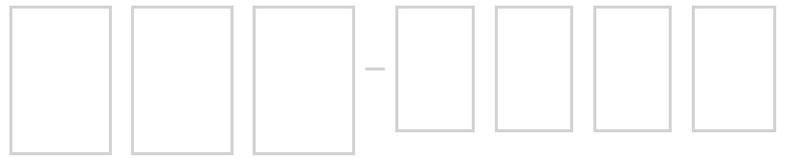
プロフィール

東京都公立小学校教諭、主任教諭、文部科学省学習指導要領解説図画工作編作成、評価基準の作成のための参考資料、特定の課題に関する調査などに携わり、平成23年より現職。著書には「成長する授業」「わくわく図工レシピ集」、「子どもスイッチ ON!! 学び合い高め合う造形遊び」（東洋館出版）など多数。

演題

「新学習指導要領とこれからの表現や鑑賞」

MEMO



北海道造形教育連盟の研究



見えない未来を
生き抜く子ども

知識基盤
社会の中の
造形教育

1 研究主題設定の背景

急速に進む超少子高齢化と人口減少社会を迎えた現在、社会・経済的、文化活動が地球規模で拡大し様々な影響を及ぼすグローバル化の大波にも晒されている。

さらに、23年3月11日の東日本大震災以降、未曾有の自然災害や原発事故、エネルギー資源の有限化などの社会状況の変化の中で、未来を担う子どもたちにはこれまで経験したことない新たな課題を見出し、それらの最善解を生み出す力が求められるだろう。

「2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」という、米デューク大学の研究者であるキャシー・デビッドソン氏が2011年8月、ニューヨークタイムズ紙のインタビューで語った予測が波紋を呼んだことも記憶に新しいところである。

今を生きる子どもたちが、これらの時代に求められる「生きる力」を確実に身に付け、一人一人の可能性を最大限に伸ばすよう、育成すべき「資質・能力」及びそのための「教育目標・内容」、「評価」の在り方を明確にする必要が学校教育に求められている。

「ゆとりからの脱却」と言われた、平成14年度の指導要領の改定では図工・美術の年間指導時数は小学校高学年では70から50時間（-20時間）に、中1では70から45時間（-25時間）に、中2では70（含む選択授業）から35時間（-35時間）と大幅に削減された。

造形教育を担う私たちは、知識基盤社会と言われ学力の向上が教育界の命題となっている今だからこそ、表現・図画工作・美術・工芸といった造形教育が今教室で生き、未来に社会で生きる子どもたちに培うことができる「資質・能力」を明確に意識し、一つ一つの授業の中で「目標と評価」を位置付けることを通して、教科としての造形教育の存在意義を主張していくことが、子どもたちのために必要であると考えます。

では、知識基盤社会の中で造形教育が育むことができる「資質・能力」とはどんなことであろうか。教育学者である上智大学の奈良正裕氏は著書「教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり」(2015年)の中で次のように述べている。

図画工作の「材料を基に造形遊びをする」では、あらかじめの意図や計画ではなく、材料との間にその都度生じるたぶん偶発的な出会いと、その子どもによる闊達自在な必然化や絶えざる繰り返しにより、美的な創造の営みが展開されていく。そこでは、本来異なるカテゴリーに属するもの同士を独自の視点や理路により大胆に「つなげる」「見立てる」「たとえる」といった思考の様式、かつてレヴィ＝ストロースが「野生の思考」と呼んだものが豊かに作動している。要素技術の思いもかけない新領域への適用や限られたリソースを駆使して高い付

造形活動に
内在する
知識基盤社会を
生きる「知」

加価値を有する商品開発をする場合など、知識基盤社会での新たな知や価値の創造において、この「野生の思考」が豊かに発揮され、目覚ましい成果を挙げていることは疑いの余地がない。それは産業社会を支えてきた近代合理主義に基づく一方的で等速直線運動的な発想や構想の様式とはすっかり異なるものであり、従来の学校教育がおよそ明晰な意図をもってしっかりと育ててこなかった類いの思考と言えよう。

造形遊びに潜在するこのようなコンピテンシー育成の可能性について、当の図画工作科が十分に自覚的でなく、現状ではそこで培われている豊かな発想・構想の力が美的造形以外の対象にも発動されることを想定しきれていないのは、何とももったいないことである。もし、この可能性が十分に追求され、さらに応分の成果を確認されたならば、図画工作科にはその成果に応じた時数を含むリソースの確保が検討されてしかるべきであろう。

フランスの文化人類学者クロード・レヴィ＝ストロースは、その著書「野生の思考」(みすず書房 1976 年)の中で、素材や技術の思いもかけない新領域への適用や限られたリソースを駆使して高い付加価値を有するものをつくり出すことを「ブリコラージュ」と呼び、近代以降の「エンジニアリング」の思考＝「栽培された思考」と対比させ、人類が古くからもっている知であり、近代社会にも適用されている普遍的な知の在り方だと述べている。

造形教育で育まれるブリコラージュする力

- ・ 材料や場所に働きかけて価値を生み出す力
- ・ たくさんの材料や表現方法から選択する力
- ・ 選択したことを組み合わせる力
- ・ 失敗しても立ち上がることができる力
- ・ 助け合いながら互いに協働する力
- ・ 楽しさや美しさをなど「感じ」を捉える力
- ・ お互いのつくり出した価値に共感する力

この「資質・能力」の育成は、何も小学校の造形遊びでのみ可能なのではないと考える。幼児教育のごっこ遊びであったり、平面や立体と言った表現様式を組み合わせた題材であったり、平面表現であっても様々な材料を組み合わせた題材であったり、中学校や高等学校における具象的な表現と抽象的な表現を組み合わせ、心象や内面を表現する題材においても育成することができる。近年の教科書題材に領域の境目が無くなり多様な表現が多く扱われているのも、このようなコンピテンシー育成に基づいていると推察される。

このように、本来造形表現活動には「ブリコラージュ」の思考的要素が内在されており、私たち造形教育に携わるものは、「どのように造形的内容を教えるか」といった「コンテンツ・ベース」的な教育観から、「どのような資質・能力を育てるか」という「コンピテンシー・ベース」育成へ教育観のシフトが求められているのである。

しかしこれは何も新しいことではない。アメリカの教育学者ヴィクター＝ローエンフェルド著「美術による人間形成」(1947 年)で述べた、「美術を教える」のではなく「美術を通して教える」という教育観と何ら変わるのではなく、造形教育ではどんな

コンテンツ
・ベースから
コンピテンシー
・ベース育成へ

「資質・能力」を育成するのかをより意識していこうというものである。また、同著から造形教育と子どもの発達の関係の重要性は周知の通りであり、子どもの「未来」を見据え「今」どのような学びが必要なのかを時間軸で捉え、「資質・能力」の育成という観点で再考していく必要がある。

造形教育 における 協働的な学び

加えて、造形教育が教科という学校教育としての集団での学びであることを踏まえ、一人一人の「資質・能力」の育成を「協働的な学び」の中で効果的に高めていけることも実践していけなくては、私たち自身が造形教育の存在価値を自覚し自信をもち子どもたちに授業を提供し、他に価値を主張することはできないと考える。

これまでも、共同制作という学習課題や造形遊びや〇〇ワールドづくりなどで自然に生まれた接点から偶発的に共同制作が始まる「協働的な学び」は存在した。しかし、そのようなある特定の学習内容ではなく日常の造形活動中で、子どもの必然が伴った「協働的な学び」を成立させていくにはどのような手立てが必要なのだろうか。

ロシアの心理学者レフ・セ묘ニビッチ＝ヴィゴツキーは、著書「思考と言語」(新読書社 2001年)の中で、有名な「発達の最近接領域」ということを提唱している。ヴィゴツキーは子どもの発達について二つの水準を分類している。ひとつは、既習などを生かし与えられた問題や技能を自主的に解決することができる領域である。今ひとつは、一つ目の領域に近接しながらも既習などでは自主的には解決できない問題や技能であっても、他者と交わることにより解決に成功する領域で、これを「発達の最近接領域」と呼んでいる。子どもが仲間と交わり協力し合うときのみ、その学びは多様な内的発達過程を覚醒し、いったんこのような過程が内化したならば、それらの過程は子どもの自立的な発達の成果の一部となる。その自立心がまた可能性を生み出し、その可能性が他者との交流を生み出し内化し、「自立のサイクル」を生み出すと提唱している。

自立と共生の 新たな関係性

前次の研究「自立と共生の造形教育」では、一人一人の学びが「自立」していることで「共生」の学びが成立すると仮説を立てていた。しかし、「共生の学び」＝「協働的な学び」が子ども一人一人の「自立」を促すという、「自立した学び」と「協働的な学び」が双方向に相乗的に効果を有するという新たな研究の方向性が見えてきたのである。

以上のような新たな教育課題とこれまでの全道造形教育研究大会の研究成果から、研究主題を以下のように設定した。

“わたし”を創る ～今を生きる，共に生きる造形教育～

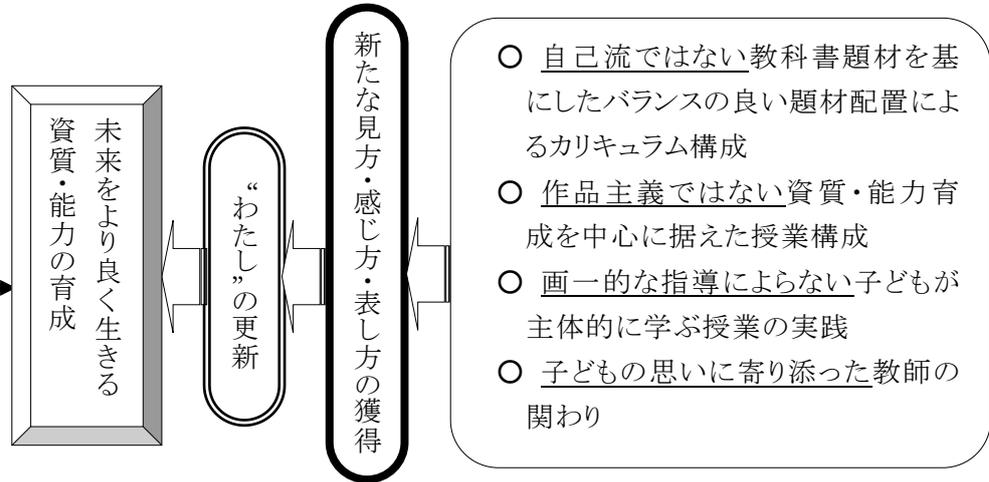
前次研究と同様に、この研究主題は「学習指導要領の改訂を見据え」チーム北海道の仲間と意見交流を繰り返した中から生まれている。また、前回同様、副主題は設定しない。各地区サークルの研究が、本研究主題を具現化するそれにあたるものと考えているからである。

2 研究内容 I

“今”“わたし”が生きる造形活動の在り方とは

子ども自らが自己選択し自己決定していく、主体的な造形活動を通して新たな見方・感じ方・表し方を獲得し、自己を更新していくというこれまでの研究の内容は踏襲しつつも、造形教育で育まれる固有の資質・能力だけではなく、汎用性のある未来に生きて働く資質・能力の育成をめざしていく。

“今”意味ある
造形教育を通して
“未来”を創る



3 研究内容 II

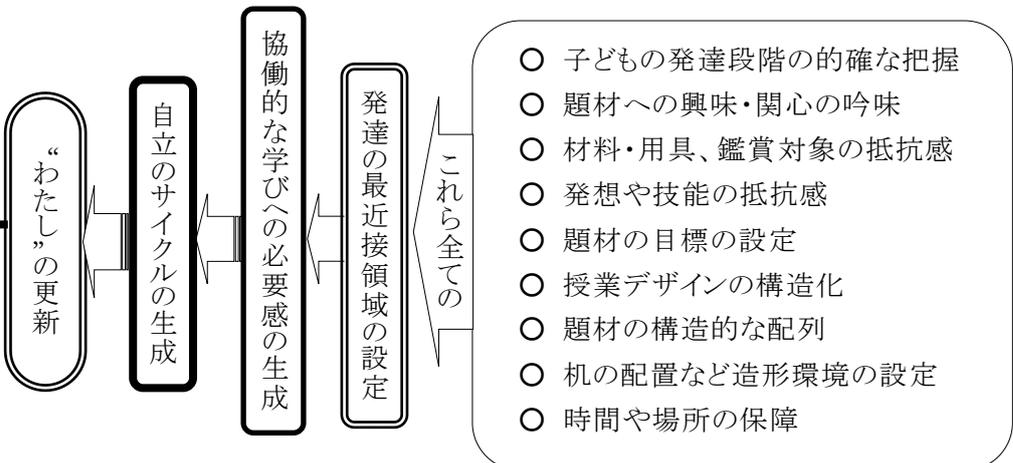
“わたし”が高まる“共に生きる”造形活動の在り方とは

人の世界観の最小単位が自分であり、成長と共に世界が広がっていく。そして、発達の最近接領域における協力者も成長に伴い親や先生から仲間置き換わってくることを考えると、協働的な学びの在り方には発達ということが大きく関係している。

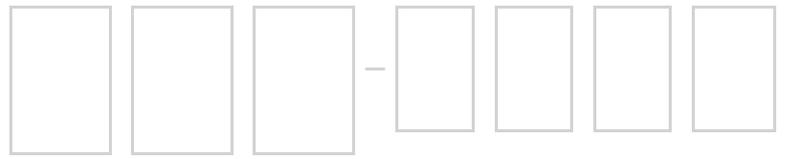
また、指導者が子どもの思いを可視化したいがために交流を促したり、一人の子の発想や技能のよさを他に広めたいがために交流を促すなど、指導者の必要感が子どもの必要感と一致していないと、単に子どもの造形活動の時間や意欲を奪う結果になりかねない。子どもの必要感から生まれる協働的な学びが成立しないと、お互いに自立を促す学びにはならないと考える。

そのためには、以下が達成されている必要がある。

発達と必要感に
裏打ちされた
協働的学び



MEMO



釧路造形教育研究会の研究



第 67 回全道造形教育研究大会釧路大会研究概要

釧路造形教育研究会研究部

1 はじめに

今日、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中、学校教育に求められていることのひとつに「子供たちが未来の作り手になるために必要な資質・能力を確実に身に付けさせていくこと」がある。

新しい学習指導要領では、子供たちが自ら感性を豊かに働かせながらどのような未来をつくるのか、社会や人生をより良いものにしていくかを考え、主体的に学び続けることで自らの力を引き出し、自分なりに試行錯誤し、多様な他者と協働するなどして、新たな価値を生み出していくことの重要性が述べられている。

とりわけ図画工作・美術科では、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりすることについての資質・能力を相互に関連させながら育成すること、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わろうとする態度の育成などが課題としてあげられている。

芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（以下芸術WG）では、身に付けさせたい資質・能力の中核として、各教科の本質に根ざした『見方・考え方』（「教科ならではの視点」と「教科ならではの思考の枠組み」）が示されている。

一例として小学校では「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出すこと」がある。こうした見方・考え方を働かせながら知識・技能を習得した子供たちは、見方・考え方が成長することにより思考力・判断力・表現力が高まり、より生活や社会と豊かに関わろうとする姿につながっていくだろう。ここでの「見方・考え方」は知性と感性の両方を働かせて対象を捉えることにあり、そのためには本教科で大切にしてきた「感性」を今まで以上に育んでいかななくてはならない。

岡田¹の「感性は学習指導要領にもある通りさまざまな対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む大切なものです」からも、子供たちは本教科を通して、創造性の根幹を為す「感性」を、対象や事象を造形的な視点で捉える際に、身に付けてきた資質・能力と合わせて働かせ、新たに学ぶ汎用的に使うことのできる知と共に育んでいるのである。それは、創ることの意味や価値を子供たち自身が見いだすことにつながっていくだろう。

北海道造形教育連盟（以下北造連）では、研究主題を「わたしを創る～今を生きる、共に生きる造形教育～」とし、造形教育で育まれる固有の資質・能力だけではなく、未来に生きて働く汎用性のある資質・能力の育成を掲げている。この中で子供たちが新たな見方・感じ方・表し方を獲得し、自己を更新していくこと、日常の造形教育の中で必然が伴った協働的な学びを展開することによって、一人一人の「自立」につながっていくだろうとしている。

釧路造形教育研究会（以下、本会）は、以上の状況や考えを基盤とした上で、現在の道東地区における造形教育の現状や課題を明確にし、新しい学習指導要領に関わる教育動向も加味しながら、本研究大会に向けた取組を推進していくこととした。

2 前回大会からの10年と課題

本会は、第57回大会で研究主題を「つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育」と設定し、その後今日まで、造形活動を通して子供の想いや願いが形になり、認められることで喜びを感じ、その経験が満足感や達成感につながる「精神的な豊かさ」と「物質的な豊かさ」のバランスを整えることが、心豊かな子供の成長につながるという考えのもと研究を進め、道東地区の造形教育の裾野を広げるべく活動を推進してきた。

しかし、子供たちに育みたい力を明確にせず、学習過程での学びが技術的なものに終始し、作品を完成させることにねらいが当てられている授業が多いことなど課題が山積しているのが現状である。これは、芸術WGにおける課題、「基礎的な能力が相互に関連して高まるような指導に至っていない」、「活動自体が目的化し、育成する資質・能力と学習内容との関連が曖昧な指導の現状」と共通する。

本会では「子供たちは本教科をどのように受け止め、学習を進めていきたいと願っているか」を把握するため、今年度4月に抽出校において「美術の授業の目標」を実施し調査した。

図1からは、子供はわずかな時間しかない授業の中でも、充実した学びにしていきたいという願いや、対象や事象を一つの角度からではなく、多面的に捉え考えていきたいとの想いがわかる。特に、作品をつくる過程で、どのような学びをしたかが明確に表れ、自分が感じたことや表したいことを見つけていく過程の中で、多くのことを学んでいることがわかった。

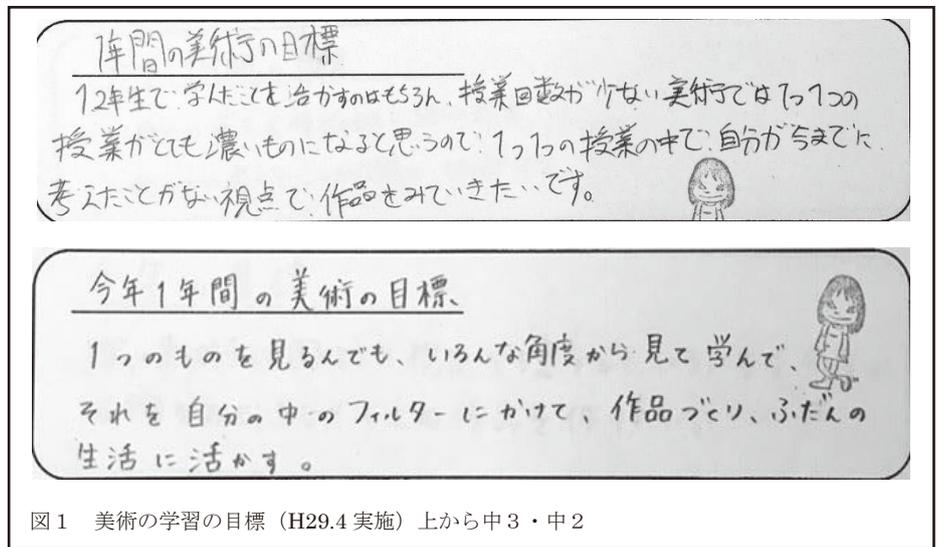


図1 美術の学習の目標 (H29.4実施) 上から中3・中2

北造連の主題である「わたしを創る」ためには、技術的なことはもちろん、一単位時間に子供達が「なぜ? どうしたらいいか?」と悩み、その解決の段階で思考・判断、表現していく中で、自らの感性を磨いていくことができるような授業の構築が重要となる。

表1・2は、小学校「図画工作に関わる意識調査」と中学校「美術に関わる意識調査」の結果である。年齢が上がるにつれ平均値の低下傾向は明らかであるが、それぞれの校種における数値は、好ましい傾向にあるといえる。しかし、項目2「授業の内容が自分の生活や他の学習にどんな関わりがあるか実感・意識している」の数値が、他の項目よりも低く、特に、中学校において顕著であることから、子供にとって本教科の内容は自身の生活や他教科との関わりを見いだせていない状況にあると言える。

	小学校 図工に関わる意識調査質問項目 (抜粋)	ave.
1	図工の学習が好きだ	3.42
2	授業の内容が、自分の生活や他の学習にどんな関わりがあるか意識している。	2.95
3	表したいことにあわせて、表し方の工夫をしている。	3.25
4	鑑賞する時、作者が表したいことをどのように工夫して表現しているか想像している。	3.31
5	他者の意見が、自分の表したことに役立ったことがある	3.39
6	つくったりえがいたりしているときに、友達や先生にアドバイスをもらうことは役に立つと思う。	3.73

(4:あてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない)

では、図1の子供たちが造形活動を色々な角度から捉え、子供自身のフィルターを通して思考し、生活とのつながりを感じるためには、どのような学びの場を提供していくべきだろうか。

新しい学習指導要領に述べられている資質・能力を育成していくためにも、教師がこれまでの授業を見直し、子供たちの学びのデザインをしていくことが急務であると言える。

3 研究主題

以上のことを受け、本会では研究主題を次のように設定した。

わたしを“つなぐ”造形活動の時間
～想いを豊かに育む造形活動の展開～

子供に汎用性ある未来に生きて働く資質・能力を培い、子供一人一人の自立を目指し、「わたしを創る」ために、つけさせたい力を明確にした上で造形活動の時間をデザインしていくことを大切にしたい。澤井²は「これからの教師が求められている指導力とは、子供の学びを軸に授業を設計（デザイン）する力、それを効果的に運営（マネジメント）する力にほかなりません。」と述べ、これまで以上に題材の構成や指導のあり方を検討していくことが求められている。

造形活動の時間のデザインを考えていくことは、子供の主体的な造形活動を実現し、他者と関わりながらあらゆる要素と関連づけられた学びにつながり、表したい思いやイメージが豊かに育み、創造することの意味や価値に気付くことにつながっていくだろう。

佐々木³は、「感じたこと、考えたことを描いたり創ったりという体験を通して表現し、また他者の表現を受け止めて理解していく総合的な能力が、図工・美術で育む学力である。この中には、価値あるものに敏感に反応する感性、材料や用具を扱う造形的な技能、自分の考えを表現としてまとめる知性が含まれ、更にこれらを通して新しい価値の世界を広げていく創造性が含まれている。急速に変化する現代社会においては、思考力や判断力、表現力を身につけて主体的に問題に対峙し、創造的に生きていくことがより一層求められている。図工・美術で育成する能力は、どのような時代にも大切にされた表現に関わる人間の能力であり、それは現代の社会的要請にも十分に応えるものでもある。」と述べており、本研究において、新しい価値や意味に気付く創造性を育むためには、感性を働かせ、自分自身の考えに気付き、造形的な技能を働かせて表していく活動が、学習活動の中で適切に関連づけられることによって培われると捉え、その過程が「想いを豊かに育む造形活動の展開」であると考えた。

そのためには、造形活動を通してあらゆる要素と子供たちを意識的に“つなぐ”「学びのデザイン＝（題材構成）」が重要である。そもそも、“つなぐ”には、「離れているもの、切れているものひと続きのものに結びつける」「あとを辿る」「絶えないようにする」などの意味があり、本研究における子供の資質・能力の育成に必要な学習事項を関連づけることを“つなぐ”で整理し、「学びのデザイン」として題材構成上に示すこととした。

表2 中学校美術科に関わる意識調査

	中学校 美術に関わる意識調査質問項目（抜粋）	ave.
1	美術の学習が好きですか	3.17
2	授業の内容が、他の教科や生活につながりがあることを実感できた。	2.74
3	表したいことにあわせて表現を工夫していますか	3.25
4	作品を鑑賞するとき、作者が表したいことをどのように工夫して表現しているかを意識していますか	3.07
5	他者の意見が、自らの表現をよりよくすることにつながっている。	3.05
6	他の人にアドバイスをもらうことは、あなたにとって効果的ですか。	3.4

（4:あてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない）

理想の「学びのデザイン」として、子供たちの学習を経て培った資質・能力が、学習を経るごとに向上、深化、拡充していけるよう系統立て、十分な思考を働かせ自分の想いをより豊かにしていくことや、他者との関わりを重視したい。こうした「学びのデザイン」の中で、あらゆるものやことと子供たちを“つなぐ”ことによって育まれた感性や創造性は文化の理解につながり、次の学習において子供と“学び”をつなぐツールとなっていこうと考える。

では、具体的にどのような要素と子供を“つなぐ”べきか、以下にまとめ、子供に培わせたい資質・能力を獲得させるため、教師が「学びのデザイン」をするときに考慮すべき要素として押さえた。



授業を通して、子供たちと上図の要素を“つなぐ”ための具体的な手立てを次の3つに焦点化し、授業改善の視点とした。

1 「学びをつなぐ」

学びをつなぐでは、「学びのデザイン」を意識した題材構成の工夫とした。子供たちに育ませたい資質・能力を明確にし、既習事項との関連や今後の題材とのつながりや結びつけたい周囲との関連を踏まえ、題材を構築していくことを指しており、他の2つの視点の基盤となる題材構成となるように考えた。

2 「想いをつなぐ」

「想いをつなぐ」とは、子どもが表したいことを見つけ、その実現に向け、試行錯誤や新たな発見や経験を積み重ねていくことで、想いをより豊かなものにしていくものとした。

3 「他者につながる」

「他者をつなぐ」とは、学習の中で子供が他者の見方や感じ方を知り、共通点や相違点に気付きながら、自己の価値意識を育むと考える。

以上の3つを授業改善の視点とし、この視点を元にした手立てを講じ、子供達と学びをつなぐことによ

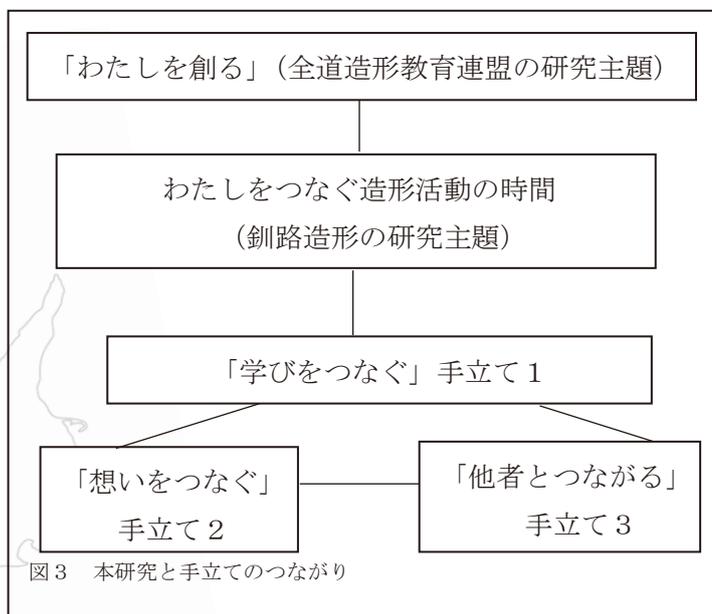


図3 本研究と手立てのつながり

って、北海道造形教育連盟の研究主題である「わたしを創る」に近づいていくことができるのではないかと考える。

4 研究の内容

上記3つの視点における、具体について次に述べる。

学びをつなぐ

■題材構成の工夫〔学びのデザイン〕

造形教育において、題材の構成は児童生徒の主体的な学びにつなげるために重要である。「学びのデザイン」を考える際に、子供たちが主体的に造形活動に取り組めるような工夫や適切な学習内容を検討していかななくてはならない。

そのためには、学習指導要領にある〔共通事項〕を中核に据え、表現や鑑賞が相互に関連する構成であることや、題材前後の関連や他教科とのつながりについても考慮すべきだろう。学習指導要領の解説⁴では、「表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、お互い働きかけたり、働きかけられたりしながら、一体的に補って高まっていく活動である」としている。その効果についても、多くの先行研究で成果があげられているが、釧路地域においての実践は数少ないのが現状である。五十嵐⁵も、『つくる』と『みる』の行き来する表現と鑑賞の一体化を目指すことで、子どもにゆっくりと造形的な思考力を働かせる場面や手立てを生み出す可能性があると考え」と述べ、表現活動に含まれる「つくる」や「みる」の相互の関連が為されることによって、子供たちの思考を働かせていくことが大切である。

また、授業の中で〔共通事項〕である造形的な視点を持ち、イメージや自己の内面、他者、文化、社会などを捉え表現・鑑賞していくことで、創造することの価値や意味について考えることにつながるのではないだろうか。また、授業が生活や社会とのつながりをもたせられるような題材の工夫を「学びのデザイン」として構築していくことにより、次の学習につながる資質・能力として育てていくことができるだろうと考える。

この「学びのデザインで」最も欠かせないのは、子どもが学びをつなげていく役割をもった「授業」としての位置づけである。そのためには、造形活動の中で、何を感じさせ、思考させていくのかについて明確にし、総合的な学びとして一授業を教師側が捉えていく必要がある。

想いをつなぐ

■試行の場を設定し、子どもが自己の表したい想いを育みながら活動できる工夫

「試行」の重要性については、平成28年度の札幌大会において「思考」を支える上での「嗜好」、「試行」、「志向」を促す研究の視点が示され、その成果が発表されている。

本会では、学びのデザインにおいて組み込まれた思考する場面において、子どもが想いを深め、表したり考えたりするために、「試行」する手立てを講じることによって、自分なりの見方や考え方を深めていく「思考」につながると考えた。子どもたちは「試行」を経由してつくりたい想いを育み、想いを実現するために「試行」するだろう。

「試行」の具体としては、「素材」、「表現技法」、「アイデア」などが考えられる。十分に表したい想いを子供自身のなかで膨らませるために、適切な教材を用いて活動させていきたい。

他者とつながる

■他者と協働する場の設定

「わたしを創る」ために学びのデザインの中で、「わたし」と「学び」や「想い」をつなぐためには、他者とのかかわりは不可欠である。答申に述べられた「対話的な学び」では、造形的な見方・考え方を働かせ説明し合ったり、作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなどして、自分の見方や感じ方を深めたりよさや美しさなどを広く味わうことが大切であることも述べられている。

また、北造連が協働によって「一人ひとりが自立する」ことを述べていることから、他者との関わりは、協働していく学習活動として押さえることとした。

では、協働として他者との関わりを学習過程に組み込む際に、どのような点に留意すべきだろうか。

まず、子ども達が必要感を持った課題を設定することは教師の最も重要な役割であり、その中でねらいに近づいていくための思考を、協働を通して巡らせることで、協働本来の効果が表れると考える。そして、新たな価値や考えに触れることは、より豊かな資質・能力の育成に欠かせないものであり、授業のどの場面で実施するかについては各授業での検討をして実施していきたい。

本会では、協働する場を授業過程のどこに位置づけるか、また単なる交流で終わるのではなく、他者との協働によって何を考え、どう生かされるかについて視点をおき、それが促される手立てを講じていく。

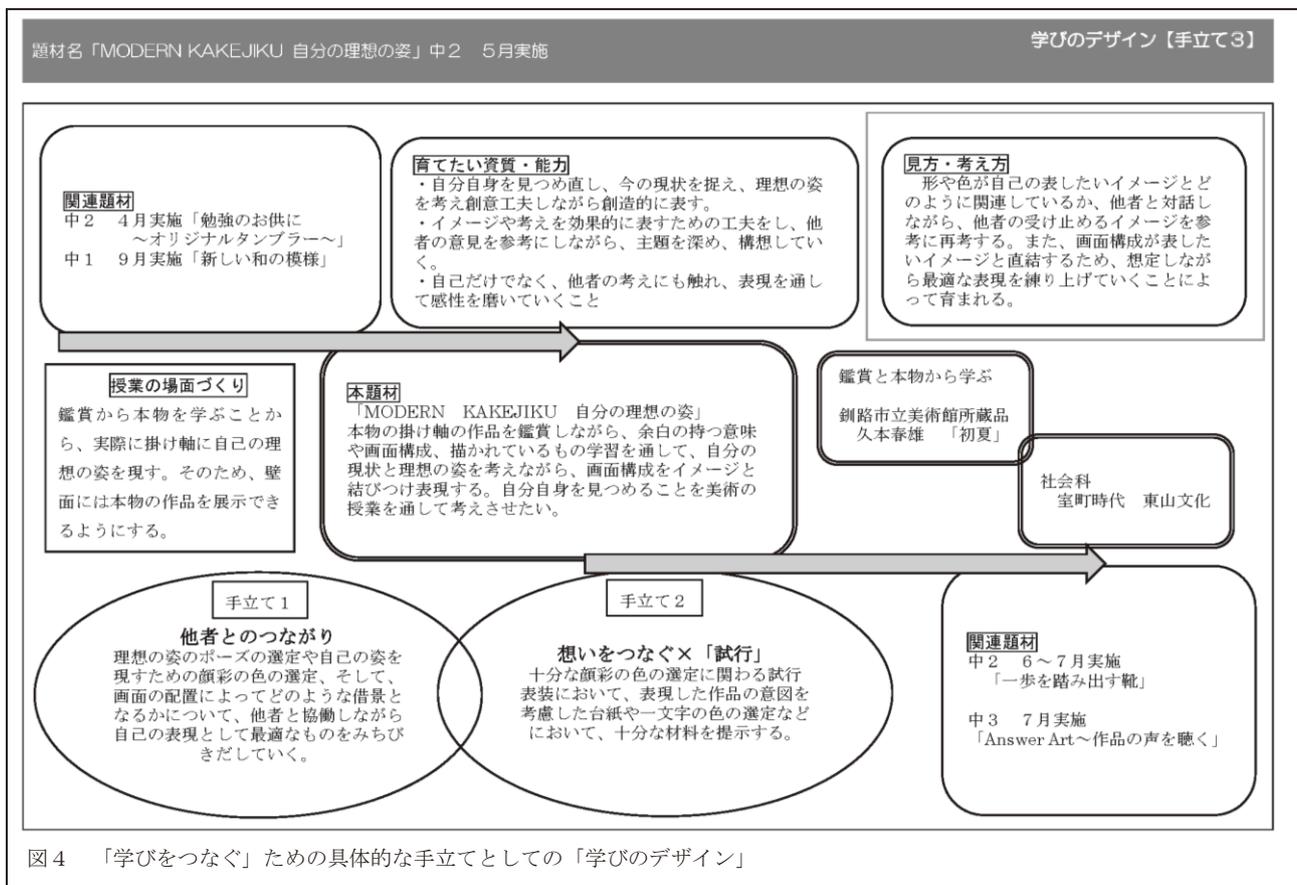
(4) 本研究大会における、手立ての具体を示す授業とテーマについて

表3 「学びをつなぐ」ための具体的な手立てとしての「学びのデザイン」

分科会テーマ 手立ての具体	学年	題材名	授業者	提言者
		本題材における手立ての方向性		
「想いをつなぐ」 試行する場面を設定して自分の想いを更に膨らませていく	幼稚園	ぼくたちわたしたちのよしの園の一日 意欲をかき立てる題材の設定と、十分活動が為されるための材料の準備をし、発想力を豊かに、活用できる場の設定する。また友達との作品の良さに着目する場の設定。	認定こども園よしの 加藤 史絵・澤原 大	北海道キリスト教学園湖畔幼稚園 安田 みゆき
	小学2年	ようこそ 光の国へ 試行して気付いたことを交流する場を設け、試行や気づきを深め、想いを広げる。またよさや日常の経験と照らし合わせる機会を生むための活動場面の工夫	釧路市立鳥取西小学校 若 林 亘	厚岸町立厚岸小学校 中 島 愛
	小学6年	ことばから広がる世界 児童の構想を支える手立てとして、試行の材料を十分に準備し、比較しながら画面構成を練り、視点を明確にした話し合いを通じ自分の想いを深める場面	釧路市立武佐小学校 日 野 道 子	日高町立日高小学校 岩 崎 愛 彦
「他者とつながる」 他者との協働の場をつくり、自分の見方や感じ方を広げる	小学6年	名画の中に入ってみたら 「作品」や「他者」との対話の中で作品の意図や表現を捉えたり自分の見方や感じ方を広げたりする力を獲得できると考える	釧路市立共栄小学校 高 野 恵 輔	斜里町立知床ウトロ学校 藤 下 昌 世
	中学1年	和をつなげよう 個に閉じた感覚にならないよう、他者の美的感覚や発想の相違を意識させる場の設定を行い、自分の見方や感じ方を発展、深化、再確認できるようにする。	釧路市立共栄中学校 橋 本 加 会	根室市立歯舞中学校 宮 田 玲 二
「学びをつなぐ」 関連題材や鑑賞と表現の相互に関連した題材構成、生活の中における美術文化の役割などを踏まえた学びのデザイン	中学2年	一步を踏み出す靴 前題材との関連や子ども達のこれからの歩みを美術を通して考える学びのデザイン。また、「鑑賞」と「表現」が相互に関連する指導計画の工夫。他者との対話の中では、自分のイメージを膨らませるために、構想段階における試行を生かしたアドバイスをを行う場の設定をし、より自己のイメージの具体化につなげる。	北海道教育大学附属釧路中学校 更 科 結 希	北斗市立浜分中学校 九千房 政 光
	高校3年	ことばのイメージ～ミニマルアニメーション～ 映像によるイメージの共有をめざした造形活動により、美術の働きや美術文化についての理解を深める資質能力を育成する	北海道釧路江南高等学校 上 野 秀 実	北海道釧路東高等学校 竹 本 万 亀

5 実践と経過

以下、本研究における実践として北海道教育大学附属釧路中学校第2学年で実施した様子を紹介する。
 題材名「MODERN KAKEJIKU 自分の理想の姿」全6時間

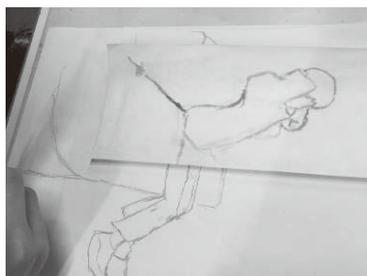


本実践においては、図3に示している「学びをつなぐ」ための手立てとして「学びのデザイン」をまとめた。育てたい資質・能力を中核に据え、関連題材や他教科と本題材の関わりを、授業者が子ども達の学びをデザインしていくといった視点において構築できるようにした。また、本研究におけるその他の手立て1、手立て2との関連についても付記した。

次に、「他者とつながる」に関わる手立て1として他者との協働の場面を設定した。ここでの活動は、自分の表したい人の姿を最適な構図にまとめる段階において、他者がその作品の借景について話をする場面とした。対象の配置によって、人の受ける印象が異なることや、自分はどのような借景になるのかについて、話し合いを行った。

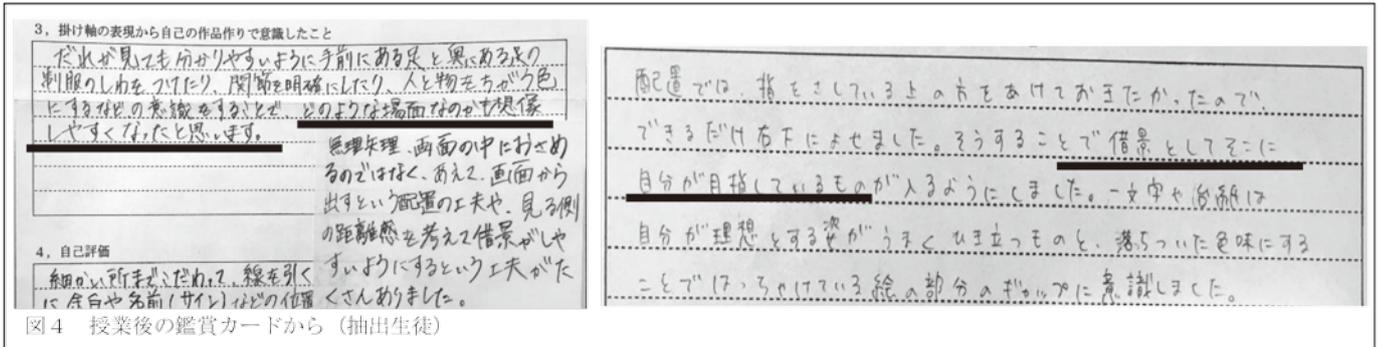


話し合いから構図を決定していく（左）。対象を描く色を試し書きし、イメージと合致する色を選択（右）



そして、「想いをつなぐ」に関わる手立て2としては、自己が表したいイメージに合う色の選択において、試行する場面とした。

以下は、学習終了時におけるふり返りである。記述には、自己が表したいことに併せて具体的に場面を想像しながら借景について考えたこと、他者との関わりの中で新たな表現の仕方について気付いたことなどについて記述されている。また、表4は意識調査の結果であるが、他者と意見を述べ合う事が見方の



広がりにつながったという項目において平均値が上昇したなどが見て取れるため、手立ての効果はあったものと判断できる。しかし、作品や他者の表現を見るとき視点を持つことに自身を持てずにいる生徒も多いことから、イメージと表すことの具体的なつながりについて考えるような手立ての内容が今後必要であることもわかった。

表4 「授業前と授業後の美術の授業に対する意識調査及び結果」

番号	質問項目	授業前	授業後
1	他者と意見を述べ合う事が、つくりに影響を与えることがあった	3.56	3.65
2	他者と意見を述べ合う事が、自分の見方を広げることにつながった	3.68	3.74
3	作品や他者の表現を見るとき視点を持っているか	3.59	3.6
4	暮らしと美術の関係について考えた	3.12	3.5

(4.あてはまる 3.ややあてはまる 2.あまりあてはまらない 1.あてはまらない)

6 これまでの成果と課題

本大会に向けて、手立てを講じた試行授業を実施してきた。手立ての有効性は確認されているものがあったが、釧路地域においてこれまで十分に実践されていなかったことから、授業改善の視点として研究を進めてきた。その中で、指導計画の中でどの場面に位置づけていくことが効果的であるか、また他者との協働については、子ども達が必要を感じる場面の見極めや課題の在り方が問われ、今後更なる研究を進めなくてはならない。

成果としては、実践の経過から、他者との関わりやよりよい表現に結びつけるための試行は、子どもたちに新たな見方や感じ方・表し方を獲得させることにつながることを確認ができたことである。また、教師が学びのデザインを考えていくことは、子ども達が豊かに想いを育むための土台となるものであり、全道全道造形連盟が目指す「わたしを創る」ための自己の更新につながるためには不可欠なものであると言える。今後、本大会に向けて進めてきた研究を継続し、道東地域における造形教育が更に発展することができるよう尽力していくことが、本会の今後の役割であると考えている。

1 岡田京子、『成長する授業』、東洋館出版社、2016、p.32

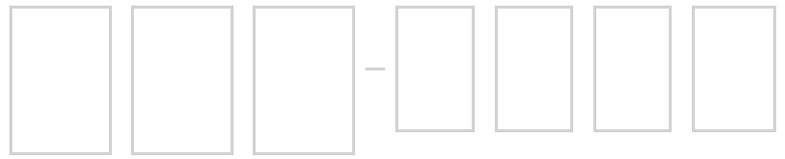
2 澤井陽介、『授業の見方』、東洋館出版、2017、p.48

3 佐々木幸、「美術・創造活動による認識の発達と学力・能力形成」、玉井康之・北海道教育大学釧路校教育研究会、『子どもの“総合的な能力”の育成と生きる力』、北樹出版、2017、p.220

4 文部科学省、「学習指導要領図画工作編」、2008、pp.6-7

5 五十嵐 実、「表現と鑑賞の一体化を目指した指導の工夫」、教育実践研究、第21集、2011、p.155

MEMO



大会指導案





題材名

ぼくたち わたしたちのよしの園の一日

授業者

認定こども園よしの

ばら月組・星 加藤史絵 澤原 大

認定こども園

1 題材の目標

- ・よしの園の一日の中で自分の好きな時間を思い起こし活動を決めてイメージしながら工夫して描いたり、表現したりすることができる。
- ・友達の実現に触れ、良さに気づくことができる。

2 題材設定の理由

(1) 園児観

児らは、よしの園での最高学年に進級した「年長」に喜びや期待を持っている。教育哲学者である森信三氏が提唱する『立腰（腰骨を立てる）』を軸とした豊富な保育活動の体験や『よしの習得目標』『よしの目指す人間像』を掲げた板書教育（心の教育）を通して、よしのの腰骨の児として憧れる年長児としての姿を日々話し合っている。年長児としての自覚が芽生え始めた個々の思いを行動に表せるよう、保育教諭が日々の保育の中で繰り返し促していくことにより、お世話を励む姿や皆のお手本になろうと意欲的な姿が見られるようになってきた。

本題材では、全職員が『立腰』教育の充実と共通理解の下、一人ひとりの良さを認めて褒め、周りにアピールすることにより、児らも友達の良さに気づいたことをことばで伝え合う活動を通して互いの信頼関係を深め、充実した園生活を過ごさせたい。

(2) 題材観

よしの園では、年少児は季節に合わせたイラストの色塗り、年中児はデッサン、年長児は折り紙の作品を貼り付けるなどの段階的な造形活動の取り組みを行っている。前年度の児らの成長を振り返り、意欲を掻き立てる内容や苦手な事にも挑戦できるような活動として、今年度に組み入れている「制作帳」、日本の伝統的行事・季節に合わせた「造形」などがある。材料の提供には、一人分の決められた材料以外にも廃材となりうる材料も小分けして提供することにより、発想力を豊かにし、活用できる場の設定により創造力が膨らむように工夫してきた。

1学期は、完成作品を展示した「鑑賞」だけにとどまらず、展示前に「鑑賞会」を開き、作品に対する個々

の思いを友達に伝え、また、友達から作品の良さや目に留まった想いを伝えられることによって自己肯定感が高昇し、さらに次の造形作品への期待や意欲が高まってきている。

秋に予定されているごっこ遊びの活動においても、友達と協力しながら大型の協働作品完成に向けて、一人ひとりが自己発揮し、互いが刺激され、互いに認め合いながら作り上げる活動も楽しみにしている。

本題材では、児らが「次はこんな絵を描きたい!」「絵具でこんな色を塗りたい!」と思うワクワク感を大切に、認め、声かけを工夫し、児の意欲がさらに高まり絵画に表現できるようにしたい。

3 評価

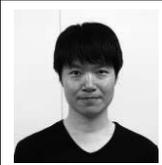
- ・よしの園での園生活の一日の流れを振り返り、自分の好きな時間を見つける。
- ・よしの園の一日の中のどの時間の活動場面を描くか決め、表現する。
- ・クレヨンや絵具で自分の想いを色に表現する。
- ・つなげた作品を鑑賞し、改めて友達の実在に気づくと共に、卒園まで友達を大切に、思いやる心を高める。

4 指導計画（全8時間）

時	学習活動 手立て①
1	～園生活の中で一番自分が好きな活動を選んで発表しよう～
2	～好きな時間・活動を自由画帳に描いてみよう～
4	～次は、大きな画用紙に描いてみよう～
6	～色を塗ろう～
7	～工夫できるところはあるかな?～
8 本時	～みんなの作品をつなげて ぼく わたしの想いを 発表しよう～

5 本時の保育展開（8／8時間目）

本時の目標 友達の絵を観察し、一日の流れを考えて、絵をつなげることを楽しもうとする。 よしの園の一日「ぼくたち わたしたち」から友達との関りを育む。		
保育活動	主な働きかけ・手立て	備考／評価
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> みんなの作品をつなげて ぼく わたしの想いを発表しよう </div>		
1 友達の作品を見て、工夫しているところを発表する。 ・いろいろな色を使っている。 ・「 」がきれい。 ・にこにこ笑っている。 ・大きく描いている。 ・白い部分がない。	○友達の作品を見て「工夫しているな」と感じたことを発表しよう。 □友達の絵を鑑賞して感じたことに共感し、復唱する。 △言葉に詰まった時は、保育教諭がインタビューになり、気持ちを引き出す。 ○次はこうしてみよう！と意欲を持たせる。	1 友達の作品を見て良さを見つけることができたか。 【観察】
2 友達の発表を聞いて工夫できるところを考えて色を塗り完成させる。 ・画用紙の白い部分を見つける。 ・クレヨンで絵をつけ足そう。 ・好きな絵具の色を選んでバックの色を塗る。	○友達の作品や意見を聞いて、自分の作品のどこにどのように手を加えるか考えて表現しようとする気持ちをもたせ、活動の確認をする。 手立て② △画用紙の白い部分がなくなるように色を塗ってみよう。	2 発表された意見を元に工夫できる箇所を見つけ、表現しようとする気持ちをもつことができたか。
3 自分の作品と友達の作品を繋げることでよしの園の一日の流れを表し、たくさんの活動をしていることに気づく。	○完成した絵をつなげてみよう。 △一人ひとりの完成した絵を繋げてみるとどうなるかな？ 手立て③	3 作品をつなげる活動を楽しむことができたか。
4 想いを伝え合い、改めて友達の存在やよしのの腰骨の子のひとりであることに気づく。	□想いを交流しよう。 ・想いを伝え合い、卒園までの園生活に期待を持たせたい。	4 自己を表現する力を高めることができたか。



題材名

ようこそ！光の国へ

小学校 第2学年1組 A表現（1）造形遊び

小学校

授業者

釧路市立鳥取西小学校

若林 亘

1 題材の目標

光を通す材料の面白さに気付き、並べたり重ねたりしてできる形や色の変化を生かし、思いのままに造形的な活動を楽しむことができるようにさせる。

2 題材設定の理由

（1）児童観

本学級は、5月に実施したアンケートによると「図工が好きだ」と答える児童が93%と、図画工作科に対する関心は高い方だと考えられる。一方、「図工が他の勉強につながっていると思う」児童が86%、「図工で勉強したことを、他の勉強や普段の生活でも使ってみようとしたことがある。」児童は60%と低くなっていることから、図画工作科での経験した素材や技法・表現などを通して考えたことが、他の教科学習や日常生活に生きていることを感じられるような題材の設定が必要だと考える。

また、「図工で、友達の作品の良さを見つけようとしている」児童は76%と8割を下回る。そこで、友達の作品や活動の良さを発見し、互いに高め合える活動を模索したいと考えた。

（2）題材観

本題材では、光を通し、気楽に貼ったりはがしたりできる材料を使って、形や色の変化、組み合わせ方による見え方の変化に気づきながら造形遊びを楽しむ児童の姿を求めている。

児童は、光を通す材料を組み合わせることで形や色の見え方が変わる面白さを感じ取り〔A表現（1）ア・ウ及び共通事項のイ〕、そこから想いを持って並べたり、つないだりする造形的な活動を展開する。また、何度も貼り直せる素材を用意すること〔A表現（1）イ及び共通事項のア〕で、自分の感覚や気持ちを生かし試行錯誤を重ねることもできる。

光を通す材料の組み合わせによる色や濃淡の変化、形の変化を体感しながら学ぶことは、色や形に対する「知識」が「生きて働く概念として習得」され、「実感を伴いながら理解する」ことにもつながると考える。そして、形や色の組み合わせによる見え方の変化を楽しむ中で、これから学習する三角形や四角形とつながる題材として構成した。

加えて、色や形を試しながら、造形遊びを楽しむ中で、自然発生的に互いの表現活動を鑑賞し合い、良さを発見したり再認識したりし合う場を形成することもでき、本題材の活動を経験することで、課題としてあげた事項の解決に少しでも寄与することができると思う。

そこで、本題材では、材料を並べたりつないだりする（試行）中で、形や色を何かに見立てたり並べ方に規則性を持たせたりすることができることに気付かせていきたい。そうした気付きや良さに触れられるような交流の場を設定することで、試行をつなぎ、自分だけでは気付かなかった新たな試行へとつなげる手立てとしたい。

試行と試行をつないでいく中で、互いの良さを認め合ったり、日常の経験や学習内容と照らし合わせたりする機会が生まれるよう声をかけ、児童の課題解決に迫っていきたいと考えている。

3 評価規準

【造形への関心・意欲・態度】

- ・ビニールシートを並べたり重ねたりすることを楽しもうとしている。

【創造的な技能】

- ・ビニールシートの色を組み合わせ、色々な並べ方や重ね方を工夫している。

【鑑賞の能力】

- ・ビニールシートを並べたり重ねたりした時の形や色の変化や見え方に気づいている。

4 指導計画（全1時間）

時	学 習 活 動
1 本 時	課題：つないだり かさねたりして、いろんな形や色をたのしもう！ ・○△□の形を並べたり重ねたりして生まれる形や色を楽しむ。（お試しタイム） ・楽しんだ形や色について交流し、さらにどんなことができそうか想いを出し合う。（交流タイム） ・思い付いたことをもとに、形をつないだり重ねたりする活動を楽しむ。（活動タイム） ・必要に応じて一部又は全体で鑑賞タイムをとる。（途中の様子を見合い、良さや気付きを交流し、想いを広げたりつないだりする。） ・活動タイム（広げた想いを元に、つないだり重ねたりする活動を工夫し楽しむ。） ・振り返りタイム（出来上がった場を見て良さや工夫を振り返る）

5 本時の学習展開（1／1時間目）

本時の目標 光を通す材料の面白さに気づき、並べたり重ねたりしてできる形や色の変化を生かし、思いのままに造形的な活動を楽しむことができる		
学習活動	主な働きかけ・手立て	備考／評価
1 場及び材料と出会う。 2 本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 隠していた材料を提示し、窓ガラスに貼ったりはがしたりしてみせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 色の重なりや貼り付けが簡単にでき、造形的な活動を楽しめるよう、○△□等の形のビニールシートを用意する。
<p>ようこそ！ひかりの国へ ～つないだり かさねたりして、ひかりの国にへんしんさせよう！～</p>		
3 「お試しタイム」を通して、本時の課題に導く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される児童の試行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 重ねたら色が変わった。 重ねたら色が濃くなった。 つないだら花みたい。 □と△で、お城ができたよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> □「まずは○△□の形を並べたり重ねたりして、きれいな並べ方や重ね方を見つけてみよう。」 窓ガラス1カ所につき2～3人で仲よく使うよう説明する。 5分後に、どんな並べ方や重ね方を見つけることができたか交流する時間を設けることを伝え、試す活動を開始する。 (お試しタイム 手立て②) 	1 ビニールシートを並べたり重ねたりすることを楽しむことができたか。【①観察】
4 気づいたことや、できそうなことを交流する。 (交流タイム)	<ul style="list-style-type: none"> ○「どんな発見があったか、教えてくれる人はいますか？」 組み合わせによる形や色の見え方の変化を取り上げ、活動の広がりにつなげていく。 これからの活動に向けて思い付いたことを語らせ、仲間同士刺激し合って活動できるようにしていく。 (交流タイム 手立て③) 	2 ビニールシートを並べたり重ねたりした時の形や色の変化や見え方に気づくことができたか【③発言】
5 気付きや思いをいかし、材料を重ねたり並べたりする。 (活動タイム) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される児童の試行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣とつないだらおもしろそう。 違うこと思い付いた。つくりなおそう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> □「材料をつないだり重ねたりして、光の国に大変身させよう！」(活動タイム) 思い付いたことをもとに、形をつないだり重ねたりする活動を楽しむ時間をつくる。 必要に応じて一部や全体での鑑賞を取り入れ、想いを広げたりつないだりする。(鑑賞タイム) 	3 ビニールシートの色を組み合わせ、色々な並べ方や重ね方を工夫することができたか。【②活動】
6 本時の活動を振り返り、互いに認め合う場を形成する。 (振り返りタイム)	<ul style="list-style-type: none"> △「これまでの光の国を振り返ろう！」 良さや工夫を出し合い、互いに認め合う場となるようにする。 発言が苦手な児童の思いや気付きが表出されるよう、ワークシートを用意する。 必要に応じて、生活や今後の学習との関連にも触れ、学習の広がりにつなげる。(振り返りタイム) 	4 ビニールシートを並べたり重ねたりした時の形や色の変化や見え方に気づくことができたか【③発言・ワークシート】



題材名

言葉から広がる世界

小学校第6学年1組 A表現(2)

小学校

授業者

釧路市立武佐小学校

日野 道子

1 題材の目標

詩を味わい、その情景を想像し、主題の表し方を構想して絵に表すことができる。

2 題材設定の理由

(1) 児童観

絵を描く活動に苦手意識を持っている子が多い。しかし、4月に取り組んだ想像したことを絵に描く題材でのふりかえりに「ヒントカードのおかげで、不思議な魚をかくことができ、初めて図工が楽しいと感じた。」とあることから、構想を膨らます段階で児童の発想を広げたり整理することができるような支援を工夫することで、一人一人に思考が生まれ、想像を膨らませる楽しさにつながるのではないかと考えた。

また、図工の意識調査(4段階評価)では、以下の項目が高い数値として表れた。

- ・工夫して表そうとしたことができ嬉しかった経験がある(3.79)
- ・つくっているときに友達からアドバイスをもらって作品が良くなったことがある(3.68)
- ・他者の意見が自分の表したいことに役立ったことがある(3.58)

ここから多くの児童が他者とのつながりが自分の表現に役立っていることを意識していることがわかる。そこで、他者とのつながりの活動を意図的に設けることで、児童の絵画表現の自信につながるのではないかと考えた。

本題材では、自分の想いをよりよく表すために、色や画面構成など構想する場面で、子ども達が自分の想いを根拠として考え判断し、選択していく姿を目指す。

(2) 題材観

詩は、作者の主観的な想いや感動が身近な言葉で表されているため、児童が作者に共感しやすく、自分事として主題を感じ、絵に表すことができると考えた。

今回は、詩『生きる』(谷川俊太郎)を使う。関連して、事前に道徳で内容項目「生命尊重(高学年D(19))」に取り組み、子ども達一人ひとりが考える「生きていること」とはどんなことか、自分の内面と向き合う時間を大切にしたい。それを自分の主題として絵に表していく。

小学校学習指導要領では、高学年の目標に「主題の表し方を構想するとともに」とあり、「自分の表したいこと

の主題や用途などを表すために、およその計画を立てたり、つくりながら順番や組み立て方を考えたりすることを示す」と説明がある。ここでいう構想とは、想いを表すための試行であると捉えられる。

そこで、本活動では、児童の構想を支える手立てとして次の3点を中心に構成する。

- ・試行の材料を十分に準備する
- ・試作を見比べて画面構成を練る
- ・視点を明確にした話し合いで自分の想いを深める場面づくり

3 評価規準

【造形への関心・意欲・態度】

・詩を読んで自分なりの主題を持ち、想像したことをどのように表すか、進んで試している。

【発想や構想の能力】

・表したい想いに合わせて、よりよく表すための色や画面構成などを考えている。

【創造的な技能】

・表したい想いに合わせて、画材を選んだり、筆遣いを工夫したりしている。

【鑑賞の能力】

・友達の制作過程を見たり試作品を見比べたりして、想いに合ったよりよい表し方を選んでいる。

4 指導計画(全7時間)

時	学習活動 手立て①
1	・自分にとっての『生きる』をイメージして、画用紙に様々な方法で彩色する。(イメージに合った表現を作品の背景に生かす。)
2	・自分の主題に合わせて、A5大のトレーシングペーパーにアイデアスケッチをする。
3	・アイデアを共有しながら、想像をふくらませて描く。登場人物の向きや大きさなどを変えながら、何通りかスケッチする。
4 本 時	・想いに合わせた画面構成の工夫の仕方を交流しながら、自分の想いに合ったアイデアスケッチを選ぶ。 ・背景に合わせて、画面構成を考える。
5	・下絵を描く。
6	・表したい想いに合わせて、画材を選んだり、筆遣いを工夫したりして描く。
7	

5 本時の学習展開（4/7時間目）

本時の目標 自分の表したい想いに合わせて、よりよく表すための色や画面構成などを考えることができる。		
学習活動	主な働きかけ・手立て	備考/評価
<p>1 画面構成による感じ方の違いや表現の効果を確かめる。</p> <p>【予想される児童の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きく、画面いっぱい描くと、元気が良い感じ。 ・小さい絵をたくさん描くと、遠くから眺めている感じ。 ・横並びに描くと、あまり気持ちが表れていない感じ。 ・向かい合っている絵の方が、安心感が伝わってくる。 <p>【予想される児童の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余白を開けたり、斜めに置いたりすると、動きがある感じ。 ・背景の色を生かして、紙の向きを変えた方がいい。 	<p>□先生にとって「生きているということ」は、「みんながいて笑いあっているということ」です。嬉しい気持ちや安心感を出したいです。そこで、アイデアスケッチを3枚描いてみたので、どれがいいか、みんな相談にのってください。</p> <p>△3種類の絵は、それぞれどんな感じがしますか。</p> <p>△背景の紙にどのように配置すると良いでしょうか。</p>	
<p>自分の想う「生きる」をよりよく表すためには、画面の中に絵をどう配置すると良いだろうか。</p>		
<p>2 アイデアスケッチの中から、自分の想いに合ったものを選ぶ。</p>	<p>○自分の想いに合っているスケッチはどれでしょうか。</p> <p>□アイデアスケッチの中から、自分が使いたいものを選びましょう。</p> <p>□自分で選んだ後、班の友達の感じ方を聞いてみましょう。手立て③</p>	
<p>3 表したい想いに合わせて画面構成を考える。</p> <p>・スケッチと背景を重ねながら、自分の表したい想いを確かめる。</p> <p>【予想される児童の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この部分の色を生かしたいけど、絵が重なってしまうからどうしようかな。(絵を分けて描こうかな。) ・楽しそうな感じにするために、絵を斜めに置いてみようかな。 ・この色がイメージに合っていたよ。 ・縦長の方が、未来感を表せるかな。 	<p>△自分の想いをよりよく表せる背景は、どれが良いでしょうか。</p> <p>○自分の想いをよりよく表すために、どのように配置しますか。</p> <p>□あとで背景に色を付けくわえたりしても大丈夫です。</p> <p>□紙の向きを変えたり、絵を重ねておいてみたりして、自分の想いに対して納得がいくように試してみましょう。手立て②</p>	<p>・アイデアスケッチと背景の紙を重ねながら、想いに合った背景色を選ぶことができたか。【観察】</p> <p>・画面構成を考えて、背景にスケッチを配置することができたか。【観察】</p>
<p>4 今日の学習をふり返る。</p>	<p>□ノートに、課題に対するふり返りを書きましょう。</p>	



題材名

名画の中に入ってみたら

小学校第6学年2組 A表現(2)

小学校

授業者

釧路市立共栄小学校

高野 恵輔

1 題材の目標

名画を立体化する活動を通して、奥行きやバランスなどの造形的特徴を捉えることができる。また、パーツを組み合わせたり、付け加えたりするなどの空間構成をする際に表現に対する考えを互いに伝え合うことによって、作品に対する自分の見方や感じ方を深めることができる。

2 題材設定の理由

(1) 児童観

	質問事項	本学級	6学年
1	図画工作の学習は好きだ	3.3	3
2	図画工作の授業で難しいけれど、やりがいを感じることもある	3.25	3.22
3	図画工作の授業で自分の力でどうにもできず困ったことがある	2.72	2.55
4	他者の意見が自分の表したいことに役立ったことがある	2.90	3.16

(図画工作の授業に関する意識調査 4段階評価)

上記は5月に実施した意識調査である。本学級の児童は図画工作の授業が好きで、意欲的に取り組むが、自分の力だけで発想や表現方法を追究することに難しさを感じていることが窺える。本題材では、グループで共同作品をつくることになるが、単なる作業分担ではなく、友達と話し合い、意見を受け入れたり、批評したりする場面を多々設ける。「他者との関わり」を通して作品に対する見方や考え方を深め、より良い作品作りに向き合う姿勢を養いたいと考える。

(2) 題材観

本題材は、自分の興味・関心をもとに名画を選び、立体化するという鑑賞と表現を一体化させた題材である。制作については3～4人のグループで行うこととする。名画を立体化するためには、名画の細かい部分一つ一つまでしっかり見なければならず、形や色、奥行きなどの造形的特徴を捉えながら、じっくり鑑賞しようとする姿勢が求められる。また、本題材では、パーツの重ね合わせ方や色合い一つによって出来上がる作品のイメージは大きく異なる。パーツを制作・配置する過程で「もっとこうすれば良くなる」「高さがもう少し必要になるのでは」などと、必然的に他者と協働する場面や実際に試しながら制作する「試行」の場面が生まれ、自分の感性を磨くための

思考が働くこととなる。また、作品の中に自分を入れることによって、作品に自分らしさを表したり、自分が捉えた名画の良さ、美しさを表すことができる。

3 評価規準

【関心・意欲・態度】

・空間構成やバランス、色の鮮やかさなど名画についてのイメージを積極的に友達と共有しながら、自分たちの表したいことに向かって活動に取り組んでいる。

【発想・構想】

・名画を鑑賞して感じた良さや面白さ、立体化を通して改めて気づいた名画の良さや美しさを基に、空間構成や表現の構想を練っている。

【創造的な技能】

・表したいイメージに合わせて、着色や表現方法を工夫したり、制作の順序に見通しを持って創造的に表現したりしている。

【鑑賞】

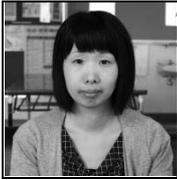
・名画を鑑賞、立体化する中で名画の良さや美しさ、表現の意図や特徴を捉えることができる。

4 指導計画(全7時間)

時	学習活動 手立て①
1	釧路市立美術館の学芸員を招き鑑賞会を実施し、絵画の表現についての興味や関心を深める。 ※鑑賞する作品は、作る作品とは異なる。
2	パーツの重なり方、並べ方によって印象が異なることを知る。 作品の裏側などを想像しながらパーツの配置や奥行き、大きさなどを考える。
3	大きさやバランスなどを考えながらパーツを切り出す。
4 本 時 5	パーツを配置してみて、大きさや奥行き、更に必要なパーツなどについて調節する部分をグループで話し合い考える。 パーツに着色する。
6	基になった名画を再現できるよう、奥行きや全体のバランスなどの空間構成についてグループで話し合いながら、パーツを配置する。 「自分」をつくり、作品の中に置いてみることで現れる面白さを感じる。
7	「立体名画発表会」を行い、友達の作品に対する色々な見方や感じ方に気づき、共感したり良さを見つけたりする。

5 本時の学習展開（4／7時間目）

<p>本時の目標 名画の表し方を基に、大きさや奥行き、配置を選択し、立体化して表すことができる。また、友達と話し合うことを通して、よりよい表現方法を考えたり、自分の考えを明確にしたりすることができる。</p>		
学習活動	主な働きかけ・手立て	備考／評価
<p>1 前時までに作成したパーツを土台に仮留めをして配置を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さが合わないな ・パーツが大きすぎたかも。 ・パーツを増やしてみよう。 </div>	<p>□作ったパーツを実際に組み合わせてみよう。</p> <p>○「名画」に近づけるために、工夫できる場所はどのようなところだろう。</p>	<p>パーツの配置を通して自分たちの作品の課題を見つけることができる【観察・ワークシート】</p>
<p>「立体名画」を「名画」に近づけるためにどのような工夫が考えられるだろうか。</p>		
<p>2 全体場で自分達の作品について上手くいった点、これからの課題を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ややパーツが少ないようだ。 ・パーツとパーツの距離感が重要。 ・遠くのパーツは小さく作るのではない。 </div>	<p>△「小さく見せる」ということは、「小さく作る」ということだけなのだろうか。</p>	
<p>3 他グループが発見した課題も参考にしながら、自分達の課題を改善するためにパーツを配置したり、作り替えたりする。</p>	<p>□「奥行き」や「大きさ」、「重ね方」を意識して、パーツの配置を決めよう。手立て②③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで選んだ名画を見ながら空間構成を考えさせる。 ・着色のことも考え、パーツは仮留めとする。 	<p>友達との話し合いや試行を通して、自分のイメージを実現するための工夫を考えることができる【観察】</p>
<p>4 必要に応じ、パーツにモデリングペーストや紙粘土などをつけ、半立体にする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名画の筆跡を見るとデコボコしている。 ・パーツに凹凸をつけてみてはどうだろう。 </div>	<p>△これからパーツに着色をするのですが、配置だけで作品に「立体感」を出すことはできるだろうか。</p> <p>□作品をより「立体的」に表すためにどのような工夫が必要になるのか話し合おう。手立て③</p> <p>□作品に自分を入れるとすると、どこに入れるだろう。また、その理由も考えよう。</p>	
<p>5 自分を入れる場所を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が一番気に入っている部分に入れよう。 ・鑑賞を通して新しく発見した、面白い部分に自分を入れることにしよう。 </div>	<p>□今日の授業を通して、考えが広がったことや深まったこと、次の時間の課題をふり返ろう。</p>	
<p>6 授業のふり返りをし、ワークシートに記入する。</p>		<p>友達との交流や試行を通して自分のイメージや考えを拡げたり、明確にしたりしようとしている【ワークシート】</p>



題材名

和をつなげよう

中学校第1学年1組 A表現(2)ア, (3)

中学校

授業者

釧路市立共栄中学校

橋本 加会

1 題材の目標

連続模様の造形的なよさや美しさを感じ取り、単純な形を規則的にくり返す模様構成を理解しながら、装飾を考えて構想を練り、創造的に表現できるようにする。また、制作過程の中で他者と関わりながら、自己の見方や感じ方を広げ、よりよい形や組み合わせ、色彩の工夫につなげられるようにする。

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

本題材で目指す生徒像は、「目的や条件などを基に、部分と全体の美しさや調和を考え、試行や再考をくり返し、自らの表現を広げていく」姿である。対象学級は、美術の学習に関する意識調査(4月実施)において、「最初のイメージから完成まで、イメージが変化することは多くある」(62%)、「制作中に他の人にアドバイスをもらい、自分の表現が変化した経験がある」(62%)との結果から、制作過程における試行や再考、交流が有効に働き、自分のアイデアが発展・深化したという実感をもてずにいるといった実態がわかった。そこで、個人の確かな思考や試行の上、さらに発想を広げたい・深めたい・確認したいとの意欲が高まった場面において他者との交流を設定することで、自己の価値意識の確認や、新たな価値意識に気づかせ、目指す生徒像に近づけていきたい。

(2) 題材観

私たちの身の回りには、装飾性に優れたさまざまな模様が見られる。ただ、それらは意識して見つめない限り、造形的なよさや美しさに気づかないだろう。模様の中でも連続模様は、部分としては一つの単純化された形でも、組み合わせるとつながることによって、全体で見たときに複雑でさまざまに変化していくという造形的な面白さがある。本題材は、「A表現」(2)アと(3)の内容に該当し、1学年においてはデザインを学ぶ入り口として、目的や条件などを基に、「美しく魅力的な構成とは何か」を考えながら発想や構想を練ることをねらいとしている。本題材では、生活用品の中に生きる連続模様を取り上げ、単純な形の規則的なくり返しによって生まれる連続模様の魅力に触れ、構成美を感じ取る基礎的な視点・考え方

を育みたい。また、個に閉じた感覚にとどまらず、他の生徒も感じる美的な感覚や発想の相違を意識させる場を設定することによって、自分の見方や感じ方を発展・深化、再確認できるようにしたいと考える。

3 評価規準

【美術への関心・意欲・態度】

・連続模様の表現方法に関心をもち、創意工夫して主体的に表現しようとしている。

【発想・構想の能力】

・使用の目的や構成の条件、表したいイメージなどを基に美的感覚を働かせて、形の連続性や規則性を生かした構成や装飾の構想を練っている。

【創造的な技能】

・表したいイメージをもちながら、意図に応じて材料や用具の特性を生かし、制作の順序を考えながら見通しをもって表現している。

【鑑賞の能力】

・連続模様の造形的なよさや美しさ、工夫について自分の思いや考えをもって伝え合い、構成や装飾について見方や感じ方を広げ鑑賞している。

4 指導計画(全7時間)

時	学習活動 手立て①
1	○江戸小紋や身の回りにある模様の鑑賞から、連続模様の構成を学ぶ ○連続模様を構成しながら、形の特性に気づく ○形の構想を練る
2	○形の特性に着目して、2パターンの形を選ぶ ○形の型枠を作成する ○連続模様のバリエーションを考える
3 本時	○形を他者と交流し、連続模様のバリエーションを広げる ○連続模様を再考し、決定する
4 5	○ブックカバーへの構成を構想する ○用具を正しく安全に使い、形を彫る ○試し押しをくり返しながら改善を図り、ゴム版を完成させる
6 7	○色みによる印象の違いを確認する ○色を選択し、ブックカバーに押す ○完成した作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさに気づく

5 本時の学習展開（3／7時間目）

本時の目標 個人で考えた形の交流を通して、模様の変種を広げることができる。また、一つの形のくり返しで生まれる新たな形よさや美しさに着目し、連続模様を再考・決定することができる。		
学習活動	主な働きかけ・手立て	備考／評価
1 前時に考えた模様をふり返り、感想を述べる。 【予想される生徒の言葉】 ・形Aであまり模様ができていない ・形Bの方が色々なパターンで作やすい	<input type="checkbox"/> 前時では、どれだけのバリエーションができましたか。 <input type="checkbox"/> もし、こうした模様のブックカバーが店頭に並んでいたら、私たちは思わず「おっ」と手に取るだろうか。	
思わず「おっ」と手に取りたくなるブックカバーの模様を考えよう		
2 形Aと形Bの型枠を交流し、新たな模様を考える。 【予想される生徒の言葉】 ・形Aの方が、すき間に色々な形ができる ・回転させた方が面白い模様になる ・斜めにつなげてみては？	<input type="checkbox"/> 他の人に形を託して、模様の変種を広げてもらおう。 手立て③	【観察・スケッチブック】
3 交流から増えた模様を鑑賞し、造形的なよさや美しさを確認し合う。 【予想される生徒の言葉】 ・形と形の間に花のような形ができる ・単純な形のくり返しでも変化があるところ	<input type="checkbox"/> 出来上がったバリエーションの中から、「おっ」と目を引く模様を選んでみよう。 <input type="checkbox"/> 「おっ」と思った理由は一体何だろう。どんなところがよかったのだろうか。 ・形と形の間にできる間の形の存在 ・くり返すことによって生まれる変化	【発言】
4 くり返しの中で生まれる形を意識しながら、構想を再考し、模様を決定する。	<input type="checkbox"/> ブックカバーの完成をイメージして、連続模様を決定しよう。	【観察・スケッチブック】
5 今日の取り組みをふり返り、学習のまとめを記入する。	<input type="checkbox"/> 自分と他の人のアイデアをふり返り、感じたことや模様の決め手となった理由などをまとめておこう。	



題材名

一步を踏み出す靴

中学校第2学年A組 A表現(1)ア(3)ア B鑑賞

中学校

授業者

北海道教育大学附属釧路中学校

更科 結希

1 題材の目標

自分の夢や未来に対する願いをもとに、履いてみたい靴のデザインを構造的に理解しながら、表現意図や材料の特性を活かし構想を練り、創造的に表現することができるようにさせる。また、作品の意図や表現の工夫に着目しながら鑑賞し、自分の価値意識を持ち批評し合うなどして、より良い表現に結びつけられるようにする。

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

本題材では、主題を基に表現方法を創意工夫し創造的に表すことや他者の表現の意図と工夫に着目し、美術の見方や感じ方を深められるようにしたい。

	質問項目	本学級	2学年
1	美術の授業には何らかのねらいがあり、その学習によさがあることを強く感じている	3.61	3.5
2	授業で学んだことを他の学習や生活の場面で生かされていること経験したり、自ら実際に使ってみようとしたことがある	3.2	3.3
3	製作中に他の人にアドバイスをもらうことは、あなたの作品制作に効果的ですか	3.58	3.7
4	今まで関係がないと思っていたことにも、こんなつながりがあるかと感じた	3.45	3.4

(美術の学習に関する意識調査 4段階評価)

上記は、4月に実施している意識調査であるが、美術の学習が他の場面において生きて働く能力としての捉えが学年に比べ低いこと、他者のアドバイスが効果的に為されていないことが窺える。これは、表現する活動がその場限りのものとなっていることや、表現の意図や工夫を関係づけて「みる」ことが不十分であると考えられる。したがって、言語活動を通して見方・感じ方を深め、改善を図っていききたい。

(2) 題材観

学習指導要領では、夢や想像などを大切にしながら造形的な工夫を一層深め、自らの独自性の発揮や造形感覚を発揮しながら、材料や用具の生かし方を深め目的や機能などを総合的に捉え表現の構想を練ること。そして、発想や構想したものを形にする技能を働かせる際に、材料や用具、表現方法などの特性を生かし、工夫するなどして創造的に表現することが求められている。

本題材は、自分のこれから実現したい想いに一步踏み出すために履いてみたい靴の構想を練り、実際に段ボールやクラフト紙を使って表現するものとした。この時期は、自己を今一度見つめ直し、自分のこれからへの想いを馳せ考えることは大切であり、それを主題に結びつけ、発想や構想したものを、表現の工夫をしながら表していく学習活動としたい。

靴は、私たちの足を守る役割を持ちつつ、機能性や装飾性を重視したものへと変化を遂げてきた。人の歩みを進めてきた靴の存在に着目し、自分がこれからどのような歩みを進めていきたいかについて考え、靴のデザインに想いを乗せて表現することを目指していく。

前題材との関わりを意識させることや本題材において、他者と具体的なデザインとイメージを結びつける場の設定、そして実際に表現していくための試行を行い、生徒が表現の工夫に着目しながら創造的に表すことを目指せるようにする。

3 評価規準

【関心・意欲・態度】

・主題を基に、材料の特性を生かし主体的に構想を練っている。また、他者の作品に関心を持ち、主体的に見方や理解を深めようとしている。

【発想・構想】

・感性や想像力を働かせて、自分の夢や未来に対する願いを基に形や色彩の効果を生かして、靴の構造や形の美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。

【創造的な技能】

・造形感覚を発揮しながら、紙の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序に見通しを持ちながら創造的に表現している。

【鑑賞】

・作者の意図と表現の工夫を感じ取り見方を深め、批評し合うなどして、自己の価値意識を高め幅広く味わおうとしている。

4 指導計画(全7時間)

時	学習活動 手立て①
1	・様々な靴を鑑賞し、靴の成り立ちや役割について交流し考える。 ・前題材で表した理想の自分の姿に履かせたい靴について構想する。
2	・紙をどのように加工でき、着色できるか試行する。 ・型紙をつくる。
3	・靴を構成するパーツを準備し、型紙で形成していく。
4	・形の調整や配色を考え、自分の一步を支える形として再考していく。 ・マケットに形の変更や色の計画を書き足していく。
5	・靴の細部を形成する。
6	・着色や質感の加工をして形づくりをする。
7	完成した作品を鑑賞し、それぞれがどのような想いで表現してきたかを知り、創造したものへの価値を確認する。

5 本時の学習展開（4／7時間目）

本時の目標 作品の意図を基に、形のデザインや色、質感を検討し、マケットに表すことができる。また、仲間の表したい想いを踏まえ、よりよい表現の工夫につながる意見を述べることができる。		
学習活動	主な働きかけ・手立て	備考／評価
<p>1 前時の学習を振り返り、自分の靴の型紙で改善すべきことを見つけ、マケットを修正する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・型紙の過不足。 ・部品が足りないところがある。 ・履けるかどうかわからない。 </div>	<p>○前回の授業では型紙を作り、靴の形にしてみました。立体的になったことで、イメージも掴みやすくなったと思いますが、改善したいことはありますか？</p> <p>△履いてみて、気付くことは？</p> <p>□履いてみて思い描く靴の形にするために、鉛筆で直接マケットに描いてみよう。</p>	【観察】
<p>2 これまでの学習をふり振り返り、形や色、素材に関わって自分の想いを表現するために工夫できることをワークシートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される生徒の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材のスクラップから選択する。 ・色から受ける印象を大切に選択する。 ・形の再考。 </div>	<p>○今回使用する素材で靴を作るときに、どのような工夫ができ、表すことができるだろうか。</p> <p>□構想カードにアイデアを追記しよう。</p> <p>△素材の実験を思いだそう。</p> <p>△色の選択は、どの色にするかだけの着目で良いだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質感の目安はクロッキー帳から選択 	【ワークシート】
<p>君の一步を支える靴は どんな形・色で表したら良いだろうか</p>		
<p>3 構想を練り、型紙に書き込こんだり、色見本を貼ったりしながら表す。</p>	<p>□マケットに直接書き込んだり、色見本を貼るなどして、すぐわかるような形で構想を練ろう。 手立て②</p>	【マケット・観察】
<p>4 仲間の一步を支えるためのアイデアを伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される生徒の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この色あいでは、明るく感じてイメージと離れているように思う。 ・ここの形がもっと長い方が良い。 ・素材感は、このプランの方が適しているのではないか。 ・この色の中でももっと暗い色の方が他の色と合う ・質感を他と変えてみた方が良い。 ・自分の軽やかな一步には暗い色だったから別な色に。 </div>	<p>○仲間の一步を支えるために、表そうとしている一步と形や色は一步を支えられるものになっているだろうか。</p> <p>□自分のプランを仲間に伝えて、仲間が受け取った印象と意見を聞いてみよう。 手立て③</p> <p>△自分の意見とは異なるけれど、再考できそうな意見をもらった人はいますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色、質感のもたらすイメージについて確認し、その決め手になる自分のどんな一步が大切であるかの理由の補足をしていく。 <p>□意見を元に、マケットに修正や加える事を描き足していこう。</p>	【観察】
<p>5 今日の学習をふり振り返り、次時の検討事項と方向性についての考えをワークシートに書く。</p>	<p>□検討事項や決定したことなどについて自分の考えをまとめてみよう。</p>	【ワークシート】



題材名

ことばのイメージ
～ミニマル・アニメーション～

高校第3学年選択 A表現(3)映像メディア表現

高等学校

授業者

北海道釧路江南高等学校

上野 秀実

1 題材の目標

ことばが持つ意味や内容を元にそのイメージを表現の材料として文字を用いて造形することができる。動きや形の変化及び場面転換など用いた映像の効果を理解し、工夫しながら表現することができる。

また、実際にアニメーションを制作する過程で生徒が自らの表現に対する考え、意見を述べ合うことによって更に思考が深められるような協働的な学びができる。

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

本校における本授業(美術Ⅲ)で対象となるのは1,2年次で連続して美術Ⅰ,Ⅱを履修選択した生徒であり、美術系の進学を進路目標とする場合や生涯に渡って愛好したいと考えるような美術に対する興味や関心の高い生徒が選択する。美術部で絵画制作の経験もあるが、映像メディア表現に対しては鑑賞の機会が多いものの、造形的な理解や創作活動に対する経験はほとんどなく、主体的な創作活動として選択されることがないのが実状である。

(2) 題材観

現在、スマートフォンを所有しインターネット上でのコミュニケーションを行う生徒の割合は非常に多く、カメラやビデオ機能を利用した個人レベルでの表現が可能となった。こうした状況から生徒たちにとって最も身近な表現方法のひとつとなった「映像メディア表現」は主体的な学びに結びつけることができると考える。絵画や彫刻などと異なり、映像メディアでは「時間」という造形要素を意識した創造活動が行われる。これまで経験のない造形的な見方・考え方を働かせることで、発想や構想したことを基に、意図に応じた表現方法を工夫して表す創造的な技能を身に付けさせたい。本題材では、ことばの持つ意味や内容を表す文字をキャラクターとしてアニメーション表現を行う。映像によるイメージの共有をめざした造形活動により、美術の働きや美術文化についての理解を深める資質能力を育成すると共に画像の編集など生徒が相互に考えを持ち、交流する過程で他者の考えや視点に触れることで新しい意味や価値を獲得することができるだろうと考える。

3 評価規準

【創造的な技能】動画制作に必要な手順や場面の転換など、映像の特性を理解し表現に必要な機材が利用できる。

【発想・構想の能力】ことばの持つイメージを視聴覚的に表現するための考えを持っている。

【関心・意欲・態度】映像メディアに関心を持ち、技術や知識の習得に積極的に取り組もうとしている。

【鑑賞の能力】動画作品の鑑賞を通じ、作品のねらいや目的に適した構成や技法などがどのように使われているかを理解したり、生活や社会の中の映像表現について考えたりすることができる。

4 指導計画(全9時間)

時	学 習 活 動	手立①
1	「Word as Image」の鑑賞を通じて動画による表現方法の工夫や文字を使った表現について考える。	
2	アニメーションの種類と制作手順や方法などについて学ぶ。 カメラなどの機材の機能や動画編集ソフトについて学ぶ。 著作権や情報リテラシーについて学ぶ。	
3	ことばの持つ意味や内容についての考えを深め、表現方法の工夫について検討する。 ●をキャラクターとした絵コンテを制作して表現の考えの交流を行う。	
4	必要な●を色上質紙から切り出し、それを使ってアニメーションの試作を行い、具体的な動きをつくり、イメージがどのように表現されているかを確認する。	
5	文字をキャラクターとした表現の工夫を構想して絵コンテをつくる。 予めプリントされた文字をカッターで切り出す。	
6	文字を用いたアニメーションを制作するためのコマ撮りを行う。	
7 本 時	撮影したコマをつなぎ合わせ、再生した映像を鑑賞した後、コマ送りの時間の変化や順番を変える、効果音などを挿入するなど、映像としての効果を高めるための工夫について相互に話し合って編集の方向性を見出す。	
8	タブレットの編集アプリなどを使って、映像の編集を行う。	
9	作品を大型画面で鑑賞し、感想を交換する。 生活や社会の中の映像表現について考え、意見を交流する。	

5 本時の学習展開（7／9時間目）

本時の目標		
1 コマ送りの速さの変化やくり返しや逆進行，パンやズームなど映像や効果音などを入れた効果の工夫を考 えることができる。 2 動画の編集を通し，互いの考えに触れることで新たな価値や発見ができる。		
学習活動	主な働きかけ・手立て	備考／評価
1 前時までに制作した文字アニメーションを鑑賞する。 2 本時の目標を知る	<input type="checkbox"/> 編集しない状態のアニメーションを見せて，ことばの持つイメージをより効果的に表現するにはどのような工夫があるかを考えさせる。 <input type="checkbox"/> 「ことばのイメージをより高めるアニメーションとするためには，どのように工夫した編集とお互いに考えを出しあって制作をすすめます。」	1 単純なコマ送りの動画を鑑賞し，変化の必要性や工夫の考えを持つことができたか。【観察】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ことばのイメージをより高めるために，動画編集の工夫をしよう。 </div>		
3 動画に効果的な変化を与えるためにどのような編集があるのかを”Word as Image”の鑑賞を通じて知る。 4 自分たちが制作した文字アニメーションを鑑賞し，ことばのイメージが高められる工夫の考えを出し合う。 5 編集についての考えをワークシートに記入する。	<input type="checkbox"/> 「映像を編集して効果を高めるためにはどのような方法があるのかを”Word as Image”の鑑賞を通じて考えてみましょう。」 <input type="checkbox"/> 映像や音響的な効果が理解できるような構成で鑑賞させる。 <input type="checkbox"/> 変化させるには「コマ送りの速さ」「くり返し」「逆進行」「パン」及び「ズーム」など視覚的な効果と「効果音」「音楽（リズム）」による音響的な効果があることに気づかせる。 <input type="checkbox"/> 「それぞれが制作した文字アニメーションを鑑賞し，イメージを高めるために変化をつける部分をお互いに意見を出し合いながら発見しましょう。」 手立て③ <input type="checkbox"/> 出された意見を参考にして，それぞれの作品に必要な効果として，どのようなものが相応しいかを考えさせ，映像のコマを時系で並べたワークシート上に視覚，音響のそれぞれについて考えを書き込ませる。 手立て②	2 編集の効果が理解できたか。【観察】 3 必要な効果を具体的に自分の考えとして表すことができたか。【観察】 4 ワークシートに効果を書き込んでイメージの変化を具体的に示す。【ワークシート】
6 編集した効果がイメージを高めることを自覚する。 7 次回の授業について知る。	<input type="checkbox"/> ワークシートに書き込んだことで，どのようなイメージの変化があったかについて振り返らせる。 <input type="checkbox"/> 「次回は，実際に画像の編集を行います。」	5 自覚できたことを表すことができたか。【発言】

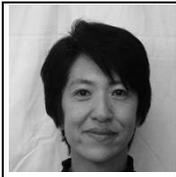
MEMO



			-				
--	--	--	---	--	--	--	--

提 言 集





題材名

豊かな感性より～こはん芸術館～

幼稚園 表現

幼稚園

発表者

北海道キリスト教学園湖畔幼稚園

安田みゆき

1 実践のポイントと「テーマ」との関係

昨年度は、「平和をともに」を主題に掲げ、カリキュラムを編成した。併せて、園だよりのタイトルも「つながる」と設定し、1年間の保育活動の全体を通じて、子どもたちを取り巻く周囲の物や人とのつながりを深めてきた。

本実践は、釧路市美術館の展示「魔法の美術館」を見学した際、子どもたちがとても感動したことに着目し、その感動をきっかけとして捉え、「自分たちの美術館を作ってみよう」という想いを紡ぎ、つなぐ活動へと発展させたものである。

ここではその成果と課題について述べていく。

2 実践の概要

(1) 題材について

毎年、本幼稚園の行事の一つとして行なっている「こはんまつり」（保育参観日）の取り組みは、その年度のテーマに沿って行なっている。

2016年度の取り組みは、子どもたちが釧路市美術館の展示「魔法の美術館～光と音のミュージアム」を見学した際に感じたことをクラスの友だちや教師に伝え合ったり、共有し合ったりする中で、「自分たちも“自分たちの美術館”を作りたい!」という想いを膨らませることから始めたものである。

この活動で大切にしたいと考えたことは、子どもたちが「見て」「触って」「感じた」ことをもとに、その子なりの想いを描くとともに、友達と話し合ったり、一緒に活動したりする中で、互いの想いを紡ぎ、つなぎ合わせてより大きな「想い」に育てることである。

そのために、話し合いの時間を十分に取るとともに、教師の関わりが誘導的なものにならないよう配慮し、子どもたち個々の想いを引き出す姿勢に徹することに努めた。

(2) 題材の目標

- こはん芸術館への作品作りに積極的に取り組むことができるようにする。
- 感じたことや考えたこと、気づいたことなどを自分なりに言葉や絵などで表現することができるようにする。

○友だちの作品の良さに気づくことができるようにする。

(3) 評価規準

- 自分の想いを表現することに積極的に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）
- 自分が感じたことや心に残ったことを、自分なりの言葉や絵などで表現することができる。（創造的な技能）
- 友だちの作品の良さに気づき、自分なりの言葉で伝えることができる。（鑑賞の能力）

3 指導計画（全20時間）

時	学 習 活 動
1 (1)	*見て感じる *芸術に興味・関心をもつ ・「魔法の美術館～光と音のミュージアム」を見学する。
2 (2)	*意欲的に考える～こはんまつりに向けた話し合い ・各クラスや各学年で感想等を交流する。 ・どんな取り組みをしたいかアイデアを出し合う。
3 (10)	*自分なりに表現する～作品の製作 ・考えたイメージを膨らませ、製作に取り組む。
4 (4)	*工夫する～展示の工夫と役割分担 ・出来上がった作品の展示の仕方を工夫する。 ・参観日当日の役割を決め、それに向けた準備を行う。
5 (3)	*達成感を味わう～“こはん芸術館開館!” ・参加者全員で本活動を楽しむことを通じ、達成感を味わう。



4. 実践の様子

(1) 釧路市美術館の展示「魔法の美術館～光と音のミュージアム」の見学

本実践の導入は、釧路市美術館で開催されていた「魔法の美術館～光と音のミュージアム」の展示を学年単位で見学させることであった。

子どもたちがふだんは何も意識することのない「光」や「音」が、表現を工夫することにより、芸術的なものになったり、



遊びの対象になったり、不思議な感覚に陥ったりするという印象的な出会いを体験させることができた。この出会いは、本実践を貫く「自分たちの美術館を作りたい」という想いをもたせる大変重要なものとなった。

(2) こはんまつり（保育参観日）に向けた話し合い

見学を終えた後、子どもたちが感想や印象を交流しあう場面を設けた。その中で多く出された意見は、『自分たちも「自分たちの美術館」を作りたい!』というものであった。さらには、「音」を表現するため、楽器を製作し、オーケストラの演奏にも挑戦してみたいという意見が出た。

そこで、より具体的な「自分たちの美術館」のイメージを膨らませるために、「どんな美術館にするのか?」について話し合う場面を設定した。子どもたちは、その過程を通じてそれぞれの想いを表出し、担任がそれらの想いを紡ぎ、つないでいくことで一人一人の子どもたちの想いを全体の想いへとまとめていくことに努めた。

■年長児のテーマ～「光と音」

- 牛乳パックを使った光のランタンづくり
- 廃品等を利用した楽器づくり
(ミュージックショップやオーケストラの演奏会)

■年中児のテーマ～「色」

- カラフルクレヨン
- きのこのマスコット 他

■年少児のテーマ～「自然」

- 木の枝のオブジェづくり
- どんぐりの帽子クリップ 他

■未就園児のテーマ～「日本のおもちゃ」

- 廃品等を利用したおもちゃづくり
(でんでん太鼓, けん玉, こま 他)

(3) 制作活動

「自分たちの美術館」を思い描きながら、具体的な展示品等を製作する過程においても、子どもたちは様々な意見やアイデアを出し合い、イメージを膨らませていった。

製作過程において担任は、個々の子どもたちに関わりながら、製作方法のアドバイスをしたり、苦手な作業を補助したりしながら、子どもたちの想いを具体的なものにするために配慮した。

(4) 展示の工夫と役割分担

みんなで話し合った「自分たちの美術館」を思い描きながら、展示品等をどのように配置すれば、どのような飾り方をすればよいかを工夫する活動を行った。

併せてこはんまつり当日の自分たちの役割についても話し合い、お店やさんやオーケストラの楽団員等の役割を決めていった。

(5) “こはん美術館” 開催!

自分たちが感じたことや話し合ったことが実際の作品として形となったこと、そして多くの保護者を招いて自分たちの作品を見ることができたことは、子どもたちにとって大きな達成感を味わうことにつながったとともに、自信をもつことにもつながった。保護者の反響も大きく、高評価をいただいた。



5. 成果と課題

見学をきっかけとして、自分たちが感じたことを表現し、それらをつなぎ合わせて「こはん美術館」を創り上げることができたことは、子どもたちにとって素晴らしい経験であり、その過程を通じて子どもたち個々の表現力を豊かに膨らませる貴重な機会となった。

幼稚園児という幼い子どもたちにおいては、発達の差は大きく、感じ方や表現の能力にも大きな個人差が見られる。その子その子の良さを受け止めて進めてきたが、一人一人が満足感を十分味わえたかどうかということには、課題があるといえるであろう。

しかしながら、「みんなで創り上げる」ことは「みんなの想いをつなげる」こと～その体験は、貴重なものであり、今後の表現活動のみならず、幼稚園生活の様々な場面において子どもたちの意欲や自信につながるものと考えている。



題材名

ざいりょうから ひらめき

小学校第2学年月組 A表現(1)ーイ

発表者

厚岸町立厚岸小学校

中島 愛

小学校

1 実践のポイントと「テーマ」との関係

「想いを表す」ためには、まず、児童が明確な「想い」を持たなければならない。

そこで、本実践では「新種の魚を表す」という共通の課題を設定し、自分が表したい魚に合った材料を使って絵に表すことができるようにした。

2 実践の概要

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領A表現(1)ーイ「感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること」、[共通事項](1)ーイ「形や色などをもとに、自分のイメージをもつこと」に該当する。また、平成29年3月に公示された新学習指導要領では、低学年において、資質・能力を育成するために「自分の感覚や行為を通して理解する」ことが求められている。これらのことから、本題材では「材料」から、「自分の感覚(視覚・触覚等)」を通して、「表したいもののイメージをもつ」ことを活動の重点とした。

はじめは、モチーフを決めず、自由に①材料に触れる→②表したいものが定まる(「想い」が生まれる)→③表現するという流れを想定していた。しかし、①から②の過程において、生活経験の差から材料に触れてもイメージを持つことが難しい児童もいるだろうと思われた。それでは、表したいものに対する自身の「想い」を持つことができないまま、作品をつくらなければならない。

そこで、「魚」という共通の課題を設定し、描く対象を焦点化した。そうすることで、児童全員が「魚を表す」という「想い」を明確に持った状態から学習を進めることができると考えた。(「魚」とした理由は、犬や猫などよりも完成イメージが沸きにくく、想像の余地があると考えたからである。)

また、「新種の魚」とすることで、「想い」をさらに深めたり、広げたりしていくことができると考えた。例えば、「〇〇が特徴の魚」と決めた場合、児童は自身の「想い」を実現させるため、その特徴に合った材料を探し、試行していく。それは、「想い」がより強まることにつながるだろう。さらに、様々な材料に触れる中で、「この材料は〇〇に使いそう」と、新たな「想い」が生まれる児童もいるだろう。つまり、同じ学習過程の中で、①「想い」をも

つ→②「想い」の実現のために試行する→表現する という過程と、①「想い」を持つ→②試行する中で新たな「想い」が生まれる→③表現する という二つの過程が実行されることになる。いずれの場合であっても、児童は常に自己の想いに触れながら、作品づくりに取り組むことができるのである。

本題材は、描くときに普通であれば用いることのない材料を使って絵を描くことが最大の特徴である。「イメージが沸かない」「どんな材料を使えば良いかわからない」というマイナスな気持ちをできる限り無くし、「材料を楽しむ」ことを目指したものである。

(2) 題材の目標

集めた材料の形や色、質感などの特徴を生かし、組み合わせたり加工したりしながら絵に表す。

(3) 評価規準

【関心・意欲・態度】

・集めた材料を使って、絵に表すことを楽しもうとしている。

【発想や構想の能力】

・材料の感じから、表したいことを考えている。

3 指導計画(全4時間)

時	学 習 活 動
1	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な魚の写真から、4つの観点をもとに特徴を押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ①体の表面 ②食べ物 ③住んでいる場所 ④得意なこと どんな魚がいたら面白いのか、最初に考えた4観点をもとにグループで想像する。 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">材料の特徴を生かして、新種の魚をかこう</div>
2	<ul style="list-style-type: none"> 材料を集める。
3	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料を試しながら、作品をつくる。
4	<ul style="list-style-type: none"> 作品発表会をする。 自分の作品のポイント(材料を生かしたところ)を発表する。

4 実践の様子

(1) 導入

一般的な魚の写真から、一般的な魚の特徴を押さえた。その後、「新種」という言葉を出し、普通では考えられないような特徴をもった魚を考えた。「土の中に住んでいる」「空を飛ぶ」など様々なアイデアが出てもり上がり、意欲の高まりが感じられた。その後、課題を提示するときに、「材料を生かす」こと、学習の最後に発表会をすることを説明した。「どのように材料を生かしたか」を自分で説明できるようにしなければならないという見通しを持つことができた。

(2) 材料あつめ

材料は、児童が準備したもの他、教師側でも発想が広がりそうなものや、感触の異なる布や紐を数種類準備した。一つ一つ材料に触れながら、感触を確認して選ぶ姿が見られた。人気があったのはビーズ、ふわふわした小玉、すべり止めの布であった。ビーズはキラキラしたところが、小玉は感触が、すべり止めは見た目が児童の興味を引いたようだった。



図1 感触を確かめながら、材料を選ぶ児童

(3) 作品づくり

どの児童も、夢中になって作品づくりに取り組む姿が見られた。「布のつるつるしたところが、魚のお腹に使えそう」「モールのギザギザが、ウロコに使えそう」と、材料からどんどんアイデアを広げていくことができた。一人、なかなか材料と作りたい魚とが結びつかず、悩んでいた子がいたが、空を飛ぶ魚をつくりたい→空を飛ぶためには、ジェットパック（児童の言葉のまま）が必要だ→ジェットパックに合った材料を探そう と、教師が問いかけながら想いをつなげていくことで、材料の特徴に注目しながら作品をつくることができた。

(4) 作品発表会

どの児童も、自分の作品に自信をもって友だちに紹介する姿が見られた。作品表に「〇〇（材料）の▲▲を生かして□□にしたよ」と書けるようにし、それをもとに発表したことで友だちにもわかりやすく伝えることができた。友だちの作品を見ることで、同じ材料でも異なる表現の良さを感じている子も多く見られた。



図2 完成作品①「くもごかな」

わたのふわふわを生かして、体にしたよ。
空に住んでる魚だよ。

折り紙のキラキラや、滑り止めのぶつぶつを生かしてウロコにしたよ。



図3 完成作品②「ばげごかな」

5 成果と課題

(成果)

- ・描く対象を焦点化したことで、児童の目的意識が明確になった。
- ・目的が明確になってから「新種」という表現の幅を広げる設定を取り入れたことで、さらに意欲が高まった。
- ・「作品発表会」というゴールがあることで、ただ作るだけではなく、「材料を生かしたところを説明しなければならない」という見通しを持つことができた。そのため、材料の特徴に注目することができた。

(課題)

- ・作品をつくっていく中で素材から想いを広げることができたが、初めにイメージした魚と素材があまり結びつかなかった。試行と作品づくりをほぼ同時進行で進めたが、材料に触れ、イメージに合う材料を探す時間を設けても良かった。
- ・何を材料の「特徴」とするのか曖昧だった。材料の色や模様に着目して作品をつくった子と、感触に着目して作品を作った子、それらを混ぜ合わせた子がいた。



題材名 ワークショップでつながる

「想い」をもつ・つなぐ、その前に

小学校 全学年 鑑賞（相互鑑賞活動）

小学校

発表者

日高町立日高小学校

岩崎 愛彦

1 テーマについて

本実践は各題材の最後に行う相互鑑賞活動の提言である。相互に鑑賞し、ワークシートに記入する子供の思考、学びの仕組みを追究するものである。自分の作品の「想い」へのアプローチ、友達作品の「想い」へのアプローチ、それぞれがつながる「仕掛け」がどのように存在するのか、またワークショップ的な活動を通して、「想い」に迫る意義について考えた。

2 実践を通して考える

(1) ある日の鑑賞～失敗から学ぶ～

学年の打合せの中で全ての題材の最後に「相互鑑賞会」をすることにした。鑑賞カードに記入し、年度末に個々のカードをまとめて冊子にするところまで確認した。

さて、実際に鑑賞の時間となった。隣の学級担任は、授業開始時すぐに鑑賞カードを配付した。その後子供たちは、自分の作品を見て悩みながらも記入していく。作文が苦手な子はなかなか書けない。文章が得意な子はどんどん書いていく。このようなシーンを見ると、少々残念に思う。ここでの問題点は何なのだろうか。

この場合、今その子がもっている文章能力でワークシートを完成させているだけなので、「鑑賞」のプロセスや学びをそのワークシートから読み取ることはできない。文章能力の差は鑑賞能力の差ではないことは明らかだ。同じ鑑賞カードを用いても、書けない子は鑑賞していないとは言えないからだ。

子供たちは自分の作品を見つめる前に、受け止めたりよさを発見したりする心と目の準備ができていないのではないのだろうか。

(2) 「想い」を広げ、「書く」につなげる

前述のように、鑑賞カードに「書く」ことはよく行われる。しかし、「どのように考えさせるか」を押さえていないことが少なくない。書かせたい教師は子供に、「頑張ったことを書きなさい。」と言ってしまふ。「頑張った」は「充実」も含むが、「苦痛」も含んでいる。図工の授業は苦痛を強いるものなのだろうか。

また、ワークシートを用いる時、書くことが「目的」になると「書かせる」ことに縛られてしまふ。「書く」は学びの確認のための「手立て」でしかないのだ。子供自

身が「書きたいこと」そのものに気づき、考え、深めることができているから書けないと受け止めなければならない。



この「書きたいこと」は、つくった作品の主題に迫っていたり、表現のよさについて考えさせるきっかけになったり、製作過程を想像したりすることになり、「創造的な技能」の自覚に結びつくことになる。目的意識のない活動は単なる活動であり、学びが存在しないのは明らかである。子供たちにとってまさに主体的な活動であり、自ずと深まっていくものにしなくてはならない。

では、どうしたら主体的に書きたいことがふくらむのであろう。

3 鑑賞ワークショップでつながること

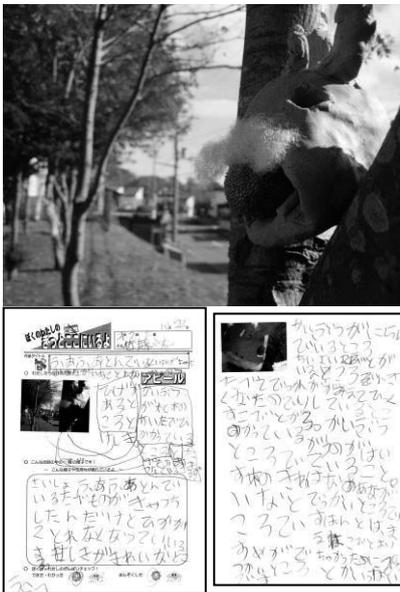
これまで、ワークショップ的な相互鑑賞活動により、「見たい」「想像したい」「語りたい」という意欲あふれる場をつくることにこだわってきた。そういう活動により、柔軟な「頭づくり」をした子供たちは自分の作品の中に入り込み、より客観的な見方により、よさに気づくようになると考えた。そこで以下の手順による「なりきりプレゼンテーション」でそのよさを考える。

過程	学 習 活 動
1	4人グループをつくり、自分の作品を交換する。(機械的に変えることが大切)
2	グループ内で発表の順番を決める。 (全体で誰がいつ発表するのかを確認する。)
	・発表する作品の本当の作者は、自分の作品の発表を聞かなければならない約束とする。 ・発表に直接関係ないメンバーは、必ず他のグループの発表を聞きに行かなければいけない。
3	自分の担当になった作品を1分間だけ静かに見つめる。
3	<よいところさがし>

	〈なりきり変身タイム〉
4	場所を移動し、他のグループの発表を2分間で聞く。 ※発表者は、その作品のよさ、制作時に考えたこと、工夫したことなどを想像して語る。
5	時間になったら、次の発表者と本当の作者以外は別の発表者のところへ移動する。
6	3, 4の活動を繰り返す。
7	全員の発表が終わったところで、全体シェアリングを行う。(よい発表の紹介、よさの発見に驚いた作品の紹介など)

本活動は、他の子供の作品について、みんなに発表しなければならないという一つのフレームを設定している。その中で必死に考えることで、柔軟な見方を自然に身に付けることができる。その活動が、対話により「楽しい」場であったり、自分とは違う見方や受け止め方を知る「発見」の場であったりと有用感を実感できる場となる。

さらに重要なのは、この活動の中で他者の作品を扱うため、客観的に作品を見つめ、かつよさを見つめる見方ができる。そうすることで、活動後に自分の作品を見たときに、自ずと客観性をもった好意的な見方をするようになるのだ。すなわち、自分の作品を見たときに、「よさ」を再発見しようとし、「つくる過程」を客観的に振り返り、よりよい方法を創造的に考えることができるのである。その結果、作文の得手不得手に関係なく、書きたいことを全員がもち、積極的に書けるようになる。実際に、作文を一行書くのに苦労する子が、右のように用紙の裏面にも書くようになったのである。



4 職場でもつながる

(1) 子供への関心、授業への関心

まず授業の中で、どの子も意欲的で主体的に活動している姿を他の教師にも見せる必要がある。自然に頭が近寄る交流活動から、自分にもできそうだという関心をもてるようにし、同時に授業で求める子供の姿をイメージしてもらえようとする。すると、手立ても工夫される

ようになっていく。こうして、多くの学年で子供の「想い」を大切にしたい授業を積み重ねられるような体制ができていく。このように、同じ職場の仲間とともに授業の向上を目指すことが、結局子供たちのためになるのだ。



前任校では毎年公開研が行われていた。年に一度しかできないようなごちそう授業ではなく、あくまで日常授業（「味噌汁・ご飯」授業）の公開がテーマである。そこで、子供たちが嬉々として参加する授業をつくりたいと考えた。その中で「鑑賞」に挑戦する教師が現れ、4名が図工の公開をすることとなった。

他学年の2人は、交流の仕方を自分たち流にアレンジし、タブレットを使って撮影した写真で語り合ったり、個別に相手を見つけて対話したりと「相互」の鑑賞の手立てを工夫していた。また、私の隣の学級の担任は、あえて私と違うテーマを考え、「友達の作品に題名をつけよう」という活動にした。面白い題名をつけてあげること、その作品の主題に迫ろうというものであった。それをもとにした話し合いでは「理由」を大切に話し合うよう働きかけていた。

教師が必死に「話し合いなさい」と言ってもだめなものだ。夢中になり、深く考えられる仕掛けが必要なのである。ただ、活動を与えて丸投げではなく、その中での個々の子供の考えや発する言葉などに十分関心を持ち、かかわってあげることで、子供たちは目的意識を持ち、能動的に作品に触れるようになり、見ることを楽しめるようになる。

(2) つながる活動がひろがる

鑑賞カードも他の教師につくってもらうようにした。すると、設問の文言が徐々に洗練されていく。題材のよさにせまる内容になっていくのだ。

ワークショップもしかりである。おもちゃづくりであれば「店（おもちゃ屋）」をイメージし、お金を払って体験させてもらう活動があった。このときお金の量で互いのよさを確認していた。その他「材料ビンゴ」や「よさキーワードビンゴ」などの簡単な活動、「寄せ書き」のようにみんなでコメントを書き合う活動など、多くの教師のアイデアを集めることで楽しい活動が広がっていく。職場での教師のつながりもとても大切だ。



題材名

未来のアーティスト

小学校第5学年1組 B鑑賞(1) A表現(2)

小学校

発表者

斜里町立知床ウトロ学校

藤下 昌世

1 実践のポイントと「テーマ」との関係

「他者とつながる」ことによって、自分の考えを深めたり、自己の価値を見つめ直したりする機会となるため、交流場面の設定に着目し取り組んだ。交流による学びは、表現と鑑賞を一体化することによって、効果が高められるのではないかと考える。

本実践において着目した「交流場面の設定」は、テーマである他者とつながるために必要な過程であり、その成果と課題について述べていく。

2 実践の概要

(1) 題材について

本題材は、作品をもとに、画家の描き方の特徴を見つけ、丸・三角・四角などの形を組み合わせながら、絵を完成させる。鑑賞における交流を通して単元の目標である「表し方の変化」を生むよう設定していく。

宇治山哲平氏の絵画は、単純な形(丸・三角・四角)などをいくつも使って描かれた絵が特徴的である。絵を見て、「どんな形が描かれているか」「私でも描けそう」と構えることなく活動できるといえる。また、アートカード(日本文教出版の教科書教材)にも選ばれている絵でもあり、アートかるたなどで親しむ機会もあった。また、交流を通して、表現と鑑賞の一体化を図ることで、自分の表したい事が、より鮮明になることを実感しながら、鑑賞を深め、表現を広げることを期待できる題材である。

(2) 題材の目標

- 作品を鑑賞し想像を広げ、特徴を取り入れながら絵を描くことができる。
- 感じたことや思ったことを交流し、表し方を変化させることができる。

(3) 評価規準

〔発想や構想の能力〕形や色の特徴を感じながら、構成を考え、表し方を構想できる。

〔鑑賞の能力〕仲間との交流を通して、自分の考え方を広げることができる。

3 指導計画(全7時間)

時	学 習 活 動
1	宇治山哲平の「阿吽」を観て、想像してみよう。 ・絵の中の場面を想像し、会話を考えよう。 ・吹き出しを使って、全体で交流を行う。 ・題名を考える。
2	宇治山哲平のヒミツを探そう。 ・どんな色や形が使われているか考える。 ・絵から共通して見られる特徴を整理し、共通確認を行う。 ・丸、三角、四角などの形に切った色画用紙を使って、描きたいものを構成する。
3	宇治山哲平の特徴を使って絵を描き、交流しよう。
4	・前時で見つけた特徴を確認する。 ・下がきを交流する。 ・どんな工夫をすると、もっと伝わりやすくなるか話し合う。 ・自分の描いた絵の「伝えたい事」が伝わるよう再考する。
5	交流の意見をもとに、絵を描こう。
6	・交流を通して、構成に変化はあったか。 ・水彩絵の具を使って描こう。
7	伝えたかった思いを、作品を通して伝えよう。 ・一人ずつ作品発表を行う。 ・作品を観て、感じたことや気づいたことなどを話し合う。

4 実践の様子

(1) 「阿吽」の鑑賞

本鑑賞作品は、写実的な絵とは違い、造形要素をもとに、様々な想像を膨らませることができる資料である。そのため、観方として、吹き出しを用いて、セリフを考えたり、仲間の考えたセリフの続きを考えたりすることを通して、同じ絵を観ているはずなのに、個々の感じ方が違うことのおもしろさ、友達の考え方のよさを感じ取れるようにした。

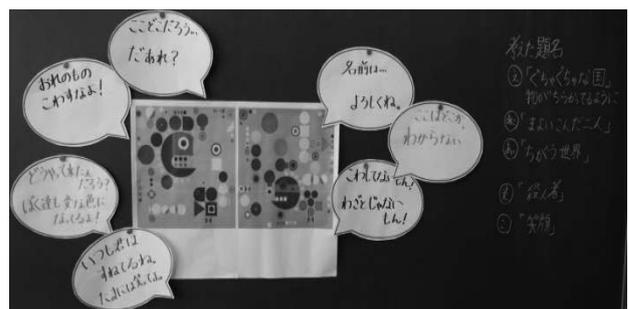


図1 宇治山哲平の絵を鑑賞しセリフを交流した様子

(2) 作品の交流

下がきの前に、色画用紙を使って構成し、友達作品の題名を当てる交流を行った。なかなか答えが当たらない子は、「もっとこうしたらいいのかなあ」と再考を続けていた。この交流によって、自分の中のイメージが固まって行き、よりよい構成を考えることができていた。

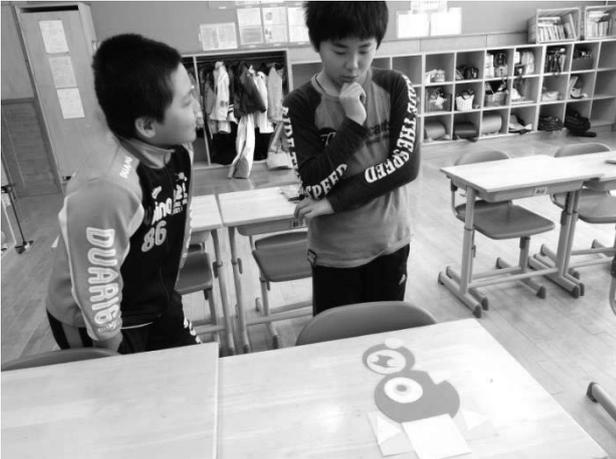


図2 色画用紙を用いて構成し、交流をしている様子

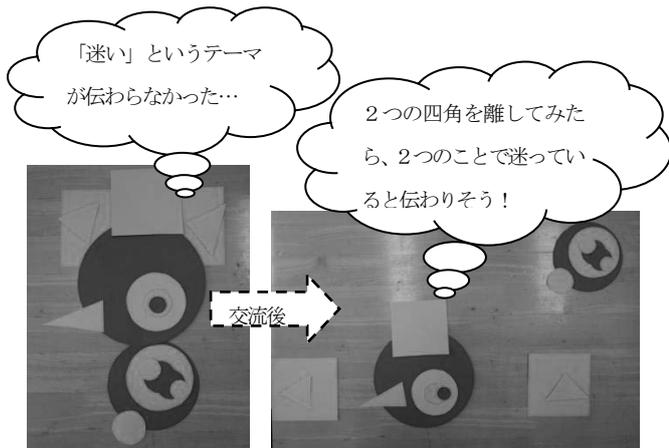


図3 交流を通しての構成の変化

(3) 作品の表現

表現では、絵を描くことに抵抗がある児童も、簡単な造形要素を組み合わせるといった特徴に、苦手意識を持たずに取り組むことができた。

普段なら、「自分だけではこれ以上考え付かない」と作業が止まり、「終わった」という声上がるが、友達との交流を授業の間に取り入れることによって、自分の伝えたい思いが伝わっていないことに気付いた。「もっと伝わりやすくするには…」と作品を考え直す必要性が出てくることにより、絵はどんどん変化していった。また、作品のテーマは、「身近なこと」から考えるようにした。そのことによって、自分の生活と結び付け、具体的なイメ

ージを膨らませることができた。

下がきの交流には、友達絵が「伝えたい事」とあっているか、誰にでも「伝わりやすいか」を意識して、アドバイスをし合った。付箋を使って、考えを書き、本人に渡すことによって、構成をし直す際の材料となっていた。

また、3度の交流によって、自分の伝えたい事を、自信をもって発表できるようになる姿が目立った。



図3 下がきした作品について説明している様子

5 成果と課題

交流を複数回取り入れることによって、「自分と他人との見方・考え方」の違いを知り、その違いを説明するために、自分の考えを伝える必要が生じた。相手に自分の考えや想いを伝えるため、子ども達は「造形要素」を根拠に、自分の見方・考え方を説明した。交流することによって相手意識が高まり、その成果として、これまで以上に、色や形、構成について、試したり、工夫したりする態度が見られるようになった。表現と鑑賞を一体化させたことによって、作品の特徴や面白さを実感することができた。

作品の完成後には、「自分の作品を伝えたい」という声があがるようになった。これは、子ども達が、作品に自信や愛着がもてるようになった結果だと考える。

改善すべき点は、交流の必要性を子ども達に強く感じさせることである。今回は色画用紙での構成と、下がき後に設定し実施したが、授業の様子から、「これは何を描いているの?」「題名は〇〇でしょう?」など制作の途中で互いに聞き合う様子が見られた。発見の言葉や、うなずいたり、覗きこんだりする動作、「すごい」「まねしたい」など友達の表現に対する関心を示す言葉が、どんな場面で行われるのかを見取り、流動的に交流する場面を設けることで、自己の表現を見つめ直し、伝えたい事がより明確になっていくのではと感じた。



題材名

私との対話・友人とのかかわり
～キュビズムによる自画像～
中学校第3学年 A表現(1)(3) B鑑賞

発表者

北海道根室市立歯舞中学校
宮田 玲二

中学校

1 実践のポイントと「テーマ」との関係

自己分析、他者分析シートを活用することで自分を表す色、形の特徴を深く見つけ直し、友人から見た自分のイメージの色、形を知る。自分・他者の固定観念、偏った見方だけでなく、その人の本質、雰囲気を感じ取ろうとする行為は大切である。自分を再発見することから表現へつなげていく。本実践において着目した「自分からみた自分、他者からみた自分」は、テーマである思いを繋ぐために必要な過程であり、その成果と課題について述べていく。

2 実践の概要

(1) 題材について

中学生ともなると自分の顔にコンプレックスをもつ子が増え、顔を隠すためにマスクをする子も増えてくる。容姿に自信がなかったり、友人からどう見られているかに過敏になる。そのため鏡を見て自分の描くということに抵抗感を持つ子も少なくない。写実的な絵に自信がないということもあるが、表現する以前の問題でもある。鉛筆の精密な下描きと絵の具で写真のような顔を描くことが目的ではなく、自分と友人と教師、環境が相互に影響し合っただけです。工作的な要素で切り、貼りもできることを知ることで安心して活動に取り組めるようにしたいと考えた。

導入では「泣く女」を鑑賞する。単純な形と構成の工夫による表現から部分と全体を読み取り、作者の思いを感じ取る。少年時代からの表現の変遷を知り、キュビズムの作品から多角的な視点から対象をとらえて表現することへつなげていく。

「表現」では、自分自身をキュビズムで表現する。発想段階で、自分の頭、顔、目、服、性格などのイメージカラー、輪郭、鼻、目などの形、大きさの特徴を自己分析し、友人にも分析してもらおう。構想のスケッチには形や色の説明も書く。描画材料をカラー段ボール、色画用紙、ポスターカラー、チラシ、プチプチ、ラメ入りネイル、キラキラジェル等々幅広く選択し使えるように準備し、絵の具だけでなく、異素材を組み合わせることでより自分のイメージに近づけてつくれるようにした。また、発想、構想力のウェイトが大きいので、絵画表現に苦手意識をもっている子もこれなら頑張れる、楽しみながら制作できる

気持ちになると考えられる。

(2) 題材の目標

- キュビズムと多様な素材、表現方法との関わりから自分の外見と内面を表すことを通して、表現の多様性を楽しむ。
- 他者と関わることから新たな自分を発見し、色と形で表す。
- 子どもたちが主体的に素材を材料化する行為を行い、表現を展開する。

(3) 評価規準

[発想や構想の能力]

キュビズムの表現方法から、色・形の単純化や強調、構成の仕方などを考え、自己・他者分析から自分の思いや感じたことを基に主題を生み出し、友人との関わり、異素材からのひらめき、描く・つくる行為の繰り返しから思考を巡らすことで、表現の構想を練っている。

3 指導計画(全6時間)

時	学 習 活 動
1	①ピカソの変遷について知る。 ②「キュビズム」「泣く女」について、感じたことを発表、記入する。 ③他の人の意見を聞き、自由に感じとり、写実以外の表現の楽しさを味わう。 ④自己を見つめ、制作していく流れを理解する。 ⑤鏡を見て、顔の正面を線画でスケッチする。
2	⑥鏡を見て、自分の横顔を線画でスケッチする。 ⑦友人に協力してもらい後ろ姿を描いてもらう。 ⑧他者分析&自己分析シートを使用し友人・自分のイメージの色、形を見つめ直す。 ⑨自他の見つけた自分の特徴を単純な形、色に変換・構成し下絵を描く。
3 4 5	⑩下絵を基にカラー段ボールや絵の具、異素材等の素材から材料を選択し、画面を構成して表現していく。
6	⑪評価票にテーマとキャプション(解説)を書き、作品に付ける。友人から付箋にコメントを書いて貼ってもらう。

4 実践の様子

(1) 他者との関わり

他者分析&自己分析では、自分がイメージする色・形と友人から見た自分に相違が多くあったことで他者との関わりから新たな自分が発見できた子どもたちが多くいた。この分析と多方向からのスケッチを基に下絵を描きながら構想を練っていた。下絵には色と形の説明を記入しているが、友人から告げられたイメージを自分の表現に取り入れようとしている様子が見られた。



図1 キュビズムによる自画像下絵

(2) 場の設定



図2 絵の具コーナーでスパッタリングで顔のニキビを赤く表現する生徒(既習事項をつないで新たなものを生み出している場面・・・「学びをつなぐ」)

美術室の後ろに長机を並べて絵の具塗りスペースを設置すると、数人集まってきて塗り始める。ラメの粉やネイル、キラキラジェルを置くと、手に取り、感触を味わい、どこに使えるか考え、思いついた子は使い出し、友人が使っている様子を見て即発され、他の子も使い出す。夢中になってラメ入りネイルを塗り始める女子、それを見て取り入れる一部男子、モダンテクニックを使う子、他者の刺激を受け、友人の取り組みが間近で見ることのできる場を介して、そここで他者とつながり、それが表現に生かされていた。

5 成果と課題

(1) 成果・・・普段なかなか思うように表現できない、発想が難しい子が、「泣く女」からインスピレーションを受けたのか、自分なりの表現に転換し、表現したいものへ向かって集中して取り組んでいた。「美術好きだ。」「面白い。」との声もちらほら聞こえ、図工との出会いのドキドキ感わくわく感、まるで小学生がキラキラした表情で図工に取り組むような中学3年生の姿が見られた。

絵の具コーナーを設けたことで自分の机では切り貼り、色を塗る時は絵の具コーナーへと活動場所を分けることで思いついた活動をすぐにできるようになったことと、自然と友人との表現の交流の場、制作過程の相互鑑賞の場も形成により、学びをつなげることができた。

他者分析&自己分析を行うことで、自分だけでなく、友人の本質、雰囲気を感じ取ろうとし、道徳の「思いやり」「個性の伸長」とも関連するが、それまでマイナスに捉えていた性格や姿を色や単純な形で表すことで自分らしさに転換していく様子も見られた。ここでは、2年次に家庭分野の衣服で行っていたパーソナルカラーの学習ともつながり家庭担当教諭から手製の色カードを借りたことでスムーズに進めることができた。他教科とのつながりもまた学びの深まりにつながった。

(2) 課題・・・小学校からの固定概念である髪は黒、顔は肌の色というところや、具象的な形・色からなかなか抜け出せないでいる子が数名いた。このことは限られた時数の中学校3年間のカリキュラム・題材設定の工夫、小学校、幼保との連携は欠かせないと考える。

他者分析&自己分析シートが一枚にまとまっていて使いづらく、わかりにくくなってしまったなどがあった。本題材の源になりうる部分なので、より効果的に活用できるようなシートの作成の工夫が必要であった。

本題材を実践してみて感じたことは、まだまだ学びが浅いということだ。他教科との連携も図り、より造形的な語彙や考えをまとめる知性を身に付け、造形的な見方・考え方を働かせ説明し合うことができる力の育成をしていかなければならない。

最後に、「学びをつなぐ」ということは、子どもたち同士だけでなく、子どもと教師、教師と教師、教師と地域、保護者、いわば「社会」とつながっていくことに他ならない。常に教師は狭い視野で物事を捉えるのではなく、広くアンテナをはり、社会情勢に関心をもち、流行をキャッチし、時には学校の外へ飛び出し、異業種の人々と交流し、つながることも大切である。



題材名

ストリートスタイルの源流 ～大衆音楽とファッション～

中学校第3学年 A表現 デザイン B鑑賞

中学校

発表者

北斗市立浜分中学校

九千房政光

1 実践のポイントと「テーマ」との関連

本題材は人間が生活するうえで大切な衣食住の中の一つ、衣装について着眼した。本実践において着目したファッションは、大会の視点にもある、「学びをつなぐ」視点、「生活を美しく豊かにする造形」において、密接にかかわってくる内容である。今回はその成果と課題について述べていく。

2 実践の概要

(1) 題材について

その時代の政治や、経済、常識に密接に結びつきながら進化を続けているファッション。現在、そのファッション、つまり流行を作り出しているのは、市民生活に密接に関わりながら発展してきた「ストリート・カルチャー」であるといえる。

第二次世界大戦以降、既製の普及とマスメディアの発達によってファッションが大衆化されると、社会進出を果たした女性や若い世代による文化が見られるようになった。

「ストリート・カルチャー」のパワーとその影響力はちょうど、中高生くらいの思春期特有の好奇心と純粋に自分の理想を追い求める考えにあると思われる。若者が大人社会に触れたとき、矛盾だらけの世の中に怒り、絶望し、猛烈な反発を起こす。そして、「自分らしく生きたい、世の中をこんな風にしたい」というような気持ちから生み出されたスタイルが、音楽やほかの文化と密接に関わりながら「ストリート・カルチャー」としての動きを生み出していると考えられる。

それは、これからの世の中に何を求めどう生きていくべきかを提案していく「デザイン」の本質と一致する部分でもある。

このような背景を踏まえて本題材を展開した。子供たちには、ストリートスタイルのルーツを楽しみながら振り返って学習していけるように、展開していった。

(2) 題材の目標

- ① 時代によって異なる大衆衣装の多様性と、大衆衣装が音楽や文化のスタイルと関係していることに興味を持ち、柔軟な感覚と判断力でその

よさやその時代の大衆衣装の目的を感じ取ることができる

- ② お互いに意見を出し合って協力し、工夫して目的に合ったデザインを作り上げることができる
- ② 友達の作品を相互に理解しながら鑑賞力を養うとともに、友達の作品のよさや個性を認めあう態度を培う

(3) 評価規準

【関心・意欲・態度】ストリートファッションに関心を持ちながら、自分の中でも目的に合ったものを具現化できた。

【発想や構想の能力】ストリートファッションの利便性を理解しながら自分の作品にも還元し独創的なものとしている。

【創造的な技能】切る、貼る、着色する。いずれの作業工程においても丁寧に行い、作業手順を計画的に行っている。

【鑑賞の能力】ストリートファッションに関心を持ち、音楽や文化のスタイルと関係していることを理解している。また、自他の作品を相互に理解しながら良さを感じ取っている。

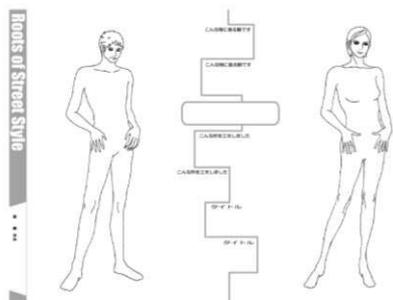
3 指導計画（全7時間）

時	学 習 活 動
1	14世紀バロック時代～1980年代初頭 フランスモード、ブルマースタイル、 ジャズスーツ、グラマー、ロカビリー、サブリーナ、etc ○ 様々なスタイルを鑑賞し興味・関心を高める。 ロック（ヘヴィーメタル）、UK・パンク、 ○ 知っているスタイルを音楽を聴きながら連想する。 1990年～現代テクノ、グランジ、ボディ・コンシャス、etc ○ 次時の課題を理解し、そのための準備と構想を練る。
2 ・ 3	『これからのストリートファッションを考えてみよう』をテーマとする。 デザインを考える。機能性・バランス 着せ替えの切り取り
4	デザインの確定 貼り付け

5	着色（色鉛筆・絵の具・コピック） 色のコーディネート
6	完成
7	作品交流 制作したものを班の中で交流し、良いと思うスケッチを選び、全体で発表しあう。 授業の総まとめとして自己評価をする。

4 実践の様子

生活に密接にかかわっているテーマなので自分の事のように取り組むことができている。また、ファッションにあまり関心がない生徒（特に男子）には作業に入りやすいように配慮した。（着せ替えシステム）



作業シート↑



着せ替え①↑

着せ替えがあると何とか男子も作業ができている。女子の中にはセブティーンやアンアンなどのファッション誌をもって来たり、アーミーファッションなどの資料、ゲームの設定資料を持って来たりしている子もいた。生徒にはそのまま作品に流用せず、機能やファッションの流れを考えながら自分のオリジナルの作品にしていこう指導した。

衣服を描く方法、シワや服の重なりなど、表現の難しいところがたくさんあった。イラストなどを描きなれている女子などは難なくクリアしているが、そうでない生徒は辛そうだった。

着色方法などを指導したら表現の幅に広がりが出てきた。

苦手な子も苦手なりにアイデアで頑張っていたように感じる。得意で大好きな子は生き生きとしていた。廊下に掲示すると。人だかりができていた。



5 成果と課題

人間の生活に根差した衣装。それをデザインする。様々な切り口で授業展開ができる題材である。

私の場合はこのような授業展開だが指導者によってはファッションというテーマをいろいろな角度からアプローチして指導していこう。

正直に言うと、予想通り、このテーマは男子は苦手分野で、着せ替えをそのまま流用する生徒が多い。何とか着色を工夫しようとするがストリートファッションを理解して作品に還元するまでは至っていない。

今後の課題はよりテーマに近づけるよう何かしらの仕掛けや工夫を凝らして、子供たちが限られた時間と制限された内容の中でいかに充実して、生き生きして、のびのびと表現できる方法がないか考えるのが課題である。

私は全道造形大会で毎年、各地方で指導されている先生方のパワーを感じたいと思いながら参加させていただいております。そして、可能であれば大会で得た実践方法を自分の学校でも実践したいと思いながら参観しています。仏像の鑑賞の授業も過去の本大会から参考にさせていただきました。

願わくば本題材に注目していただいて、何かしらの手を加えて実践し、実践内容を交流していただければ大変ありがたく思っております。



題材名

元気が出る T シャツデザイン～元気をかたちに～

高校第2学年1・2・3組 芸術選択美術II

高等学校

発表者

北海道釧路東高等学校

竹本 万亀

1 実践のポイントと「テーマ」との関連

「元気が出る」要素は何かを考えかたちに起こしていく。その途中で先輩たちの表現や、Tシャツを受け取った子どもたちの言葉を味わう。そして自分自身の日常へも目を向け、自分ではない誰かの「思い」や「立場」を考えることができる未来の姿へ繋げる。これはテーマである学びを繋ぐために必要な過程であり、その成果と課題について述べていく。

2 実践の概要

(1) 題材について

2011年の東日本大震災後、美術を通し自分が何をできるかを考えた。そして、高校生たちが自分ではない誰かの「立場」や「思い」を「感じ」「考えて」いくことに行きついた。「元気が出る」デザインのTシャツを子どもたちに着てもらい、着ている本人だけでなく、それを見た周囲の人々も元気が出るようなデザインを考えるという内容である。

2011年4月からの制作では、生徒たちは日々流される情報から、思い思いの元気が出る要素をかたちに起こし作り上げた。その後このTシャツは、様々な方に助けていただき、岩手県釜石市の小学校へ届けることができた。11月、まだ混乱の続く中だった。しばらくしてTシャツを着た子どもたちの写真が送られてきた。生徒達は自分の作ったものが本当に着られていることに驚き、メッセージを伝えたことを実感できた様子だった。翌年からは、先輩たちの作品を見せ、受け取っていただいた先方からのメッセージを紹介し自分なりの「元気が出る」要素をかたちにしている。大変な中、Tシャツを受け取ってくださった双葉小学校へは、この夏も7回目の「元気が出るTシャツ」を届ける。

「元気が出るTシャツ」の制作は、先輩たちの作品を見て感じる事（鑑賞）、Tシャツ（メッセージ）を受け取った相手の言葉、様子を感じる事（鑑賞）から、自分なりの「元気が出る」要素をかたちに起こし（表現）メッセージをこめてつくる（表現）ことが、それぞれに独立して働くものでなく、お互い働きかけたり、働きかけられたりしながら、一体的に補って高まっていく活動である。

(2) 題材の目標

『自分ではない誰かの「立場」や「思い」を「こうだろうか」「こうかもしれない」と考えていくことは、世の中の平和につながるって、本気で思うんだよね』と伝えている。実際に見え、聞こえること以上のものを感じようとする力が自分たちにあることを、実感してほしいと願う。言葉以上に、メッセージを感じさせ伝えられるのだということ、作品を通して体験してほしいと願う。

(3) 評価規準

〔関心・意欲・態度〕自分の伝えたいメッセージを考える意欲を持つことができたか。

〔発想や構想の能力〕「元気が出る」要素が何かを考えることができたか。

〔創造的な技能〕「元気が出る」要素をかたちにおこすことができたか。

〔鑑賞の能力〕Tシャツを着る人、見る人のことを考えて制作することができたか。

3 指導計画（全6時間）

時	学 習 活 動
1	東日本大震災で被災した地域のボランティア活動に参加し、教員・生徒から写真を活用し報告をする。現状を知り、Tシャツをつくる目的を知る。
2	先輩達の作品、届け先の子どもたちからの写真・メッセージを見せる。自分なりの「元気が出る」要素のアイディアスケッチ（プリントのTシャツ枠に描きだしていく）。
3	
4	
5	Tシャツ（キッズサイズ130～150cm）実物大にあわせてデザイン画を描く。 7 カットアウト出来るようにデザイン画を改良する（個別指導）。
6	
7	
8	ステンシルシートに写す。 9 デザインカッターでカット。
9	
10	
11	着色練習（画用紙へ着色）。 12 スポンジを使いグラデーションの練習。 13
12	
13	
14	本番（Tシャツへ着色）。
15	
16	メッセージカード作成。 写真撮影（制作者がTシャツを持つ）。

4 実践の様子

- (1) 被災地報告：震災から6年が経過し、一昨年までは涙を目に浮かべ被災地報告に聞き入る生徒もいたが、ここ1～2年は以前のようにじっと聞き入る雰囲気はなくなった。被災地の現状は、やっと復興のスタートラインにたった状況も多くまだまだ支援の手を必要としている。実際にその土地を訪れ、直接お話を伺い、授業や生徒会活動の中で伝えてきた。震災の風化を感じる一方で、生徒の中には自分の目でも確かめ、自分に何ができるかを考えようと、震災ボランティアに参加する者が出てきている。また、美術部の取組みでは自発的に募金活動の企画も出てきた。
- (2) アイディアスケッチ：過去の先輩たちの作品を鑑賞後、プリントに発想を次々描いていく。アイディアを出す時に「元気が出る」要素を探し、考える。アイディアスケッチからは、被災地の人々に向けてだけではなく、やがて自分自身へ向かっていることが伝わってくる。励ましかったり、気持ちを奮い立たせるものだったり、癒しだったり、それぞれの「元気が出る」要素が描き出される。決して上手に丁寧に描くのではなく、湧き上がる発想を評価することを伝える。中には一つの発想をひたすら丁寧に描く生徒もおり、そういったゆるぎないまっすぐな姿勢、思いも大事にしたいことを伝える。

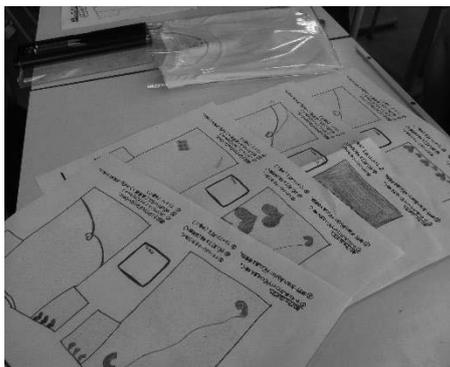


図1 元気が出る要素をかたちに起こす

- (3) イメージした色のシャツを注文する。がっちり決めてしまわずに多少思い通りの色でなくても、与えられたところで考える柔軟さを評価する。もちろんこだわることも大切だが。

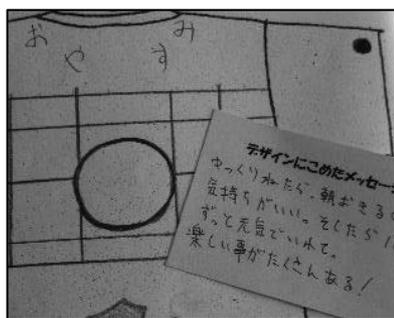


図2 色をイメージする

- (4) 実物大にスケッチする。それをカッティングできるよう改良する。仕上がりイメージに近くなるようカッティングデザインの改良を個別で指導する。
- (5) 着色練習（スポンジを使用。画用紙へ）。グラデーションの具合を確かめながら色を試す。
- (6) 着色本番（Tシャツへ） 図3



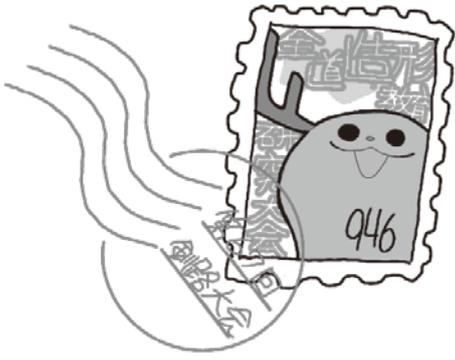
- (7) メッセージカードを作成し、Tシャツに添えて袋詰め後、届ける。図4



5 成果と課題

「先生、Tシャツってうちらも作れるの？」美術室に干されている制作中の「元気が出るTシャツ」をみて、1年生が投げかけてくれる言葉である。制作中の作品を見て、期待感を持ってくれる。つくってみたい思いが沸く。さらに、つくるとは言葉以上の何かを生み出し、伝える力があることを実感できることが課題である。より多くの場面を、こちらもつくっていききたい。

MEMO



			-				
--	--	--	---	--	--	--	--

各地区サークル活動報告



2017

Team Hokkaido

札幌市造形教育連盟



札幌大会 指導案検討会

平成28年5月14日～
新陵東小学校 その他

第一回目の5月14日には、とてもいい天気の中、40名の先生が集まりました。この日から、全9つの授業・実践発表について、具体的な話し合いがスタートしました。



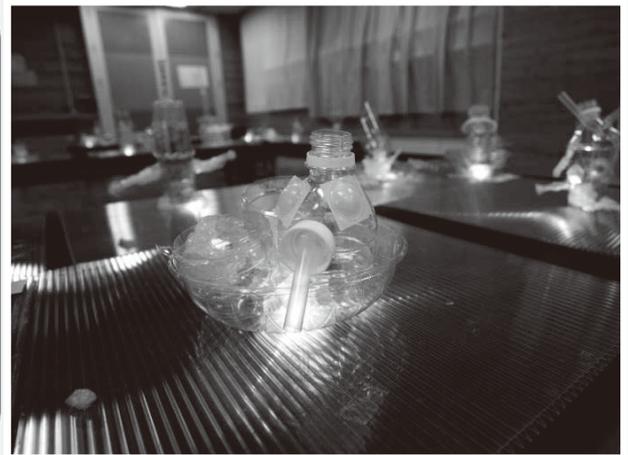
第66回全道造形教育研究大会 札幌大会

平成28年7月28日・29日
新陵東小学校



「“すき”が輝く造形活動」という大会テーマのもと、幼稚園、小学校、中学校の計9つのプレゼンテーション・授業・ポスター発表が公開されました。

2日目は全道各地から集まってきた仲間たちと一緒に、つくる「題材屋台村」を開催しました。14のブースが、それぞれの地区のカラーで出店されました。今年度は、地区のブースに加え、大学などにも参加していただきました。ご協力ありがとうございました！





石狩地区造形教育研究サークル

平成 28 年度 研究主題

「創造の喜びが生れるとき」

～「やってみたい」「こうしたい」「おもしろい～

○4月 石狩振総会 一次研究協議会(体制確立・計画)

○7月 理論研修会

○10月14日 石教研2次研究協議会

《石狩南線小学校・花川小学校・花川南中学校》

内容：授業交流

→小学校低・高・中学校の3つの授業を公開してもらい、交流を行った。

・小2 「つないでつるして～洗濯バサミを使って」

身近にある洗濯バサミを使い、つくった形をつるすことで、空間を利用した作品をつくり上げることができた。

・小6 「光るろうそく立てをつくろう」

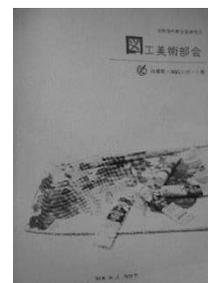
ワークシートを使い、自分の作品のイメージを書きながら想いを大切に活動していた。途中で光を灯してみるお試しコーナーや粘土に模様をつける様々な道具の用意など、子供の発想を膨らませる工夫が多くあった。

・中2 「オリジナルユルキャラをつくろう～プレゼン・コンペから～」

プレゼン資料をつくることで、どんなキャラクターの設定にするかをよく考えることができるようになり、クラスの特徴を活かした面白いキャラクターがたくさんできあがった。

作品レポート交流

→部会の先生方がそれぞれの作品を持ち寄り、作り方や必要な材料、子供の活動の様子など作品を見ながら交流した。



実践アトラクション

→分会ごとに簡単に作れる教材のブースを作り、実際に作りながら作り方を学んだ。

○1月 石狩の作品集発行

子供たちのたくさんの作品が掲載されている。作品の写真だけでなく、子供の言葉や教師のまなざしも書かれているため、どんな思い出作品をつくったのかがよくわかる。



平成28年度 活動報告

空知美術教育研究会

研究主題「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」
～基調 持ち寄り、語ることから始めよう～



空美（くうび）情報はFacebook
「空美のレシピ」で検索

5月 空美総会・研修会

OBで題材屋台「よろずや」を開催してくれている川村先生から「ストローヒンメリ」の紹介。道東（遠軽？）に旅した時に麦わらで作られていたものに出会い、アレンジして紹介してくれました。

この数週間後、川村先生は突然空に帰られました。

「子どもの作品を語る会」が始まった54年前当時の頃の思いのバトン、確かにつなげていきたいです。



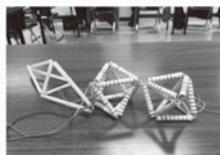
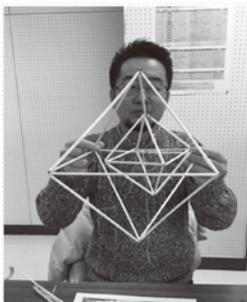
新春ゼミ 1月7日（毎年固定）

実技講座

「ストローでヒンメリづくり」

北欧の長い冬に、翌夏の小麦の収穫を願って作られた麦わらヒンメリ。

ストローと輸入小麦の麦わらヒンメリも作ってみました。



8月10日11日（毎年固定）

熱く美術教育を語る会

～深川市 アートホール東洲館

夏空の下 深川駅前広場にて
「障子紙アート！」
講師：宮城県 土屋聡先生

実践の交流・小中合同での「子どもの作品を語る会」
全道・道外から来られる方もあり。

コテージ宿泊有



第53回 全空知子どもの作品を語る会 岩見沢北村小大会 10月31日（月）

人形劇「ワンちゃん劇場」

こんな題材どうしたら？「出前！凶工室」3分野
こんな題材やってみたい！「題材屋台」3題材
ゴザにクラス全員の子どもの作品を中心に広げ語り合う…「子どもの作品を語る会」



第54回 全空知子どもの作品を語る会 浦臼小大会 10月31日（火）



上川造形教育研究会 昨年度の活動から

- 1 全道造形研究大会札幌大会における造形屋台への出店
- 2 第14回上川造形教育研究大会開催
平成28年12月9日(金) 当麻町立当麻小学校(参加者17名)

研究テーマ 『「わたし」の喜び』あふれる造形活動

～想像の喜びを実感できる造形活動をめざして～

公開授業 「何をかいているのかな？」
(日本文教出版) 小学5年生, 鑑賞
授業者 佐藤 仁彦

概要

教科書に掲載されている『自画像』(藤田嗣治, 1929)と『手紙』(オーギュスト・ルノワール, 19世紀)を鑑賞した。全校で行っている国語の研究で統一されている学習

規範を活用して, 児童がお互いに話し合いを進行させた。「つけたし」, 「ちょっとまって」, 「ちょっとちがって」といったコールや指を1本, 2本など発言の回数を表すハンドサインも用いており, 教師はほとんど口を挟まない。それでも, 藤田の『自画像』の細部まで観察して, 「描かれている猫がどや顔して, こんなこと考えているんじゃないか」などと想像していた。また, ルノワールの『手紙』では, 描かれている二人の女性の関係, 服装から生活を想像したり, 手紙の内容まで考えようとしていたりしていた。最後は, 教科書から離れ, 旭川市教育研究会図工・美術部で貸出ししている『風神雷神図屏風』を鑑賞した。じっくり間近で鑑賞するグループ, 動作化して表現するグループ, ストーリーを考えるグループなど, 思い思いの鑑賞を試みた。

名画の初めての鑑賞であり, 鑑賞することを楽しんでもらいたいという授業者のねらいは達成されていた。





研究テーマ 「わたしの喜び」あふれる造形活動 研究主題 創造の喜びを実感できる造形活動を目指して

旭川市教育研究会図工・美術部は、「広げる」研究と「深める」研究の2本の柱で年間事業を進めています。H31の全道造形教育研究大会に向けて今年度から新しい研究がスタートしました。

「広げる」研究

□ 彫刻巡回出前授業



地域連携アートプロジェクトの一環で実施している彫刻美術館との共同で行っている彫刻巡回出前授業です。実際に市内20校以上に出向き、彫刻の鑑賞を通して、彫刻の良さを伝えています。

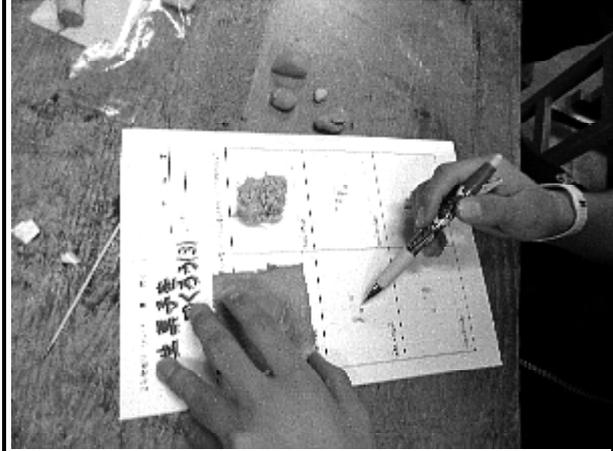
□ 実技研修会



外部の講師をお迎えして、写真実技研修会を実施しました。校舎内をカメラを通して、別の視点で見えてみることをしました。

「深める」研究

□ 授業研究



年に1回10月に公開研修会を行っています。研究テーマの元に組み立てられた授業を実施し、小中の連携なども意識した授業を行いました。写真は、和菓子の授業。



そして午後は、造形まつりミニということで、全道造形教育研究大会札幌大会で行った造形まつりの内容を旭教研図工・美術部会員に向けて実施しました。

旭教研図工・美術部の活動の詳細は、
造形 Online (<http://zoukeionline.web.fc2.com/>) で！

造形 Online



平成28年度 活動報告

函館市美術教育研究会

研究主題 夢・つくる・人～未来育む造形教育～

研究実践報告・実技研修会・美術館連携授業など



活動内容

鑑賞学習支援ツール・アートカード】を活用した授業公開の報告（約場中学校：櫻井純先生）

【視覚探偵になって作品のこえを見よう！（中学校1年生）】※函館美術館50選作品カードを使用
函館での中学校の授業実践第3弾を櫻井先生が公開してくださいました。今回は中学1年生です。



①課題の確認
「視覚探偵になって…」
TVドラマ名を使うことで
生徒の興味をひきます！

②まず、アートカードから一枚選ばせ、感じたことや気づいたことを付箋に書かせます。

③共通点を見つけたアートカードを、グループに分けます。
★【事実】（色・形・描いてある内容）の分類
★【印象】（わくわく・もやもやなど）の分類 で分類させることで、「事実」から「印象」を感じ取っていることに気づかせます。

印象についての語彙がなかなか出てこないという傾向もあったため、このようなカードも用意してありました。

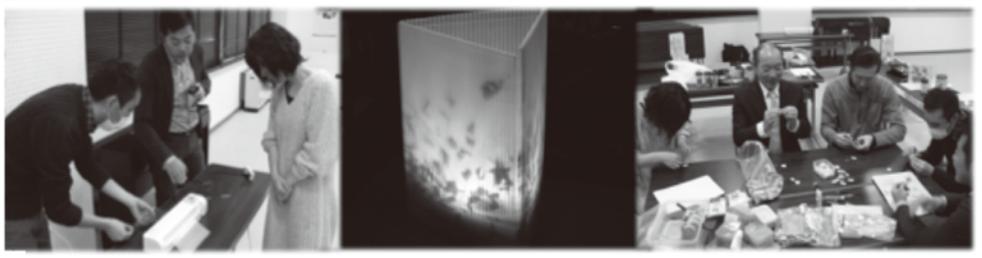
④自分が最初に選んだカードについてもう一度振り返り、事実から感じ取った印象を整理し、作者の意図を推理します。
グループで話し合うことで、より深く読み取ることができました。

- 4月23日 北海道造形教育連盟地区委員会出席
(ホテルライフオート札幌)
- 5月14日 総会、歓送迎会(ホテルテトラ)
- 6月4日 漁火遭防波堤壁画 撤去作業への協力
- 7月15日 実技研修会【臨時課題材(小ネタ)の研修会】
- 7月28日 第66回全道造形教育研究大会札幌大会参加
- 7月29日 全道造形教育研究大会札幌大会実技研修会参加
- 8月3日 美術指導者研修会、鑑賞学習支援ツール研修会
- 10月29日 授業公開(授業者:観法華小学校 木村伸也教諭)
【絵をバスルで楽しもう!〜アートバスルを活用した鑑賞〜(小2)】
- 11月16日~22日 函館市小中学校写生展(樟二森屋パート)
- 11月25日 授業公開(授業者:附置函館中学校 雷尾拓教諭)
【書家金子鶴亭の「線」〜アートカードを活用した鑑賞・表現〜(中3)】
- 12月8日 函館市教職員美術展 協力
- 12月20日 授業公開(授業者:磨光小学校 水島賢久教諭)
【バラバラ絵画を解読せよ〜アートバスルを活用した鑑賞〜(小6)】
- 1月12日 美術指導者研修会、鑑賞学習支援ツール研修会
- 2月4日 実技研修会【ステンドグラス風ランプシェード研修会】
- 2月4日 新年会(花鳥風月)
- 2月10日 授業公開(授業者:約場中学校 櫻井純教諭)
【視覚探偵になって作品のこえを見よう〜アートカードを活用した鑑賞〜(中1)】
- 2月11・12日 函館市児童生徒美術展(芸術ホールギャラリー)
- 2月28日 研究集録作成
- 3月中旬 役員会



函館市小中学校児童生徒美術展のご報告
2月11・12日に行われた函館市小中学校児童生徒美術展は、2日間で入場者数1,472名に達し、過去最高の入場者数を記録しました。たまたま、会期中に小学校のジョイントコンサートが芸術ホールで開催されたことも追い風となったようです。

実技研修会の様子から
2月4日(土)、昭和小学校にて実技研修会が行われました。かんたんにできる「ランプシェード」の制作を体験しました。また、後半、エコクラフト紙バンド(牛乳パックの再生素材)で作る「豆本マスコット」や、A6サイズの紙2枚で簡単にできる「2コママンガ」も体験することができました





研究主題
**「豊かに発想し
主体的に造形表現できる児童生徒の育成」**

2016年度 活動報告



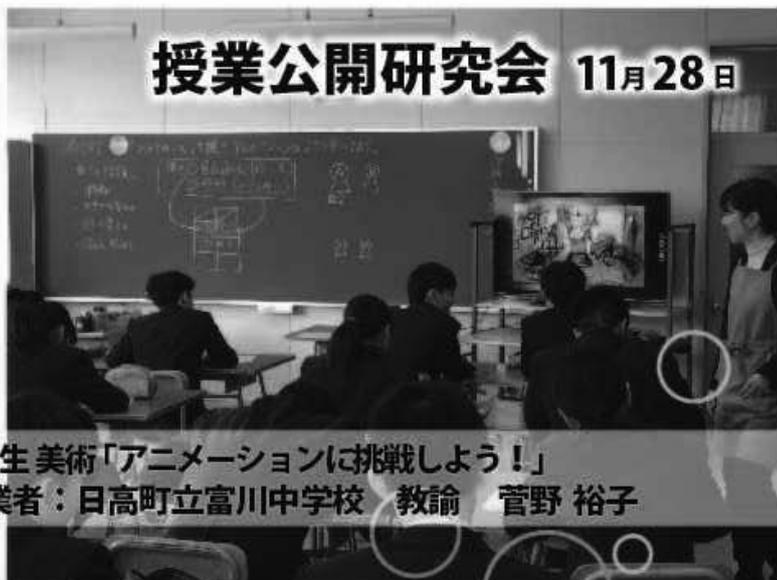
実技講習会 7月27日

水彩画「あんなところにはあんな色、こんなところにはこんな色」(日高教育研究所主催事業)
講師：浦河町立浦河第一中学校 校長 神成浩



授業後の話し合いの他、
作品を持ち寄り、実践交流も行いました。

つみきのいえ



授業公開研究会 11月28日

2年生美術「アニメーションに挑戦しよう！」
授業者：日高町立富川中学校 教諭 菅野 裕子

平成28年度 活動報告

研究テーマ「豊かな表現力の育成」

・研究サークル合同研究会 ・十勝子ども大会 ・美術館連携など

部員数 20名 ※小学校5名(管理職1名含む) 中学校15名(管理職1名含む)



十勝子ども大会(図工・美術作品展)

11/9～13 場所: 幕別町百年記念ホール

サークル員がほぼ全員集まるメインイベントです。
応募された1461点(小935/中526)を審査し、絵画・
工作・工芸・彫刻・版画・デザイン、347点を展示し
ました。

第46回十勝管内教育研究 サークル合同研究会

「木彫の壁飾り」

11/15 山田良純 教諭
(芽室西中学校 2学年)

浮き彫りの技法を、模型などを
使い、子どもたちが「わかる・
できる」内容の公開授業。その
後の事後研で、各サークル員の
授業作品を持ち寄り、交流しま
した。

形する場所の
り彫り下げる
業記録を参考
柄を描き足し
字を造形して
全体を彫り進
の作業は一



帯広市教育研究会

図工美術部会

部会員 72 名 所属校 小学校 20 校 中学校 12 校

2017



Team Hokkaido

帯広市教育研究会図工美術部会

研究テーマ 豊かな心をはぐくむ造形教育



作品交流研修

帯広市教育研究会図工美術部会は帯広市内 40 校のうち、32 校、72 名が所属する部会です。

年 3 回の作品交流研修では毎回活発な意見交換がなされています。造形活動を通じ、児童生徒の豊かな感性。豊かな心をはぐくまれることを願って活動しています。

帯広市小中学校造形展

約 2000 点の児童生徒作品を展示





平成 29 年度 活動報告

釧路造形教育研究会

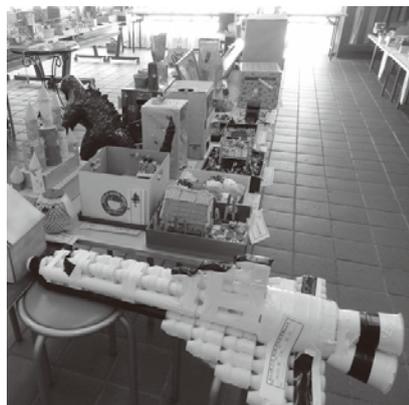


主体的に「つくる」「見る」児童生徒の育成
～ 私を「つなぐ」造形活動の時間 ～



湯浅大吾先生（札幌市立三角山小学校教諭・北海道造形教育連盟研究部長）を講師に迎え、『図工の授業のつくりかた』と題し、図画工作の指導法や作品の見方をご講演頂き、多くの先生方が参加しました。

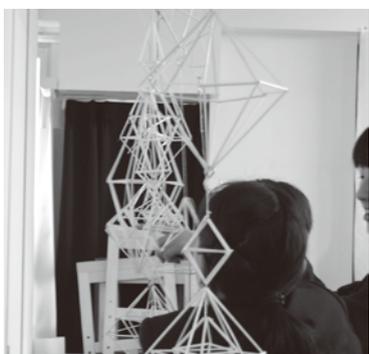
造形教育理論研修会



造形展は、釧路管内の小中学生の立体作品を、小中美術展は、釧路市内の小中学生の平面作品を展示しました。子ども達の作品の交流の場となっています。



釧路造形展・小中美術展



北海道教育大学附属釧路中学校や釧路市立武佐小学校などで、研究授業を行った他、全道大会に向け、様々な取り組みを行ってきました。

研究授業（附属中・武佐小）



個・創・喜・感

～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～

平成 28 年度

オホーツク ゴジラ 造形教育連盟の取組

総面積 10,689 ㎢、海岸線は全長 278 ㎞の広大なオホーツク管内は、その外観からゴジラの姿に置き換え、各市町村の位置を紹介することがあります。

平成 28 年度 オホーツク造形教育連盟は、少数精鋭ではありますが、会員がその世界最大のゴジラの体をくまなく駆け巡り、つくる喜びを各地の先生と共有しあう活動を行ってきました。



①6/17 実技研修「ペーパークイリング・光の箱」

【ゴジラのわき腹】湧別町立開盛小学校 教諭 塩浦 亜紀

②9/28 園内研究会「おまつりごっこ」全園児

【ゴジラの大事な所】訓子府町認定子ども園 わくわく園

③11/4 授業公開・実技研修「カトラリー作り（寄木木工）」2学年

【ゴジラの尻尾の付け根】網走市立第三中学校教諭 小久保 哲哉

④12/19 地域公開「ふるさと絵本づくり」全児童

【ゴジラの喉元】西興部村立西興部小学校 絵本作家 本田 哲也 氏



2017年 研究主題
ひとり一人の持ち味を伸ばす造形教育
 ～生活にいきる美術教育をめざして～



根室教育研究会 冬の教育フェスティバル



根室教育研究会 冬の教育フェスティバルに参加。
 実技講座 「さまざまな技法を使って」の講座。
 根室美術研究会会員が講師となり、毎年講座を開き参加している。小学校の先生に図画工作でも使えるネタや図画工作の楽しさを知ってもらうための教材を提供することを第一にして、実技体験する機会。ここ数年継続して講座を開設したことで、毎年参加していただける先生もいるほど。
 今年は同じ絵でも背景によって描かれた絵の表情がガラッと違うことを体験していただきました。細々とではありますが、少しでも多くの先生方に美術の魅力を伝えることで、その先生がたに教えられる子どもも作り出す魅力を感じて欲しいと願ってこれからも継続していきたい。

生活の中で美術を
 感じる空間をめざして



生徒作品



体育祭、式典など行事の中で空間を演出



地域の画廊と連携して

造形教育連盟会員で昨年オープンした画廊の所蔵品を観させていただきました。その後、貴重な絵画を貸していただき鑑賞授業で使用するなど活用させていただきました。今後も続けて連携していきたい！



身近な生活の中のデザインに焦点を当てそこから学ぶこと。場に応じた空間をデザインすること、相手の立場に立ってデザイン制作、設置する空間づくり。
 周りの環境をデザインすることで変わる心の動きなどを体験することで創ることの意義を学ぶ機会を大切にしていきたい。

MEMO



			-				
--	--	--	---	--	--	--	--

資 料



北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道の造形教育の振興を図るをもって目的とする

2. 事業

本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う

- ①研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
- ②造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
- ③会報の発行
- ④他造形教育団体との連絡提携
- ⑤その他、本連盟の目的達成に必要と認められる事項

3. 会員

会 員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員

賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

4. 組織

地区サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する

本 部 本連盟の本部は、札幌に置く

5. 構成及び任務

①役員

会 長 1 名 本連盟を代表する

副 会 長 若干名 会長を補佐する

会計監査 2 名 会計の監査をする

②委員

地区委員長 地区 1 名 地区サークルを代表する

地区委員 地区 1 名 地区サークルの連絡調整にあたる
(地区委員は、地区委員長を兼務してもかまわない)

常任委員 若 干 名 会長が委嘱し、本連盟の運営に当たる

顧 問 連盟の重要な問題につき意見を述べる

③部長

各部推進の要として常任委員より会長が委嘱し、会務の分掌及び執行にあたる

6. 選 任

会長、副会長、会計監査は委員総会で選出する

地区委員長及び地区委員は、地区サークルで選出する

常任委員は会長の委嘱による

顧問は委員総会において委嘱する

7. 任 期

役員及び委員の任期は1 年とする、但し再任を妨げない

8. 会 議

総 会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する

委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する

役員を選出、予算、決算及び事業の年度計画等につき審議する

常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する

役 員 会 会長、副会長、事務局長、会計により構成し、必要に応じ会の運営について協議する

部 長 会 本部役員、各部部長により構成し、必要に応じ各部事業等についての連絡調整を行う

9. 会 計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する

会 費 会員は、一人 年額2, 0 0 0円を納入するものとする

地区サークルは、年額1 0, 0 0 0円を納入するものとする

10. 事務局

事務局は事務局長在勤の学校に置く

事務局長は常任委員中より会長が委嘱する

事務局には必要に応じで各部を設け、業務を分担する

事務局に事務局次長、会計担当を置く

11. 年 度

本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる

12. 規約の改廃

規約の改廃に当たっては特別委員会(規約改正委員会)を設け、規約改正案を総会に提出する

本規約の改廃は委員総会の決議による

(平成6年4月29日改訂)

(平成19年4月28日改訂)

(平成21年4月総会にて改訂)

全道造形教育研究大会のあゆみ

年	回	開催地	テ - マ	委 員 長 会 長	備 考
1949年			(札幌美術連盟組織 全国図画工作教育講習会)		
1951年	第1回	札幌	情操教育の一環としての本道図画工作教育の進展を図るため	初代 野村 英夫	北海道美術教育会と改称 第1回全道図画工作教育研究集会
1952年	第2回	札幌	図画工作教育の新思想である創造主義美術教育の諸問題について		北海道図画工作連盟創立
1953年	第3回	旭川	美術教育の指導とは何か		
1954年	第4回	函館	図画工作教育実践上の諸問題について		
1955年	第5回	釧路	図画工作教育における学習指導上の問題の解明		
1956年	第6回	札幌	造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか		
1957年	第7回	室蘭	のぞましい造形教育における具体的諸問題について		
1958年	第8回	小樽	図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか		
1959年	第9回	帯広	新段階における造形教育のあり方		北海道造形教育連盟と改称
1960年	第10回	網走	本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう		
1961年	第11回	滝川	子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか		
1962年	第12回	名寄	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1963年	第13回	余市	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1964年	第14回	札幌	子どもの創造能力とは何か	第2代 新妻 清	
1965年	第15回	稚内	子どもの創造能力とは何か		
1966年	第16回	室蘭	子どもの創造能力とは何か	第3代 赤石 武士	
1967年	第17回	函館	指導の構築を具体化する		
1968年	第18回	苫小牧	指導の構築を具体化する		
1969年	第19回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第4代 和田 芳郎	
1970年	第20回	旭川	ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか		
1971年	第21回	札幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第5代 伊東 将夫	
1972年	第22回	帯広	未来に生きる子どもの造形教育 (生活に根ざした造形教育をどう高めるか)	第6代 高橋 栄吉	
1973年	第23回	室蘭	未来に生きる子どもの造形教育 (たしかな表現力をどのように育てるか)		
1974年	第24回	美幌	未来に生きる子どもの造形教育 (ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか)		第1回教育美術展
1975年	第25回	江別	未来に生きる子どもの造形教育 (自ら創り出す力をどう育てるか)		
1976年	第26回	岩見沢	未来に生きる子どもの造形教育 (すべての子どもに造形のよろこびを)		第1回立体造形展
1977年	第27回	札幌	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践		
1978年	第28回	函館	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践 (すべての子どもが生き生きとくむ学習)	第7代 辻 悦平	
1979年	第29回	旭川	生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方		
1980年	第30回	苫小牧	ひろがりやと深まりの造形教育を求めて		
1981年	第31回	釧路	創りだす心をよびおこす造形教育		
1982年	第32回	室蘭	見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを	第8代 遠藤 久男	
1983年	第33回	留萌	生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動		

年	回	開催地	テ - マ	委員 長 会 長	備 考
1984年	第34回	札幌	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (わきたつ発想・たしかな表現・つくりだす喜び)	第9代 種市誠次郎	
1985年	第35回	函館	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (心をこめてつくりだす子どもを育てる)		
1986年	第36回	旭川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (つくる心のひろがり求めて)	第10代 森川 昭夫	第39回全国造形教育研究大会を かねる
1987年	第37回	紋別	子どもの心をゆり動かす造形教育 (表現のよこびにひたる子どもを育てる)	第11代 松島 輝男	
1988年	第38回	滝川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (ひたむきに創る心を育てる)		
1989年	第39回	帯広	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (君はいま創造のとりこに)	第12代 金井 秀男	
1990年	第40回	苫小牧	広がり、深まり、そして感動を！		
1991年	第41回	札幌	子どもの個性的表現を授ける造形教育 (子どものつくる喜びをひらく)	第13代 佐々木理温	
1992年	第42回	函館	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (感動、そして創造する喜びを)		
1993年	第43回	旭川	思いをあたため心をはぐませる創る喜びを	第14代 鹿嶋 健	
1994年	第44回	釧路	心ときめく、創造の喜びを求めて		
1995年	第45回	千歳	豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を	第15代 船着 昭弘	
1996年	第46回	札幌	～造形＝愛感美遊創 in 札幌～ 自らの心を拓く造形学習の在り方	第16代 白井 罔毅	
1997年	第47回	根室	感性から発し躍動する力を育む造形学習を！	第17代 吉田 俊雄	
1998年	第48回	留萌	楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し寄り 添う指導	第18代 芝木 秀昭	
1999年	第49回	オホーツク	オホーツク発 思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～		
2000年	第50回	函館	心の風景(ビジョン)の発信を！ ～豊かな自分づくりを生かす想創活動～		
2001年	第51回	札幌	風よ、大地よ、夢よ、北からはじまる造形の未来 ～(いま)(ここ)(わたし)を基軸にして造形の未来をつくる		第54回全国造形教育研究大会を かねる
2002年	第52回	帯広	広い大地に紡ぐ夢 豊かな感性をはぐくむ造形教育	第19代 藤井 正治	
2003年	第53回	空知	つくる喜びを実感できる造形教育		
2004年	第54回	旭川	豊かに感じ、おもいをふくらませあrawす喜びを 生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～	第20代 富田 泰	
2005年	第55回	函館	めざめる感性(こころ)きらめく個性(かたち) 地域空間がいざなう造形活動のひろがり	第21代 今 裕子	
2006年	第56回	札幌	楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育		
2007年	第57回	釧路	「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて ～つくる喜び、感動する心をつなげていく造形教育～		
2008年	第58回	北広島	豊かな心と確かな力を育む造形教育を！	第22代 菅原 清貴	
2009年	第59回	上川・旭川	身体で感じ・心はずませ・創造する喜びを ～「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて		規約改正により委員長を会長に 改称
2010年	第60回	函館	創造!ときめき!実感! ～感性と知性の出会い心うのおす造形活動～		
2011年	第61回	札幌	“わたし”を創る ～自立と共生の造形教育をめざして～		第64回全国造形教育研究大会を かねる
2012年	第62回	帯広	つくるとき・つながるとき ～豊かな心をはぐくむ造形教育～	第23代 稲實 順	
2013年	第63回	石狩	豊かな心と確かな力を育む造形教育 ～子どもの「こうしたい!」があふれる授業を通して～		
2014年	第64回	上川・旭川	『わたし』の喜び』あふれる造形活動	第24代 安木 尚博	
2015年	第65回	函館	夢・つくる・人 ～未来をはぐくむ造形教育～	第25代 三井 哲	
2016年	第66回	札幌	“すき”が輝く造形活動		
2017年	第67回	釧路	わたしをつなぐ造形活動の時間 ～想いを豊かに育む造形活動の展開～	第26代 阿部 時彦	

平成 29 年度 北海道造形教育連盟役員名簿

会 長	阿 部 時 彦	札幌市立真駒内曙中学校
副 会 長	小 野 三枝子	釧路市立共栄小学校
〃	山 田 浩 人	江別市立江別第一中学校
〃	吉 中 博 道	士別市立多寄小学校
〃	柿 崎 雄 二	函館市立東山小学校
〃	森 長 弘 美	札幌市立前田北中学校
監 査	杉 山 浩 彰	釧路市立青陵中学校
〃	鎌 田 俊 博	岩見沢市立明成中学校
事 務 局 長	東 尚 典	札幌市立有明小学校
事 務 局 次 長	川 島 正 夫	札幌市立新琴似小学校
〃	箭 内 浩 之	札幌市立みどり小学校
〃	櫻 田 悟	札幌市立緑丘小学校
〃	寺 田 実	札幌市立真栄中学校
〃	平 井 步	札幌市立啓明中学校
会 計	福 島 由紀子	札幌市立西岡北小学校
会 計 次 長	八 田 博 之	札幌市立富丘小学校
庶 務 部 部 長	森 久 根	札幌市立西野小学校
庶 務 部 副 部 長	黒 川 友 理	札幌市立栄西小学校
広 報 部 部 長	小 林 知 広	札幌市立手稲山口小学校
広 報 部 副 部 長		
(ホームページ担当)	佐 藤 和 音	札幌市立伏見小学校
研 究 部 部 長	湯 浅 大 吾	札幌市立三角山小学校
研 究 部 副 部 長		
(研 究 部 門)	中 村 珠 世	北海道教育大学附属札幌小学校
(ネットワーク部門)	館 内 徹	札幌市立西岡中学校
(研 修 部 門)	石 川 早 苗	札幌市立八軒東中学校
(教 美 展 部 門)	濱 口 裕 子	札幌市立石山南小学校
顧 問	阿 部 賢 一	北見市
〃	阿 部 宏 行	札幌市
〃	石 井 久	函館市
〃	伊 藤 恵	札幌市
〃	伊 藤 英 明	札幌市
〃	伊 藤 正 敏	札幌市
〃	伊 藤 善 彬	札幌市
〃	稲 實 順	札幌市
〃	繪 面 和 子	函館市
〃	岡 澤 邦 彦	札幌市
〃	金 井 秀 男	札幌市
〃	桑 田 正 博	江別市
〃	今 裕 子	札幌市
〃	近 藤 貢	函館市

顧	問	齊藤隆博	帯広市
	"	佐藤吉五郎	札幌市
	"	佐藤靖	札幌市
	"	櫻田豊	札幌市
	"	芝木秀昭	札幌市
	"	島田茂	札幌市
	"	庄栄一	札幌市
	"	白井囧毅	江別市
	"	菅原清貴	札幌市
	"	菅原良和	旭川市
	"	角力山旭	札幌市
	"	関建治	恵庭市
	"	武田誠	亀田郡七飯町
	"	多田紘一	札幌市
	"	塚野昭臣	札幌市
	"	土谷敬	函館市
	"	寺嶋文憲	札幌市
	"	寺本吉明	河西郡芽室町
	"	出村保	留萌市
	"	伝住修一	江別市
	"	土井勝典	石狩市
	"	土井善範	札幌市
	"	富田賢司	札幌市
	"	富田泰	札幌市
	"	墓田充泰	札幌市
	"	橋詰博	札幌市
	"	早弓弘行	滝川市
	"	藤井正治	江別市
	"	宝輪勝巳	釧路市
	"	松島輝男	札幌市
	"	三谷哲司	札幌市
	"	三井哲	札幌市
	"	村瀬千櫻	札幌市
	"	安木尚博	札幌市
	"	山口長伸	別海町
	"	吉田倭雄	札幌市
	"	米谷哲夫	札幌市
	"	若竹隆邦	函館市

各地区サークル (地区代表・地区委員・ネットワーク担当者)

	サークル名・役名	氏 名	市町村	勤務校	郵便番号	学校住所	学校電話	
札幌	札幌市造形教育連盟							
	会 長	加藤 雅子	札幌市	栄東小	長	004-0841	札幌市清田区清田 1 条 4 丁目 3-30	011-881-2852
	事務局長	藤森 久美	札幌市	前田中央小	長	006-0818	札幌市手稲区前田 8 条 12 丁目 2-1	011-681-4811
	ネットワーク担当	矢野 宜利	札幌市	北都小		003-0833	札幌市白石区北郷 3 条 11 丁目 7-1	011-874-3014
道	石狩造形教育連盟							
	委 員 長	山田 浩人	江別市	江別第一中	長	067-0063	江別市上江別西町 40	011-383-0011
	事務局長	山口 浩	石狩市	南線小	長	061-3203	石狩市花川南 3 条 1 丁目 18	0133-73-2042
	ネットワーク担当	高橋 文乃	北広島市	大曲小		061-1273	北広島市大曲柏葉 2 丁目 14-6	011-376-2253
道	空知美術教育研究会							
	会 長	鎌田 俊博	岩見沢市	明成中	頭	068-0829	岩見沢市かえで町 1 丁目 1-1	0126-24-3485
	事務局長	舘山 唯郎	美唄市	茶志内小		079-0266	美唄市茶志内本町	0126-65-2120
	ネットワーク担当	桔梗智恵美	芦別市	芦別小		075-0012	芦別市北 2 条東 1 丁目 1	0124-22-2573
	後志教育研究会函工美術部会							
	委 員 長	嶋影 哲弥	小樽市	入船小		047-0021	小樽市入船 3 丁目 19-1	0134-23-5296
道	上川造形教育研究会							
	会 長	吉中 博道	士別市	多寄小	長	098-0475	多寄町 37 線西 2	0165-26-2151
	事務局長	佐藤 仁彦	当麻町	当麻小		078-1313	当麻町 3 条東 3 丁目 13-1	0166-84-2020
	ネットワーク担当	庄子 展弘	上富良野町	上富良野中		071-0553	旭町 1 丁目 1-5	0167-45-2072
道	旭川市教育研究会函工美術研究部							
	委 員 長	成田 慎司	旭川市	明星中		070-0025	旭川市東 5 条 1 丁目	0166-26-0468
	事務局長・ネットワーク担当	吉野 法行	旭川市	第二中		078-8340	旭川市東旭川町共栄 284	0166-31-2519
道	留萌地方美術教育研究会							
	会 長	村元 隆一	留萌市	留萌小	頭	077-0038	留萌市寿町 2 丁目 10	0164-42-1720
	事務局長	小澤なつき	留萌市	留萌小		077-0038	留萌市寿町 2 丁目 10	0164-42-1720
	ネットワーク担当	米澤 卓也	天塩町	天塩中		098-3312	川口 5705	01632-2-1522
道	渡島美術教育研究会							
	会 長	船橋 恭二	八雲町	八雲小	頭	049-3111	八雲町住初町 140	0137-63-2101
	幹事長・ネットワーク担当	高島 純	森町	森中		049-2311	森町上台町 326-1	01374-2-2406
道	函館市美術教育研究会							
	会 長	柿崎 雄二	函館市	東山小	頭	041-0835	函館市東山 2 丁目 3-1	0138-53-5531
	幹 事 長	木村 伸仁	函館市	榎法華小		041-0601	函館市新八幡町 86-1	0138-86-2051
	ネットワーク担当	佐々木壮一	函館市	深堀中		042-0941	函館市深堀町 28-1	0138-52-2682
道	檜山管内造形教育研究会							
	会 長	晴山 泰史	上ノ国町	河北小	長	049-0624	上ノ国町中須田 920-6	0139-55-2151
	事務局長	吉川 聖	江差町	南が丘小	頭	043-0063	江差町南浜町 370	0139-52-0524
	ネットワーク担当	山本 裕子	今金町	今金小		049-4302	今金町今金 108	0137-82-0224
道	胆振造形教育研究会							
	会 長	佐竹 秀行	苫小牧市	啓北中	長	053-0854	苫小牧市啓北町 2 丁目 12-11	0144-72-7245
	室蘭市教育研究会造形部							
	部 長	山代 直美	室蘭市	蘭北小		050-0063	室蘭市港北町 4 丁目 13-1	0143-58-1125
道	苫小牧市教育研究会造形研究部会							
	部 会 長	盤木 里美	苫小牧市	美園小		053-0041	苫小牧市美園町 4 丁目 26-2	0144-34-3013
	幹 事 長	西出亜紀子	苫小牧市	苫小牧西小		053-0803	苫小牧市八代町 3 丁目 7-16	0144-72-6441
道	日高造形教育研究会							
	会 長	神成 浩	浦河町	浦河第一中	長	057-0033	浦河町堺町東 6 丁目 485-6	0146-22-2357
	事務局長	菅野 裕子	日高町	富川中		055-0001	日高町富川北 7 丁目 3-6	01456-2-0026
	ネットワーク担当	岩崎 愛彦	日高町	日高小	頭	055-2307	日高町松風町 2 丁目 254	01457-6-2620

	サークル名・役名	氏名	市町村	勤務校	郵便番号	学校住所	学校電話	
道 東	十勝造形サークル							
	委員長	石割 章浩	新得町	新得中	長	081-0034	新得町西4条南1丁目1	0156-64-5621
	副委員長	服部 和樹	中札内村	中札内小	長	089-1341	中札内村東1条南7丁目2番地	0155-67-2010
	事務局長・ネットワーク担当	村中 鉄也	広尾町	広尾中		089-2624	広尾町並木通東1丁目11番地	01558-2-2089
	帯広市教育研究会図工美術部会							
	委員長	辻 敦郎	帯広市	第四中	長	080-0015	帯広市西5条南25丁目1	0155-24-3511
	部長	黒田 正則	帯広市	第四中	頭	080-0015	帯広市西5条南25丁目1	0155-24-3511
	事務局長・ネットワーク担当	梅津 美香	帯広市	西陵中		080-0028	帯広市西18条南2丁目2	0155-33-3007
	釧路造形教育研究会							
	委員長	小野三枝子	釧路市	共栄小	長	085-0006	釧路市双葉町4番17号	0154-23-1695
	事務局長	杉山 浩彰	釧路市	青陵中		085-0814	釧路市緑ヶ岡6丁目9番42号	0154-46-1161
	ネットワーク担当	更科 結希	釧路市	附属釧路中		085-0805	釧路市桜ヶ岡7丁目12番2号	0154-91-6812
	オホーツク造形教育連盟							
	委員長	小野寺哲浩	北見市	錦水小	長	093-0215	北見市常呂町字岐阜329番地	0152-54-2391
	事務局長	小久保哲哉	網走	第三中		093-0042	網走市字潮見188番地	0152-44-8738
	ネットワーク担当	塩浦 亜紀	湧別町	開盛小		099-6503	湧別町開盛462-3	01586-2-5204
	根室造形教育連盟							
	委員長	大溝 雅之	中標津町	計根別学園		088-2682	計根別本通東8丁目1-2	0153-78-2052
事務局長	外川 篤司	中標津町	中標津小		086-1129	中標津町西9条北1丁目2	0153-72-2565	
ネットワーク担当	安井加奈子	中標津町	広陵中		086-1010	中標津町東10条南7丁目1	0153-73-3161	

□ 地区サークルのない管内

道 北	宗谷管内 個人会員	遠藤 大輔	稚内市	稚内南中	097-0004	稚内市緑1丁目2561	0162-23-4128
--------	--------------	-------	-----	------	----------	-------------	--------------

北海道造形教育連盟事務局

札幌市立有明小学校

〒004-0821 札幌市清田区有明141-2 TEL 011-881-2949 FAX 011-881-9074

事務局長（校長） 東 尚 典

HP アドレス <http://hokuzou.kir.jp>

eメール hisanori.azuma@city.sapporo.jp

第 67 回 全道造形教育研究大会 釧路大会 運営名簿

大会長	阿部 時彦 (札幌市立真駒内曙中学校長)	
副大会長	山田 浩人 (江別市立江別第一中学校長)	吉中 博道 (士別市立多寄小学校長)
"	柿崎 雄二 (函館市立東山小学校教頭)	森長 弘美 (札幌市立前田北中学校長)
顧問	渋谷 弘志 (釧路造形教育研究会)	中島 欣也 (釧路造形教育研究会)
"	宝輪 勝己 (釧路造形教育研究会)	中島 郁子 (釧路造形教育研究会)
"	奥田 泰朗 (釧路造形教育研究会)	
実行委員長	小野三枝子 (釧路市立共栄小学校長)	
副実行委員長	森 富輝 (釧路市立北中学校)	内山 博之 (釧路市立大楽毛中学校)
事務局長	杉山 浩彰 (釧路市立青陵中学校)	
事務局次長	森川 沙織 (厚岸町立真龍中学校)	
事務局員	里見 勝之 (釧路市立釧路小学校)	伊藤 恵理 (釧路市立釧路小学校)
"	加藤 和江 (釧路市立芦野小学校)	長谷川成佳 (釧路市立鳥取中学校)
"	山崎 忍 (釧路市立青陵中学校)	田越 智保 (釧路市立鳥取西中学校)
"	免田まゆみ (釧路町立遠矢中学校)	高橋 潤 (釧路北陽高等学校)
"	高橋 則美 (釧路明輝高等学校)	
研究部部長	更科 結希 (北海道教育大学附属釧路中学校)	
研究部員	加藤 史絵 (認定こども園よしの)	澤原 大 (認定こども園よしの)
"	安田みゆき (北海道キリスト教学園湖畔幼稚園)	高野 恵輔 (釧路市立共栄小学校)
"	若林 亘 (釧路市立鳥取西小学校)	日野 道子 (釧路市立武佐小学校)
"	中島 愛 (厚岸町立厚岸小学校)	橋本 加会 (釧路市立共栄中学校)
"	上野 秀実 (釧路江南高等学校)	竹本 万亀 (釧路東高等学校)
事業部部長	中谷内 遵 (釧路市立景雲中学校)	
事業部副部長	葛西 新吾 (釧路市立春採中学校)	
事業部	工藤 映美 (認定こども園よしの)	羽鳥 美乃 (認定こども園よしの)
"	阿部 聖加 (認定こども園よしの)	濟藤 奈美 (北海道キリスト教学園湖畔幼稚園)
"	平賀 夕紀 (北海道キリスト教学園湖畔幼稚園)	阿部 孝彦 (釧路市立桜が丘小学校)
"	登藤 和徳 (釧路市立鳥取小学校)	井上けいこ (釧路市立愛国小学校)

事業部	齋藤 洋恵 (釧路市立愛国小学校)	登藤 珠実 (北海道教育大附属釧路小学校)
"	佐藤 裕人 (厚岸町立高知小学校)	中島 健朗 (浜中町立茶内小学校)
"	大沼 優香 (釧路市立桜が丘中学校)	坂本 香織 (釧路市立美原中学校)
"	森藤 綾子 (釧路町立富原中学校)	
会場校	森口 暢宏 (釧路市立共栄小学校教頭)	
"	三戸 勇二 (釧路市立共栄小学校)	阿部奈都美 (釧路市立共栄小学校)
"	熊谷 麻美 (釧路市立共栄小学校)	門間 裕子 (釧路市立共栄小学校)
"	木元 美聡 (釧路市立共栄小学校)	伊藤 麻衣 (釧路市立共栄小学校)
"	増田 恭平 (釧路市立共栄小学校)	大野 志乃 (釧路市立共栄小学校)
"	水上 翔 (釧路市立共栄小学校)	佐藤 尚子 (釧路市立共栄小学校)
"	石崎千恵子 (釧路市立共栄小学校)	谷口 敬太 (釧路市立共栄小学校)
"	玉田 勝喜 (釧路市立共栄小学校)	桐村 優子 (釧路市立共栄小学校)
"	佐野 大輔 (釧路市立共栄小学校)	岡本 早希 (釧路市立共栄小学校)
"	鈴木 健 (釧路市立共栄小学校)	高垣 光子 (釧路市立共栄小学校)
"	菊地 直子 (釧路市立共栄小学校)	松村 敏樹 (釧路市立共栄小学校)
"	藤原 裕子 (釧路市立共栄小学校)	村上 温子 (釧路市立共栄小学校)
"	水野三枝子 (釧路市立共栄小学校)	武田みゆき (釧路市立共栄小学校)
"	吉田美代子 (釧路市立共栄小学校)	青柳 麻里 (釧路市立共栄小学校)
"	下橋有理子 (釧路市立共栄小学校)	中川 美夏 (釧路市立共栄小学校)
"	本間 裕子 (釧路市立共栄小学校)	宇野孝一郎 (釧路市立共栄小学校)
"	原田 真司 (釧路市立共栄小学校)	所 麻由子 (釧路市立共栄小学校)

第 67 回 全道造形教育研究大会 釧路大会
—大会要項・研究紀要—

2017 年 7 月 27 日発行

発 行 者 釧路造形教育研究会
代 表 会長 小野三枝子
事 務 局 釧路市立青陵中学校 事務局長 杉山 浩彰
TEL (0154) - 46 - 1161
印刷・製本 株式会社 藤プリント 釧路市栄町 10 丁目 3 番地
TEL (0154) - 22 - 9311

